呪霊GO

新グロモント

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

日本人ならではのアプローチで呪霊との共存に挑戦する。

非呪術師だからといって、呪術師に劣るわけでない事を証明してみせる男達のお話。

人を呪わば穴二つ…文字通り穴を増やすそんな流れのお話です。

目次

01．特級呪霊の作り方 ―― 1
02．特級呪霊コッコロ～主さま～（1） ―― 4
03．特級呪霊コッコロ～主さま～（2） ―― 8
04．特級呪霊カシマ～有明の女王～（1） ―― 11
05．特級呪霊カシマ～有明の女王～（2） ―― 16
06．閑話～未来に生きる国～ ―― 19
07．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（1） ―― 21
08．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（2） ―― 24
09．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（3） ―― 27
10．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（4） ―― 30
11．閑話～伏黒恵～ ―― 35
12．特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ～その胸で聖女は無理がある
でしょう～（1） ―― 40
13．特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ～その胸で聖女は無理がある
でしょう～（2） ―― 45
14．特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ～その胸で聖女は無理がある
でしょう～（3） ―― 49
15．閑話～サイバーダイン・システムズ～ ―― 54
16．閑話～三輪霞～ ―― 58
17．呪胎九相図（1） ―― 63
18．呪胎九相図（2） ―― 66
19．呪胎九相図（3） ―― 69
20．呪胎九相図（4） ―― 72
21．閑話～非呪術師～ ―― 77

２２．閑話～呪術業界～ ―――― 80
２３．特級呪霊ライザリン・シュタウト～　お前のような家庭教師がいるか～（１） ―――― 84
２４．特級呪霊ライザリン・シュタウト～　お前のような家庭教師がいるか～（２） ―――― 88
２５．特級呪霊ライザリン・シュタウト～　お前のような家庭教師がいるか～（３） ―――― 91
２６．閑話～信じて送り出した呪霊がＮＴＲれた男～ ―――― 95
２７．メカ丸（１） ―――― 98
２８．メカ丸（２） ―――― 101
２９．閑話～オフ会～ ―――― 105
３０．閑話～獄門疆～ ―――― 110
３１．渋谷事変（１） ―――― 114
３２．渋谷事変（２） ―――― 117
３３．渋谷事変（３） ―――― 120
３４．渋谷事変（４） ―――― 123
３５．渋谷事変（５） ―――― 126
３６．渋谷事変（６） ―――― 129
３７．渋谷事変（７） ―――― 132
３８．渋谷事変（８） ―――― 136
閑話～渋谷事変Ａｆｔｅｒ～ ―――― 140
３９．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（１） ―――― 142
４０．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（２） ―――― 145

41．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（3）――――――――――――――――148
42．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（4）――――――――――――――――152

０１．特級呪霊の作り方

呪霊と呼ばれる呪いが具現化した事象。人の負の感情を糧に産まれる存在であり、往々にして碌でもない事を引き起こしている。日本という国において、年間行方不明者の何割かは、この呪霊によるものだ。

そんな呪霊を尊い存在と崇め闘う男がいた。

◇◇◇

とある企業のオフィスに集まる非術師である義善聖徳（ぎぜんしょうとく）。この男は、呪霊という存在を恐れるどころかあがめ奉る。呪術師からみたら異端の存在であった。

「事は順調に進んでいます。ゲゲゲの鬼太郎、妖怪ウォッチ、ＦＧＯなど様々な形で呪霊という存在を世に浸透させた。そして、今月リリース予定の呪霊ＧＯを持って我々の目的は遂に達成です。本当に、皆様には感謝しかありません」

義善聖徳は、力強い声でプロジェクトに集まった者達に意志を伝えた。

この場に集った者達こそ、我らがＨＥＮＴＡＩ国家日本が誇る頭が可笑しい連中だ。彼等の目的はただ一つ……理想の嫁を作り上げることだ。その為ならば、文字通り何でもする連中。だが、その能力だけは本物であった。

全員が非術者で呪霊が視認できないというのに、文字通り科学の力をもって呪霊に挑み、解析し、改変まで実現した。これは、紛れもない偉業である。

「この日まで長かったですな同志義善。本当に長かった……はじめは馬鹿かと思ったこのプロジェクト。本当に何度挫折しかけた事か。携帯レンズシェアーを１００％とか無茶を言い出し」

「いやいや、まだそんなの序の口ですよ。あの糞ビジュアルの呪霊をどうやって擬人化……しかも美少女にするか考えた私の苦労はわかりますか？イラストレイターが何度死にかけた事か」

集まった者達が誰しもが苦労自慢を始めた。

義善聖徳が立ち上げたプロジェクトにおいて、難題は様々あった。そもそも、呪霊という存在は、９９％以上の人間には視認できない。そこを解決する為に、金の力で呪霊が見える特殊な眼鏡を手に入れて分析し、複製した。これを利用する事で携帯のカメラを通じて呪霊が確認できる。

だが、見えたところで、あんな糞ビジュアルの呪霊を見て何が楽しいのか。そこで次のステップである。日本人が得意とする擬人化スキルだ。家電や駅など非生物すら擬人化して美少女化。そして、難なく受け入れるＨＥＮＴＡＩ達だ。

更に凄いことは、日本人は過去の英雄達すらＴＳ化させてそれを世界の共通認識へと変えてしまう事象改変能力を誰しもが有していることだ。アーサー王という存在がそれを証明している。

つまり!!

これらを日本特有のお国柄に加え、呪霊が人の思いに影響する特性を利用する事で全ては完成する。大事な事だが、こんな事を本気で考えて実現させる為、人生の全てを捧げるのは日本人くらいである。良い意味でも悪い意味でも。

「同志義善。呪術高専の連中への対応はどうする？」

「問題ありません。考えみてください、誰が除霊の依頼なんて出すのですか？」

その義善の言葉に誰しもが同意した。

悪影響があるから除霊の依頼が発生する。だが、依頼するのには金が掛かる。美少女の呪霊とぺろぺろ出来るなら死んでも構わないと思う連中が日本には腐る程存在している。寧ろ、美少女呪霊の為ならば、呪術師と事を構える事すら厭わない連中……それが日本人だ。

そうして、日本の呪術界を根底から揺るがしかねないスマホゲーム「呪霊ＧＯ」がリリースされた。

……

……

…

「呪霊ＧＯ」のリリースは、順調であった。売上げランキングでもＴ

ＯＰ３入り。売上げは、うなぎ登り。やはり、美少女という単語に弱い日本人がここにも居た。それに、画期的なシステム――地図と連動した呪霊捕獲アプリゲームという事で高評価。

そして、リリース後の初イベント……特級呪霊コッコロという駄目人間製造機の登場により、売上げを一気に高めた。

路上で必死こいてカメラで呪霊を探し、捕獲する一般人を眺めて義善は満足げに笑みを浮かべた。

「我々の悲願――美少女呪霊と結婚する為、皆様には頑張って頂かねばなりません。性欲という負の感情……それこそが美少女呪霊を生み出すキーなのですから」

呪霊の位置情報を呪術師や呪詛師の両方に売りさばくルートも確立しており、一粒で二度美味しい、金儲けのシステムも構築されている。

更には、この影響で本物の特級呪霊コッコロが誕生する日も遠くない。

０２．特級呪霊コッコロ～主さま～（１）

五条悟は、除霊の仕事帰りに観光をしていた。
彼の実力ならば、除霊なんて赤子の手を捻るような物だ。その為、現地までの移動と探索に大半の時間が要される。だが、ここ最近になって探索に掛かる手間が大幅に改善された。ｇｏｏｇｌｅｍａｐと連動して呪霊の位置が５ｍレベルまで正確に表示される。
更に、ターゲット以外の雑魚　呪霊までもが表示されるようになっていた。
「どういうことかな～、あの腐った蜜柑みたいな連中が近代化ね～。まぁ、いっか!!　深く考えても仕方ないしね。さーて、お土産何かって帰ろうかな～」
特産物のお土産を持ち、五条悟は次の任務へと移った。
□□□
人間誰しも人に言えない趣味の一つや二つある。
だが、それを恥ずかしげも無く露わにしたところで待っているのは人生の終わりだ。決して受け入れられるはずのない性癖。しかし、駄目な事ほどやってみたいというのも事実である。
その矛盾した二つの思いがぶつかり合う。
『どうしました主さま。あの～、後ろから抱きつかれますと危ないですよ。お料理中ですから』
見た目幼女、だが人間ではない。その為、あらゆる法に触れない完璧な存在。更には、男の性癖の全てを受け入れてくれる。こんな存在が他にいるだろうか。男の中で、彼女はまさに聖女――改め性女であった。
そんな彼女の母性に甘え、考えられる全てのしたい事をやり遂げた。そして、男は真実の愛に目覚めた。
例え彼女が、脳内彼女であっても最早構わない。頭の病気だと言われたとしても彼女を愛していると自信を持って言える程に男になっていた。
未来に生きる日本男子は、伊達じゃない。

「生きてて良かった」
携帯のレンズ越しでしか視認できない彼女。だが、そこには確実にいる。触れられるし匂いもする。男は、それだけで満足であった。
『全く、主さまは甘えん坊ですね』
そして、男は今日も母性を持つ呪霊に夜戦で絞られる。
……
……
…
男は、ある日を境に変わった。身だしなみに気を遣い、仕事も定時時間内で終わらせるよる凄まじい集中力。そのおかげで周りからの評価も高くなり、人生順風満帆であった。
周囲からは、女が出来たからだと言われたが、その通りだと自信をもって返答する。
だが、幸せな時間は長くは続かない。
最寄り駅についた男の元に見慣れない服装の男……五条悟が現れた。男は、理解した。コッコロより、呪術師の存在は聞いていたのだ。呪霊を祓う悪しき存在。ただ、呪霊というだけで悪と決定づけ、存在を抹消する。
確かに、古い時代の呪霊ならばその通りだ。
「ちょーっと、聞きたい事があるんですがいいですか？　前園さん。最近、貴方の周りで不可解な事とか起きていませんかね～？」
「突然失礼だね。不可解というのは、君のような人に話しかけられている今の状況の事をいうんだよ。私は忙しいのでこれで失礼するよ」
「これは失礼。……まぁ、幽霊とかそっち系に心当たりとかありませんかね？　貴方からは相当な力をもった呪霊の気配を感じるんですよ。ぶっちゃけ、憑かれていますよ貴方」
男は、手に持っていた鞄を五条悟に投げつけて逃亡を謀った。小声で「無駄なのにな～」と彼は小声で呟く。だが、無駄と分かっていても男にはやるべき事があった。
愛する女性を守る為、必死に走る。向かう先は、我が家である。
人生で今以上、死ぬ気で走ったことがない男。家に到着して直ぐに

コッコロの安否を確認して、安堵した。
『主さま、そんな息を切らせてどうしました』
「無事か!!　無事なんだな」
男は、見えぬが声を頼りに彼女を抱きしめた。確かにそこにぬくもりはある。
そして、最低限の荷物を手にコッコロを連れて家を捨てた。彼女とならば例え、何処へいってもやっていける。そんな自信が男には会った。だが、それはコッコロも同じであった。
主である男がいればそれで満足。それ以上は望む事はなかった。死が二人を分かつときまで一緒に居られると信じて疑わない。まさに、種族を超えた関係が今ここに産まれようとしていた。これが新時代の呪霊との付き合い方なのだ。
――男が、車で市街へ走ること?分。
五条悟が車を強制停止させた。このまま泳がせておけば、仲間の場所など色々と情報が割れると思ったが、予想に反して何も起きなかったので目的を果たすことにした。
その目的は、当然特級呪霊を祓うことだ。
「た、頼む!!　見逃してくれ、これからは田舎に引き籠もって二人でひっそりと暮らす。手持ちは少ないが金なら持っているもの全部やる!!　だから、見逃してくれ。俺達は愛し合っているだけなんだ」
男の土下座。アスファルトに頭をこすりつけて必死に懇願する。
相手が常識の範疇なら、最悪車でひき殺す事も視野に入れていた男だが……空を飛ぶわ、走っている車を止めるわ。もはや、どこのスーパーマンみたいな化け物が目の前にいるのだ。
一縷の望みに賭けるのは当然。情に訴え、金で解決……これにすがるしか非術者には手がなかった。
「いや～、だからそんなことされても困るんだけどな～。用事があるのは、そっちの特級呪霊だけであってね」
五条悟が困惑していると、特級呪霊コッコロが前に出てきた。そして、男の額から流れる血を拭きながら、優しく伝える。
『ごしごし……うん、綺麗になりました。主さまをお守りし、おはよう

からおやすみまで……揺籠から棺桶まで、誠心誠意お世話をするのがわたくしの役目でございます。ですが、難しそうですね。お別れです、主さま』

コッコロは、男の顔を持ち上げて唇を重ねた。僅かに呪力を流し込む。それは、最低限呪霊を視認できる程度の物であった。だが、それで十分。

涙を流すコッコロの顔をみて、男は決意した。

「本当に嫌になるね～。人間より人間らしい。それに男の扱いに長けすぎでしょう。そんなことやられたら、誰だってそうなるって……はぁ～、これって完全に僕が悪役みたいじゃん」

「何処の誰だか知らない。聞くつもりももう無い。コッコロ、俺の全てを君に捧げる。だから、勝ってくれ」

『はい!!　主さま!!』

眩しい光景であった。これが呪霊でなければどれほど良かったことかと五条悟は心底嫌気がしていた。

「いいよ、かかっておいで。億が一、僕に勝てるかも知れないよ」

その瞬間、戦闘が開始される。

０３．特級呪霊コッコロ～主さま～（２）

都心郊外にて、世界最強の呪術師である五条悟がその力の一端を振るう。

軽く相手を撫でるだけで、触れられた方は大木を何本もなぎ倒す程に吹き飛ばされ、大地を大きく抉る。そんな攻撃を食らって形を保っている特級呪霊も大概であった。

倒れたところに、何度も追い打ちを掛ける五条悟。タダの物理攻撃が、全て必殺の威力。

「いや～、粘るね。並みの特級呪霊なら二回は殺している筈だけど」

『主さまに勝利を約束しました。だから、わたくしは負けられません』

「うんうん、いいね。そういう人間らしい所は嫌いじゃない」

ドラゴンボールみたいな戦闘を繰り広げる連中を、一般人である男は必死に追いかけていた。そして、片腕を失い、今にも倒れそうなコッコロを眼にして五条悟に飛びかかろうとした。だが、その程度で止まる相手でもない事は、この惨状をみれば明らかだ。

だからこそ、僅かでも時間を稼ぐ事に注力する。

「一つだけ教えてくれ、一体私達が誰に迷惑をかけたというんだ」

「えっ!?　それ聞いちゃう?　君さ～、呪霊から貰ったお金を使ったでしょう。あれは、呪力で作られた完璧な偽札って言われる程精巧な物だよ。造幣局の人達も真っ青だったよ」

「……あ、そっちなんだ」

男は、コッコロから貰ったお小遣いを思い出した。それが偽札だったから、こんな事態になったのも納得した。

男の予想では、寝室でコッコロとオムツを履いたプレイをしている真っ最中を目撃し、出て行った妻からの依頼だと思っていたのだ。勿論、妻は見えないコッコロの存在などしらない。だから、夫が寝室で一人でオムツをはいて赤ちゃんプレイしている、としか見えていない。

そんな状況だから、何かに憑かれていると思われて除霊を頼まれたと今の今まで思っていた。だが、常識的に考えて、除霊しても復縁な

ど考えるほど女性は温かくない。何処の世の中に、そんなど変態プレイを見せ付けた夫を助けるため、高額な除霊費用を払うのか。むしろ、慰謝料物である。

「偽札が流通するとマズイでしょう。幸い、除霊すればお金も消えるのは調べて分かっているから……諦めてね」

世にも珍しい美少女呪霊が五条悟の手によって、頭部が粉砕された。その様子を目視した男の心はポッキリ折られる。男は、その場に崩れ落ち、後から駆けつけた呪術高専に確保された。

□□□

特級呪霊コッコロ……その誕生は、「呪霊ＧＯ」のイベント配信を始めて僅か2週間で誕生した。その全てを把握し、観察していた者達――衛星からの映像をモニターしている「呪霊ＧＯ」の運営陣。

そして、五条悟の戦闘力の高さに脱帽していた。なぜ、現実世界にドラゴンボールに登場しても遜色無いような男が居るんだと。日本人はいつから戦闘民族になったのだと。同じ人類だとはとても思えないと。

義善聖徳は、特級呪霊に成り上がったコッコロを失ったが、決して悪い成果だとは思っていなかった。

「ですが、問題ありません。別に、我々と呪術高専は敵対勢力でもありません。それはさておき、今回の実験は概ね成功です。人間は失敗から学ぶ物。それは、呪霊も同様。そうですよね、コッコロ」

『分かりました。主さまに、お小遣いを渡せないのは残念ですが……次は上手くやって見せます!!』

会議室の場に当然のようにいる特級呪霊コッコロ。今し方、遙か遠くの地で五条悟に討伐されたものは、分霊にすぎなかった。オリジナルが無事ならば、分霊など幾らでも作れる。

これが新時代の呪霊だ。オールドタイプとは違う。

勿論、特級呪霊になるまで、それ相応のパワーが必要になるが既に５００万ダウンロードを超えた人気アプリだ。その課金力によるブーストを持ってすれば長い時間は掛からない。

「同士義善、私に一つ提案がある。今回の一件、日本政府が偽札に過剰な反応をしたのが原因なのだろう。経済的効果がある事が証明されれば、除霊対象にならないと考えられる。つまり、コッコロの持ち味を活かしてニートを社会復帰させる。他にも介護老人の面倒などをさせるのはどうだろうか」

その発言に会議の場が荒れる。

確かに、コッコロとの生活を守るためならば、ニートと言えどもコンビニバイトなどを始める者達が増えるだろう。さらに、万年人手不足の介護……人経費０の神人材改め神呪霊が登場したとなれば、両手を挙げて歓迎するだろう。

まさに、呪霊の社会進出だ。

「なるほど、素晴らしいアイディアだ。喜べ、コッコロ。社会不適合者の介護と介護老人の面倒だ。気の済むまで介護していいぞ、但し……社会復帰をさせる事が条件だ。後、分霊の力はセーブをわすれるな。呪術師が五月蠅いから４級より力を上げないようにする事」

『はい!!　義善様。誠心誠意、お仕えして参ります!!』

呪霊が共存のための第一歩を踏み出した。

０４．特級呪霊カシマ～有明の女王～（１）

呪術師達は、頭を抱えていた。

近年、呪術業界を揺るがしかねない事件が頻発しているからだ。長い歴史を見ても、これほどまでの急激な変化はなかった。非術師達を守る為、影ながら世界を守ってきたと自負している者達だが……ここ最近、除霊して逆に恨みを買う事例が幾度も発生した。

一例として、孤独老人に憑いていた低級呪霊コッコロを除霊したら、老人が呪術師を孫娘を殺した犯人と言わんばかりの憎しみが当てられた。それから数日して老人は、全財産と生命を対価に、呪詛師に呪術師の殺害を依頼するなど恐ろしい事件だ。

だが、呪術師としても除霊が飯のタネでもあるから、仕方が無い事だ。近所に、虚空に話しかける孤独老人がいたら、善意ある住人が通報。その結果、手隙の除霊師がお小遣い稼ぎに動いたのだ。

このような事態から呪術界の重鎮達も重い腰を上げ始めた。その原因調査を担うことになったのが、苦労が絶えない補助監督の伊地知潔高であった。

そんな雲を掴むような依頼を夜蛾正道が伊地知潔高に伝達する。

「本来なら呪術師にやらせるべきだが、人手が足りない」

しかし、彼にとって、こんなの調査するまでもない。

「特級呪霊コッコロでしたか……これは、呪霊ＧＯに出てくるイベント呪霊ですよ」

「――なんだそれは？」

「最近、流行っているスマホアプリです。私も多少やっていますが、よく出来たアプリでスマホのカメラを通じて、呪霊を捕まえるゲームです。これです」

伊地知潔高――スタートダッシュは当然としてリリース初日に大人の課金力で現時点のコンプリートに近いレベルであった。苦労の末に捕獲した特級呪霊コッコロを夜蛾正道に見せる。

スマホに映し出される物は、五条悟から報告があった特級呪霊の特徴と完全一致した。調査を始めて僅か数秒で原因に辿り着く。呪術

界上層部が無能すぎて笑えないと本気で不安になり始めていた。
　むしろ、伊地知潔高にしてみれば、こんなスマホアプリが大流行しているのだから、呪術業界も一枚絡んでいると思っていた。現に、スマホを通じて呪霊が確認できるのだ。ｇｏｏｇｌｅｍａｐと連動もしているのだから、近代化の波に乗ったと考えるのは当然だ。
「悪いが、簡単に説明して貰えるか。この手の物には疎くてな」
「ええ、構いません。これは、呪術師になって全国各地にいる呪霊を捕獲するゲームです。実際にいる呪霊などをカメラに収めて、捕獲するんです。捕まえた呪霊を育成や対戦が可能です。更には、呪霊の位置座標がｇｏｏｇｌｅｍａｐと連動して直ぐに割れます。最近じゃ、五条さんもこの機能を使って……」
　夜蛾正道は、今まで聞いた情報だけでも頭が痛い事ばかりだった。
　呪霊が一般人にも確認する事が出来るなど、笑えない冗談だ。恐怖などといったマイナスの感情が呪霊を強くする。あの糞ビジュアルの呪霊を見て非呪術師達は何も思わないのかと。
「我々は、仕事柄なれているが呪霊は非呪術師が受け入れられる容姿とは思えないが……」
「美少女化されているから問題無いと思いますよ。心なしか、昨今、呪霊が若干美化されてきているとの報告もありました」
「にわかに信じられんな。だが、無視も出来ない。その開発元にいって話を聞くべきか――確か、一年達はその手のゲームなら詳しいな」
「ええ、まぁ。高校生達の間でも流行っているゲームなので、虎杖君達なら触れたことはあると思います」
　伊地知潔高は、これから大企業とのアポイントメントなど様々な雑務が待っていると思うと胃が痛くなってきた。
□□□
　呪霊ＧＯの制作運営会社――サイバーダイン・システムズ。主にハイテク関連の企業で日本の一芸特化の変態技術者達が集まる場所でもあった。
　その企業の応接間で義善聖徳は、呪術高専から来た一年と五条悟と話し合いを始めようとしていた。義善聖徳が彼等に感じたイメージ

は、善人だなという程度だ。そして、特級呪霊コッコロを潰してから、サイバーダイン・システムズに辿り着くまでが遅すぎると思った。
あれだけ、ヒントを出しているのだから、何故今まで行動がなかったのか疑問に思う程だ。
義善聖徳は、一方的に相手のことを知っているが、知らない振りを装う。知っている方が不審に思われるからだ。今は、世界最強と敵対する必要もない。仲よくやるのが一番であると理解している。
「初めまして、私がプロジェクトの代表を務める義善聖徳です。しかし、よく弊社のアポイントメントが取れましたね。失礼ですが、貴方達はどういった方達でしょうか。高校生とその先生のように見えなくもないですが……」
「初めまして、この子達の先生の五条悟です。実は、貴方達が開発したスマホアプリ「呪霊ＧＯ」ですが――呪霊を生み出す事で大きな問題となっています。非呪術師の貴方達ではありますが、このゲームを作ったならば知らないはずはありませんよね」
義善聖徳は、苦笑いした。
いきなり本題をぶっ込んできたと。流石は、世界最強だ。完全に上から目線での脅迫じみた依頼であった。だが、想定していたケースの一つだ。
「存じておりますよ。ですが、何か問題でも？　別に元より呪霊は自然発生もしています。それに方向性を示しているだけですよ。成功例のコッコロのお陰で、今や多数のニートや介護老人が助かっております。感謝されど恨まれる筋合いはないかと」
何食わぬ顔で義善聖徳は、現実を突きつけた。
社会から見放された連中を助けている呪霊。これの何処が悪い。どのみち、放置しておけば生活保護や医療費問題など社会のお荷物にしかならない連中の面倒を見る天使のような存在を作り上げたのだ。
ノーベル平和賞を貰っても可笑しくない功績である。
「あぁ～あの呪霊か。あれは、やべーーよ先生。全肯定してくれる美少女呪霊なんて、そりゃ問題だよな。羨ましすぎて……」
「サイテーーだな。見た目がよけりゃ、見境無しかよ。伏黒、さっきか

ら黙っているが、まさかとは思うが――」
「……何のことだか分からないな」
　言いよどみ、遠くを見る伏黒。最近、彼の影から女性特有の良い匂いがしている事を思い出す主人公一同。だが、証拠は彼の影の中だ。今現時点では、黒に限りなく近いグレーだ。
「まぁまぁ、落ち着こうよ君達。別に、高校生なんだし、特殊性癖の一つや二つ持っていても不思議じゃないって。ごめんね、話の腰を折って……どうしても駄目かな？　ゲームに嵌まった学生とかが、廃墟とかで事故死もしているんだけど」
「それはお悔やみ申し上げます。ですが、そんなの交通事故で死んでいる赤の他人となんら変わりは無い。そんな事故死した人の責任がまるで弊社にあるかのようにいうのは名誉毀損で訴えますよ。私は、大事な顧客との打ち合わせがあるのでコレで失礼します。もう少し大人の会話が出来るようになってから、おいでください。世界最強の呪術師五条悟様」
　応接間を後にする義善聖徳。死人が出ても丸で他人事であるような言いぐさに、呪術高専の人達は思うところはあったが、当然だなとも感じていた。
　１０年で数億ドルを超える利益が見込める人気スマホアプリだ。それを人が死んでいるから配信停止しろなど、交通事故で人が死ぬからトヨタに車を作るなと言うに等しい。
……
……
…
　義善聖徳は、五条悟達との話し合いを終えて別の応接間へと移動していた。そこには、最重要顧客が待っていた。
「遅れて申し訳ありません。夏油傑様、真人様、漏瑚様、花御様、陀艮様」
「いいや、構わないよ。それより、よかったのかい？　五条悟がきていたんだろう」
「何も問題ありません。私は、ビジネスパートナーである貴方達の方

が大事ですから。仕事の報酬は、現金がご希望ですか？それとも貴金属？　なんでもおっしゃってください」
　呪霊ＧＯの運営陣と夏油一派は、ズブズブの関係だ。呪霊を改変させるに当たり、真人の能力を科学的にも検証させてもらっていた。そして、いつしか彼は、人間を美少女、美少年に変貌させる事すら可能にしてしまった。魂を弄れば容易い事だと。
「いくつかセーフハウスが欲しいな。それと、呪術師達の通話記録――サイバーダイン・システムズなら可能でしょう。それと五条悟の位置情報は逐一欲しいね」
　顧客の要望に義善聖徳は笑顔で承諾した。その程度、金と権力を持ってすれば容易いと。
　そんなやり取りを真人除く特級呪霊三人。誰しもが１０人が１０人振り向く美少女呪術霊にされている。
『なぁ、真人。一体、儂達はいつ元の姿に戻れるんだ』
『さぁ～？でも、いいんじゃない。漏瑚の姿は今の方が人間受けはいいよ。花御……ごめんね手遅れ。この間、ネットに画像があがった瞬間から何故か魂が固定化されちゃってね。有明の女王って存在に固定化されちゃったよ』
　真人の能力を持っても既に戻せない。花御は、一瞬困ったが、深くは考えなかった。姿形などどうでも良いのだと。
『私としては、別に支障は無い』
「それは僥倖です。花御様……宜しければ、人間の負の感情があつまる場所で呪力を高めに行きませんか。実は、コミケ三日目の企業ブースで新イベントの発表予定があります。是非、貴方に来て頂きたい」
　この時、花御は自身の存在が上書きされるほどの人間の改変能力を知る事になるとは考えても見なかった。人間とは共存不可能だと改めて理解する事になる。

０５．特級呪霊カシマ～有明の女王～（２）

日本最大の同人誌即売会――その冬の陣。特に、その３日目には来場者数が２０万人にも届く事がある。集う猛者達は、誰しもが底知れぬ負の感情を持っている。そんなおぞましい人数が一施設に集まるのだから、溜まるエネルギーも常軌を逸している。

そんな場所には、毎年、呪術高専から呪術師が派遣される。その目的は、このヘドロのように沈殿している負の感情を呪力をもって発散させる事だ。だが、今日ばかりは派遣された呪術師は、蛇に睨まれた蛙の如く一歩も動けなかった。

「呪霊ＧＯ」を開発運営している企業ブースの特設会場――そのイベント席。その中央に視界が歪む程の呪力を身に纏った特級呪霊花御改めカシマが平然と座っているからだ。

サイバーダイン・システムズ社が用意したガラスの個室に入る事で、一般人ですら有明の女王を視認できる事態。そのお陰で、会場からは床にひれ伏してローアングルでの撮影を試みる非呪術師達で溢れかえっていた。

「し、信じられね～。あのレベルの呪霊ならば、非呪術師といえども何も感じないはず無いぞ。彼奴等に恐怖って感情はねーのか」

「逃げるぞ相棒。こんな所にいたら命が幾つあっても足りない」

慌てず一歩ずつ確実に後退する呪術師の二人。

そんな会場を去ろうとする呪術師二人を確認する義善聖徳。近代社会において、携帯電話を持っていない人物などほぼ皆無。よって、この場にいる呪術師達の動向も彼の耳に報告が届いている。

特設会場の裏側で集まった負の感情を収集する特級呪霊達。まさか、こんなお手軽に数十万人規模からエネルギーを得られるなど、呪霊達からしても想定外だった。

「これから、新イベント特級呪霊カシマの紹介をするというのに邪魔が入ってしまうと困りますね。漏瑚（シノブ）様、後でドーナツを大量に用意しますので、今逃げ帰った者達を行動不能にして貰えませんか」

『仕方が無いの～……って、儂は漏瑚だと何度も言っているだろう!!

お主、わざとやっているだろう。儂は、花御のように簡単に存在を上書きされんぞ』
「失礼、噛みました」
既に、既存の特級呪霊に対しても存在の上書きが可能だと証明された。義善聖徳は、当然、わざと漏瑚を間違えて呼んでいる。
『全く、油断も隙もあったもんじゃない。で、殺せば良いのか？』
「いいえ、非殺傷でお願いします。勿論、私からのお願いでないときはご自由にしてください。私は、人殺しではありませんので」
漏瑚は、会場から逃げる呪術師を再起不能に向かう。
……
……
…
大人気スマホアプリ「呪霊ＧＯ」の新イベント特級呪霊カシマは大成功した。
大成功の要因は、コミケ３日目の企業ブースで有明の女王が降臨した事だ。それは、ネットだけでなく動画サイトでも投稿され瞬く間に拡散された。勿論、ハイテク技術が売りの大企業だからこそ、ＡＩとＶＲ技術を使った合わせ技だと噂される。
常識的に考えればその通りだ。呪霊の存在が水面下で浸透してきているが、まだ認識が現実に追いついていない。
だが、そのイベント後にとある噂が流布されるようになった。その噂は、あの特級呪霊ですら頭を抱えていた。
『人間とは、どこまで愚かな生き物なのか』
「あぁ～、淫魔像を前に全裸土下座して寿命の半分を渡すと誓えば低級呪霊カシマが現れるというアレですか。でも、本当みたいですよ。我々の呪霊ＧＯでも呪霊反応を感知しています。一応、特定の条件を満たす人の元にしか現れないみたいだから、気にする程でもありませんよ。花御（カシマ）様」
『やはり、人間とは相容れない。それで、お前は私の分霊をどう使う気だ？』
分霊達が人間とどう接しているかフィードバックを受けている花

御。勿論、それ相応の対価を貰っているので呪力も右肩上がりであった。
「バックアップです。これから、五条悟に対して威力偵察を行うのでしょう？　だから万が一に備えて、分霊を作っておけば再起可能です。勿論、分霊をお守りする以上、弊社の研究にご協力頂きますけどね」
特級呪霊達は、義善聖徳が碌でもない事を考えている事は直ぐに分かった。だが、それでも手を取る。それが目的達成のための近道だからだ。
□□□
サイバーダイン・システムズ社の会議室。そこでは、特級呪霊漏瑚と五条悟の戦闘が映し出されていた。
だが、お世辞にも絵面は最低である。
「美少女呪霊になった漏瑚を容赦なく殴りつける。更には、頸をもいで足を置くなど並みの精神力で無理でしょう。ここまでいけば、過剰防衛もいいところですね」
「同士義善。やはり、ロリババァキャラであったから、五条悟が罪悪感を感じないのではないだろうか。もっと庇護欲を誘うキャラに存在を上書きをすべきだったと愚考する」
実に納得のいく意見であった。
「分かりました。漏瑚様には、そのアイディアを提案します。そして、この戦闘画像をＹｏｕｔｕｂｅに公開して世論を味方に、更には呪術師の行動を押さえつけます。非呪術師のやり方で我々は目的を達成するのです」
特級呪霊漏瑚が、死ぬ一歩手前まで追い詰められていた。だが、仲間思いの特級呪霊花御により救い出される。そんな美少女が美少女を救うシーンまで納められた動画は凄まじい再生数を誇った。
映画さながらの戦闘シーンもあり、その事から再生数が伸びたと思われたが……花御《カシマ》の下着が僅かに映っていたことが一番の理由であった。本当に、人間はどうしようもない。

０６．閑話～未来に生きる国～

コミュニケーション可能な特級呪霊達は、呪術師達が考えるより遙かに希少な存在だ。存在自体の影響で多少怪奇現象が周囲に発生したとしても許容出来る程だ。

呪霊の存在は、少し前までは国家運営に携わる一部しか知り得なかったが、状況が一変し始めた。

農林水産業に持ち込まれた稲のサンプル。それは、日本が長い時間掛けて品種改良を重ねた英知の結晶を遙かに上回る。病に強く、枯れた土地でも育つ、栄養価も高い。

「義善さん。ほ、本当にこの稲は特級呪霊カシマが作ったというのか。片手間で……」

「ええ、その通りです。他にも品種改良を施された大量の農作物サンプルを弊社は抱えております。お気に召していただけましたか」

国家運営に携わる者として非常に悩ましい判断が求められていた。国内の一企業から持ち込まれた過去に例を見ないほどの有用なサンプル。正直言えば、国家事情を考えて、喉から手が出るほど欲しいものだ。食糧自給率は、国家の存亡にも直結する。

しかし、義善聖徳からの要望を簡単に受領するわけにもいかなかった。それこそ、呪術業界とは、国家も付き合いが長い。簡単に掌を返すような行為は、彼の独断では不可能。それこそ、総理案件になりかねない。

「だが、流石に我々にも立場という物がね……君も分かるだろう。呪術師達に呪われれば我々に対抗手段などないのだよ」

「貴方達に呪術師達との縁を切れとは言っていません。利益に見合った待遇にするようにして欲しいのです。当然、呪霊達にもですよ。これは、私の独り言ですが――特級呪霊漏瑚様から、国内のレアメタルが採掘可能な正確な情報も頂いております。特級呪霊陀艮様からも経済水域及び排他経済水域内にある資源情報も」

義善聖徳から告げられる衝撃の一言。

「――私の判断出来る域を超えています。大臣を交えた前向きな打ち

合わせの場を早々にセッティングさせて頂きます」
「えぇ、有能な貴方達日本の役人ならば直ぐに分かって頂けると信じております。呪術師と呪霊…今、必要なのはどちらなのか。私は、そんな架け橋になれたなら幸いです」
日本が抱える医療費問題、介護問題は特級呪霊コッコロが改善。
日本が抱える食料問題は、特級呪霊カシマが改善。
日本が抱える資源問題は、特級呪霊漏瑚と特級呪霊陀艮が改善。
日本が抱える呪霊問題は、サイバーダイン・システムズ社が解決。
残る大きな問題は、人口問題などもあるが、美少女呪霊、美少年呪霊に更なる改変を加える事で将来的に解決できる目処が義善聖徳の中にはあった。
事実、歴史を紐解けば呪霊と人間のハーフは既に存在している。そのサンプルを元に研究する事で人類は……主に日本人は未来に生きる種族になろうとしている。
まさに日本の転換期であった。だからこそ、役人もこの重要案件に力をいれる事を心に決めた。
「義善さん。これは、個人的な意見ですが……貴方の要望はほぼ全て通せると思います。流石にここまで国益に貢献できる知的生命体ともなれば、反論の意見は出ないに等しい。しかし、そうなると軍事産業にも力をいれないといけませんね。お隣の国が何をしてくるか不安です」
「そうですな。ですが、特級呪霊陀艮様の力をもってすれば、ニュースになる前に不審船舶を行方不明にする事など容易いでしょう。スパイに関しても、同様です。今や、全国に分霊を整備されその霊的ネットワークが万全な状態になる日も遠くありません」
国防問題にも呪霊が関与するとなれば、もう日本は呪霊なしでは生きていけなくなる。それが実現すれば漏瑚の目的がある意味達成したと言えるだろう。
日本特有の事柄があるからこそ、出来る事だ。日本は、間違いなく未来に生きる国へ歩みを始める。

０７．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（１）

サイバーダイン・システムズ社の研究施設。そこで現代科学の粋で宿儺の指を解析している。あの五条悟でも破壊出来ないと言われる特級呪物。その絶対防御があれば、現代科学は更なる進歩は間違いなかった。

その様子を漏瑚も観察している。特級呪霊ですら破壊できない宿儺の指。

『どうだ。流石のお前達でもこの特級呪物はどうしようもあるまい』

「あわよくば複製を考えましたが難しいですね。ですが、科学サイドの力を甘く見ないでください。この程度の指なら永久封印くらい訳ありません」

義善聖徳は、両面宿儺なんて対話不能な存在を復活させたくないと考えている。あれは、呪霊すら殺す厄介な者。宿儺の器を殺して、存在抹消する計画を考えている呪術業界上層部に少なからず賛同していた。

だが、その過程で指を食わせるなど言語道断だ。万が一、手が付けられない存在となり復活したらどうすると。

『ほほう、参考までに聞いておこう。五条悟と闘うにあたり、役に立つかもしれん』

「簡単ですよ。Ｈ２ロケットに搭載して外宇宙や太陽に投げれば良いんです。こんな代物を馬鹿正直に地上で保管してどうするんです。過去ならいざ知らず、今は宇宙に衛星を飛ばす時代です」

『えぇ～～。まぁ、流石の宿儺も宇宙に捨てられればそれまでか。それはそうと、花御が呪術高専に強襲をしかける。まぁ、コチラも準備しているから問題無いだろうが、五条悟を少しでも足止めしたい。お主なら、この指一本を使いどんな特級呪霊をつくる？』

漏瑚は、目の前にいる人間――義善聖徳の悪魔的な発想を見たかった。

指一本分で五条悟の足止めなど数秒がせいぜいだろうと分かっているが、それを覆す何かを提案してくると。

義善聖徳は、宿儺の指を手に取り思考する。
「そうですね～。――!! ちょうどいい素材があります。私が知る限り地上最強の生物と名高いアレならば、よい特級呪霊になってくれます。制御は出来ないでしょうから、皆様でしっかり躾けてください」
『世界最強とは、大きくでたな。なんじゃ、ライオンか？ 象か？』
「クマムシですよ」
クマムシの名を聞いてもピンと来ていない漏瑚。
だが、人間世界では有名な生物でもあった。マイナス２７３℃という超低温にも、プラス１００℃の高温にも、ヒトの致死量の１０００倍以上の放射線にも耐えることができる生物。サイズ的な難はあれど、呪物なのだからきっと何とかなると彼は信じていた。
ベースとなる生物が凶悪なほど、呪霊としての能力は格段と強くなる。その事実を漏瑚は改めて理解する事になる。よもや、指一本程度の特級呪霊に領域展開を用いる必要性がでるとは想定を遙かに超えていた。

□□□

京都姉妹校交流会――全国で二校しかない呪術高専の生徒があつまり、集団戦及び個人戦でその技術を競う。その会場に強襲をしかけ、裏では呪術高専が保有している宿儺の指を全て回収する。
その現場近くに、夏油一派と「呪霊ＧＯ」の運営陣が集合していた。
「では、予定通りにいこう。呪術的な障害は私が、電子的な障害は君達が。この手の分野はお家芸だろう」
「勿論です、夏油傑様。この呪術高専の機械的なシステムは、我々の子会社が納品しています。物理的ネットワークが切断され無い限り、監視カメラの画像すら書き換えて見せましょう」
そこに、お世話が出来る事を何よりの幸せと感じる特級呪霊コッコロがお茶とお菓子を携えて会議室に入ってきた。その傍らに、１級呪霊にまで育った分霊カシマも手伝いを始める。
義善聖徳は、呪霊が用意したお茶とお菓子を平然と口にする。その様子に度胸があるのか馬鹿なのか、どちらなんだろうと夏油傑は考え

た。
「君達の護衛に我々の仲間を一人くらい残そうと思ったが、不要ですね。下手な護衛よりよっぽど強い。そろそろ、帳が降りるが……時間稼ぎの要の特級呪霊クマムシは？」
「投下したと報告が入りました。全く、凶暴すぎるのも考え物です。そうそう、もし可能でしたら、禪院真依さんには手出ししないで頂けると有り難い」
　そんな凶暴な存在を何のためらいもなく生み出す人間の方が呪霊よりよっぽど恐ろしい存在だと少なからず夏油傑は感じていた。だが、そんな男が気にしている禪院真依が気になった。
「禪院家縁のものかな。珍しいね、君がそんな人に興味があるとは」
「構築術式という素晴らしい術式を持つ人なのでね、以前よりお付き合いがあります。通常手に入りにくい化学物質だろうが手に入るんですよ。弊社に秘密裏にウランを納品してもらう代わりに、武器弾薬を彼女は手にしております。そんな大事な彼女を失うわけにはいきません」
「ウランって……呪霊よりよっぽど危ないんじゃない君の会社」
　特級呪霊達は、呪術師より、こいつ等の方が危険じゃないかと感じる。
「正しい使い方をすれば問題ありません。それに、彼女には私直々に正しい構築術式の使い方を教えてあげた。ある意味、弟子と言えるかも知れません」
　ビジネスパートナーに、力の正しい使い方まで指導する義善聖徳。構築術式の特徴は、一度構築した物質は残り続けると言う事だ。そして、彼が教えた使い方が……それは尿路結石を相手の体内に生成する—尿路結石術式。
　あの東堂葵が膝を折るレベルの激痛。呪霊より対人特化の術式であり、男性への効果は言うまでも無いだろう。今回の京都姉妹校交流会……一対一の状況において、勝てる男は存在しない。

０８．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（２）

東京の呪術高専チームは、集団戦においてスマホアプリ「呪霊ＧＯ」を活用し、手際よくポイントを稼ぐ方法をとっていた。時代の流れに乗った索敵。しかも、同じアプリを入れている人物の位置座標も分かるため、無駄な戦闘を回避している。

京都の呪術高専チームは、古き良き時代の索敵を地道に行っている。空からの索敵というアドバンテージは最早時代遅れだ。

そんな年一回の大イベントすら後回しにしないといけない大事件が発生する。特級呪霊と呪詛師達からの強襲。しかも、狙われたのは生徒達となれば教員は立場的に動かないといけない。

……

……

…

伏黒恵は、突如現れた特級呪霊の気配に圧倒された。本来なら競い合う相手である京都高の加茂憲紀とも流れで手を組む形になる。そうしなければ、生存すら絶望的な状況だ。

そして、その凶悪な呪力をばらまく特級呪霊が姿を現す。銀の髪を靡かせ、スカートの絶対領域を見せ付ける淫猥な姿。どことなく漂う花の上品な香水の匂い。絶世の美を誇る有明の女王がこの場に降臨した。

「野良花御（カシマ）!?　嘘だろう」

「伏黒、貴様はアレの正体を知っているのか!!」

加茂憲紀は、スマホアプリなんぞやらない硬派な男であった。だからこそ、人型の特級呪術霊の存在が謎すぎて恐怖している。

『おや、貴方は伏黒恵ですね。分霊が昨晩も』

「やめろお!!個人情報の流出だぞ。貴様、それでも特級呪霊か!!そんな情報戦なんぞに頼らず、呪力で勝負しろ!!」

「しゃけ」

伏黒恵は、圧倒的必死であった。

コッコロと並び、カシマも手に入れたかった伏黒恵だが彼の元には

カシマは現れなかった。だが、手に入らない物ほど欲しくなるのは人間の性だ。修行と称し、カシマの目撃情報を頼りに各地に足を運んだ。その苦労の甲斐もあり、彼は善意ある除霊を行いカシマを手に入れる事に成功していた。

だが、その事は誰にもバレていない。彼の影はとても便利な四次元ポケットだ。

伏黒恵……社会的立場を守る為に命を賭ける。

□□□

五条悟は、帳の外で力を振るう。ただ、収束と発散を繰り返し相手を吹き飛ばす。

「相変わらず、未登録の特級呪霊が増えているな。さて、コレはなんて呪霊かな～。見た感じクトゥルフ神話系な気もするけど……いいや、あれは外宇宙の神様だっけな」

『□@”!.#ＥＡｆｅｏ３ｒｎｏ４—０９８ａ９４”#%$Ｔ』

特級呪霊クマムシ——その風貌は、五条悟が言うようにクマムシとニャルラトホテプを足した容姿になっていた。寸胴な肉体に加え、無数の触手もどき……極めつけは脳内に直接送られる異次元の言語だ。

五条悟がスマホを取り出し、「呪霊ＧＯ」を起動する。

そうすると、画面に特級呪霊クマムシと表記される。仕事が早いサイバーダイン・システムズ。既に、特級呪術霊の情報は更新済みであった。

「はぁ～、嫌になっちゃうよね。流石に、このレベルの特級を帳の中に入れるわけにはいかないな。かといって無視出来るレベルでもないか」

特級呪霊クマムシの術式……それは、今まで人間に実験された様々な事を現実に持ってくる事だ。その為、絶対零度や高温、放射線を対象に向けることが出来る。五条悟の無下限術式でなければ、大体の呪術師は即死に追い込める。そもそも、放射線など防げる呪術師など早々いない。

五条悟が呪力を込めた拳で殴ろうとも、肉体の一部を削っても再生する。単純な呪力を持った攻撃だけでは仕留めきれない。その嫌と

なるほどの耐久力と再生能力は目を見張るものがあった。
『％＆（）ｈ５４エアｇｔ５#〟＄％』
「ちっ!!　脳内に直接語りかけるこの言語だけはなれないな。――へぇ～、一丁前に領域展開まで出来るんだ」
特級呪霊クマムシは、既に何度かの戦闘で学んだ。五条悟は強い。このままではじり貧である事は確実だ。ならば、体力と呪力があるうちに、領域内に引き込んで殺すと。
確殺の領域展開。
清潔感漂う実験室。それが、特級呪霊クマムシの領域だ。彼が、生涯で一番長く過ごしたその過酷な場所。
特級呪霊となったクマムシの耐久力ギリギリの放射線が全方位より照射される。その術の特性を六眼で知る。人間の域を出ない五条悟にとって放射線の耐えられる量は非呪術師と変わらない。
「ちょっと!!　洒落にならないでしょ。領域展開――無量空処。危ない危ない。あの金髪ロリ幼女（漏瑚）の領域展開より強いね。本当なら聞きたい事があるんだけど、会話が成り立たないからな～、死んで」
特級呪霊クマムシ――五条悟相手に三分間サンドバッグにされても耐えきる。更に、領域内に引き込む事に成功する。その身が粉砕されるまで、世界最強を五分も足止めした。

０９．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（３）

帳の中では、特級呪霊カシマが伏黒達を追い詰めていた。
無論、彼等も善戦している。だが、元のスペックが違う事と何処を攻撃しても何故か衣服が破損する謎仕様で攻撃の手が無意識に抑制される。これが、特級呪霊カシマがこの姿になって手に入れた特性。これにより、衣服が轟沈するまで中身は無傷というエグい仕様。
「くっそ!!　なんて堅い装甲だ。小破までしか持って行けないなんて」
「だから、伏黒。アレは何者だ!!　さっきから、小破とか言っている意味がわからんぞ。ちっ!!　言っている間に既に再生している」
伏黒恵、加茂憲紀、狗巻棘の三人が死力を尽くして小破までしか持って行けない特級呪霊。日本全国の男子達から熱烈な信仰を宿している特級呪霊相手にそこまでやったのは賞賛できる程だ。
だが、防御特化の特級呪霊カシマの絶対領域を突破するのには足りない。
『そのナマクラでは私は切れません』
禪院真希の不意の一撃を難なく防ぐ。しかも、攻撃した刀の方が破損し真っ二つ。一体、どんな鍛え方をしているのだと疑いたくなる。
だが、想定の範囲内であった禪院真希は焦らなかった。特級相手に使う武器ではなかったと、ならば答えは簡単だ。特級には特級を。
「もっと良いのがあるぜ。コレを使うのは胸くそわりーがな」
『それは、特級呪具游雲。一本五億程度でしたか。これは良い物です。伏黒恵が寝室で言っ』
「真希先輩!!　今です」
敵の情報戦を遮る伏黒恵。
「後で、全部ゲロらせるからな!!」
確かに、大きな隙があったのは間違いなかった。禪院真希は、後でボコって伏黒恵の口を割らせることを決意した。
……
……

…

禪院真希と伏黒恵の連携により、再び特級呪霊カシマを小破させた。だが、その代償として、伏黒恵には胞子の餌食になる。まさか、自らが挿される側に回る事になるとは彼も想定していなかった。

因果応報である。

特級呪霊カシマの植物に捕まり、絶体絶命の禪院真希。起死回生を賭けて、伏黒恵は呪力を絞り出す覚悟をする。その結果、埋め込まれた胞子が成長し自分が死のうとも。

「恵!! やめろ。私らの仕事は終わった、選手交代だ」

虎杖悠仁と東堂葵がダイナミックエントリーする。

囚われていた禪院真希を救い出す。まさに主人公だから許されるタイミングでの登場。あと少し、遅ければ禪院真希は死んでいた。

『私としたことが少々油断しました。しかし、集団で一人を囲むのは人間のお家芸ですか』

「つーか、人型特級呪霊多すぎだろう。しかも、女とか……これ俺がマジで殴らないと駄目なの? 呪霊だからといって、女殴るとか気が引けるんですけど」

「ブラザー、その気持ち分からんでもない。――この容姿、どこかで……」

そんな特級呪霊に仲間がやられたのも事実である。闘わないという選択肢は存在しない。

「虎杖!! そいつは、特級呪霊花御(カシマ)だ。奴へのダメージは全て衣服にいく。だから、衣服を轟沈させない限り奴への攻撃は全て無意味だ。後、衣服を轟沈させた後でも、顔だけは殴るなよ。いいか!! 絶対だからな。もし、顔を殴ったら俺がお前を殺すからな」

「花御(カシマ)だと!! なるほど、貴様に女の趣味が悪いと言った事は謝ろう。良い趣味をしている。今日からお前もブラザーだ」

伏黒恵……以前に、女の趣味を問われた際に『母性があって、銀髪で妖艶のエロイ体の女性』と言い放っていた。東堂葵は出来た人間である為、素直に自分の過ちを認めて伏黒恵に謝罪する。

「ブラザー、相手は一人だ。俺は黒閃を出すまで手出しはせん」

『一人？君達は、運が良い。今回は特別でしてね、もう一人来ています』

カシマが指をパチンと鳴らすと地面から大きな蕾が現れる。

そして、その中には厳重に拘束された2級呪霊クマムシがいた。外で五条悟が闘っていた特級の分霊。本体のバックアップの一つ。念のため用意していた存在だが、ココで使い潰すのも悪くないと考えていた。

「よし!!　ブラザー、俺はアッチの化け物を殴る。お前は、そっちの女を殴れ」

「えぇ～。パンダ先輩もいるしみんなで闘おう!!　これ絶対ヤバイ奴だって、俺の勘がそういっているから間違いないって」

『宿儺の器が言う通りです。私だけ一方的に貴方達の情報を知っているのはフェアではありません。このクマムシの術式は、無差別に放射線をばらまきます。他にも、超低温攻撃に高温……死にたくなければ常に全身を呪力で守る事です』

情報を開示することでその威力を底上げする。その情報は、下手な特級呪霊よりヤバイ情報なのは間違いなかった。

そして、特級呪霊カシマは、当然の如く、水中に落ちている特級呪具游雲を手に取り、構えた。とある男(義善)がいっていた事を特級呪霊カシマは思い出した。

【人型なのですから、それに準じた対人戦闘も身につけるべきです。弊社が専門家を呼びますので、心ゆくまで学び身につけてください。戦いとは、最後に立っている者が勝者。だから、使える物は何でも使えるようにしておくべきですよ】

呪術高専達は、それありかよと内心思うばかりであった。

１０．特級呪霊クマムシ～地上最強の生物～（４）

義善聖徳は、呪霊クマムシの性能に満足していた。

特級呪霊クマムシは、五条悟に除霊された。だが、２級呪霊程度の呪力しかないクマムシでも呪術師相手には十分すぎる性能を誇っている。規格外の耐久力と対人特化の術式。

「呪力を帯びた放射線は、呪力で防御しなければ細胞が死ぬ。だが、呪力で身を守れば花御（カシマ）の胞子は防げない。これぞ、領域展開を使わない必殺の構え」

「同志義善。素晴らしい組み合わせではあるのですが……なぜ、ビジュアルをクトゥルフ神話系に？　ゆるキャラのクマモンというアイディアもあったでしょうに」

その通りであった。

「呪霊ＧＯ」は、呪霊が擬人化するゲームだ。それなのに、化け物ビジュアルで実装された事に彼の仲間は疑問に思っていた。折角、呪霊は見えないが隣にいつでも居る背後霊的な存在。しかも美少女という概念で日本に徐々に浸透してきた。

流石、日本。こういった適用能力に関しては、他国の追随を許さない。

「簡単な事です。それは、我々の同志の一人が、ＵＭＡ娘という呪霊を作り上げたいと、私にこっそり打ち明けてくれました。一人が皆のため、皆が一人のため、一丸となって目的を達成する。これはその実験の一環です」

誰もが仲間の為に、動く。

人の趣味は様々だから、ＵＭＡ娘が好きで結婚したいという同志の為に、試験的に実装されたクマムシ。流石の義善聖徳も悩ましい性癖をもつ同志がいるなと思っていたが、些細な問題と片付けていた。

大事な事だが、ＵＭＡ娘でなくウマ娘である事を誰も指摘しない。

誰もが、変わった趣味の奴がいるんだなと思うだけであった。人様の性癖に寛容な連中ばかりが集まると、こういう結果になる。その重大な真実に気がつき方向修正するのは、まだ先のことだ。

……
……
…
帳の中では、呪術高専の生徒達は、呪霊に苦戦していた。
本来、弱い者が強い者に勝つための戦略や技術を駆使してくる特級呪霊。しかも、その技術の完成度は極めて高次元であった。基礎スペックが違う呪霊だ。人間の何倍もの速度で学習が可能である。
「黒閃!!」
『攻撃が直線的過ぎます。はっ!!』
虎杖悠仁の圧倒的ポテンシャルがあっても、対人戦闘を鍛えたカシマには通じなかった。黒閃を決めるどころか、手首をねじられ有り余る力を利用され地面にたたきつけられる。だが、攻撃の手は止めずに即座に呪力を込められた特級呪具游雲による追い打ちが放たれる。
地面を陥没させ、周辺にまで衝撃が行き渡る。
虎杖悠仁の常人離れした反射神経がなければ、今頃は粉々になっていた。一瞬の判断ミスが即座に死に繋がるまさにデスゲームだ。
「ちょっと、ちょっとぉぉぉ!! 流石に、一人じゃ無理だって。東堂、ソッチを早く片づけてくれ。くっそ可愛い顔してえげつない攻撃ばかりしてきやがる」
「分かってるブラザー!! だが、こっちの呪霊も相当タフだぞ。俺とパンダの二人でも潰し切れん。だが、倒せないなら、倒せないなりの戦い方はある!! 術式を解禁する。分かっているなブラザー」
意思疎通する虎杖悠仁と東堂葵。
『来ないのですか? でしたら、コチラから行きます』
牽制に使われる特級呪具游雲。その威力は、まさに一撃必殺。防御すれば両腕が吹き飛ぶ。回避以外の選択肢を取る事は事実上、不可能であった。故に、回避する事が前提となれば、想定される動きは絞られる。
そこに肉弾戦を持ち込むカシマ。花御の手が虎杖悠仁の胸に当たる。
『これは、人間から学んだ技です。そう…確か、発勁と言っていまし

た』
特級呪霊カシマの身体能力と呪力を乗せた中国拳法。言うまでもなく、呪力のガードなど無視して、内部から破壊させる凶悪な技だ。タフガイの虎杖悠仁とて、当たれば致命傷は避けられない。
パン!!
東堂葵の呪術――不義遊戯が発動する。その瞬間、虎杖悠仁とクマムシの位置が入れ替わる。東堂葵の完璧なタイミングでの入れ替え。よって、特級呪術カシマの攻撃は、クマムシへとクリーンヒットする。
『％３ｑｆ０２ｋｑｏａ９＃〟＄ＴＡｆｒａａ―』
クマムシの絶叫が響き渡る。カシマの一撃で、内臓は全損。その上、有り余った威力のお陰で、臓器を周辺にぶちまける始末。耐久力がある呪霊とはいえ、特級呪霊カシマの本気の一撃が不意のクリーンヒットでは致命傷なりうる。
虎杖悠仁の眼は、そのクリーンヒットを捕らえていた。呪力での攻撃の瞬間、黒い閃光が走った事を。そして、己の愚かさを悔やむ。度重なる黒閃を行った結果、相手に学習されたのだ。
敵の数を減らすことに成功したが、ボス的存在が更に強くなってしまった。これでは、状況は悪化したに等しい。
「助かったぜ、東堂。後は、あのカシマって特級呪霊だけだが……あいつ、俺の黒閃当てても衣服が半分ほど吹き飛ぶだけだぜ。それに、直ぐになおるし」
「安心しろ、ブラザー。ＩＱ５３万の俺には秘策がある。俺を信じて全力でいけ」
絶対的な自信を持つ東堂葵。その心強い言葉を信じる。それが出来るからこそ、この二人のコンビネーションは強い。１＋１＝２には、ならないこの二人。
『なるほど、入れ替えの呪術ですか。単純ですが、それ故に強い。慣れるまで、少し時間が掛かりそうです』
入れ替わりの術式。冷静に考えれば、入れ替え対象を選択するのは術師。だからこそ、その術師の行動に注目すれば入れ替え対象が必然的に分かる。目を配るなど、入れ替わる対象への配慮も必要だ。

「あぁ、そうそう。お前の衣服……呪力で編まれているだろう」
東堂葵の視線の先には、アレが落ちていた。伏黒恵が好んで使っていた折れた刀剣だ。これは、呪力が宿っている。つまり、東堂葵の入れ替え対象として十分に機能する。
「黒閃ーーー!!」
パン!!
その瞬間、カシマの衣服が消失する。正確に言えば、折れた刀身へと入れ替わった。想定外の事態に、カシマも驚く。
無論、驚いたのは虎杖悠仁も同様であった。
まさか、全力で殴る瞬間に特級呪霊とはいえ、美少女の裸体を拝むことになったのだ。そして、伏黒恵から顔は殴るなと言われていたので狙いは胸部。つまり、盛大にハートブレイクアタックを決める事になる。
『くっぅ!! 右胸を持って行かれましたか。流石、宿儺の器……おや？どうしました？ そんな前屈みになって』
「う、うるせーー!! 良いから、さっさと服を着ろ!! 服を」
青少年として、当然の反応をする事にカシマは理解を示さない。
『おかしな事をいう。貴方達が服を奪ったのでしょう』
「いいや、駄目だブラザー。奴の服は絶対防御の要。俺は、何度でも脱がす。そして、ブラザーが何度も殴る。コレが、勝利への道だ」
男前の台詞である。
だが、この戦闘がドローンにより録画配信されている事を知るのは、もう少し後になる。今のご時世、情報戦も戦いだ。
……
……
…
絶賛、特級呪霊カシマが男二人に脱がされフルボッコにされる謎の動画が配信される中、帳が解除される。そして、五条悟すら困惑する事態。見覚えのある三節棍を持った全裸美少女呪霊が負傷した状態で、虎杖悠仁と東堂葵の二人と対峙している。
「ソッチのレベルまで上げる必要はなかったんだけどな～」

遠い空の上で、生徒のレベルアップ（意味深）を把握する教師。
『どうやら、ココまでのようです。クマムシも退きますよ』
『ａ９#”％Ｆｗａｒ３ｑ』
時間経過で肉体を再生させたクマムシが全裸のカシマに纏わり付く。触手の化け物に捕食されているように見える絵面は、まさにサービスカット。大事な所がしっかりと触手ガードされる。
「あの化け物あの状態で生きてやがったのか!!」
『五条悟を相手にするほど驕ってはいません。これは（特級呪具）、私の裸体を見た料金として頂いていきます。ちょうど、欲しがる人もいるでしょうから』
特級呪霊カシマの撤収完了後、その場には五条悟による「虚式　☒」が盛大に地面をえぐり取った。

１１．閑話～伏黒恵～

東京の呪術高専襲撃事件。

物理的被害として、規模が一番大きかったのは建物への被害ではなく…五条悟の「虚式　☒」による地形への大ダメージだ。業者を呼んで元通りにするにしても、長い工期と莫大な予算が必要となる。しかも、元通りにしたところでメリットなど何もない。

建造物への被害総額は、表向きは宗教系の学校である呪術高専が払える額ではない。純和風の木造建築物。歴史的建造物にも登録されておかしくないレベルがボロボロになっていた。この手の建造物は、直せる人も限られており人件費が時価の職人達だ。

つまり、この負担は地方自治体や国家……言い換えれば税金で賄われる。

当然、呪霊側が悪いという意見もある。だが、なんで全校生徒合わせても２桁ちょっと居るか居ないかの学校にコレほどまでの助成金を出さないといけないのか、説明に困る国のお役人達は胃痛に悩まされている。

「えぇ～、次に人的被害ですが～」

伊地知潔高は、纏められた人的被害の報告を行った。人材不足が悩まされる呪術師達が大量に殺されるなど、今後の仕事の割り当てに困る……と言うのが少し前までの事情であった。

だが、昨今、４級以下の低級呪霊の除霊に関しては既に呪術師に仕事が来る事はほぼ無くなった。「呪霊ＧＯ」というアプリのお陰で良くない呪霊達がドンドン数を減らしていた。

おかげで、今や二束三文の価格で仕事をする呪術師、呪詛師達があぶれている。なにより、呪術業界で暗黙の了解となっていた、自作自演の除霊のお仕事も「呪霊ＧＯ」のお陰で簡単にはできなくなった。低級呪術霊など見えてしまえば簡単に払えるからだ。

最悪、人的被害までなら何とか許容出来た楽巌寺嘉伸。だが、呪術界の重鎮として、特級呪物の紛失まであったとなっては、沽券に関わる。よって、生徒達から聞いた大事な情報を審議の場にぶちまける。

「此度の被害は確かに甚大だ。だが、儂の元に、伏黒恵が呪霊と通じているのではないかと情報が入ってきている。捕まえた呪詛師同様に情報を吐かせるべきだろう」
「恵がぁ？ないない……でも、僕のそんな発言だけだと納得しないよね。いいよ、尋問でもなんでもやってくれて。だけど、恵には嘘偽りを言わない縛りを設ける。我々は、呪霊と通じていないと分かれば、それ以上疑わないという縛りを設ける。これでどうかな」
楽巌寺嘉伸は、勝利を確信していた。生徒達から集めた情報だけでも、どう考えても内通者であると確信が出来る事ばかりだったからだ。

□□□
尋問室の伏黒恵の前に、熱々のカツ丼が置かれていた。胃に優しくない料理である事は間違いない。
そして、対面には本日の尋問官である禪院真希が笑顔で座っている。彼女秘蔵の特級呪具游雲が呪霊側の手に落ちた事で帰らぬ物となった。その責任が、伏黒恵にないのは分かっている彼女ではあるが……流石に、末端価格5億超えの品物がなくなったのだ。理解できても感情が許さなかった。
楽巌寺嘉伸より、伏黒恵に全てを吐かせれば……学校の催し物での事故という事で、補填すると確約を貰えていた。つまり、彼女は何が何でも伏黒恵の口を割らせる覚悟があった。
ちなみに、弁償は税金での補填だ。
「伏黒、お互いの為にも正直になろうな。良いか、私の質問に嘘偽りなく確実に答えろ。沈黙したら、話したくなるまでボコるからな。いいか、こっちは游雲の代わりを手に入れるためにも手加減はしねーーぞ」
「分かっていますよ、真希先輩。俺だって、誤解を解きたいですからね」
尋問室の外では、監視カメラと集音マイクから二人の様子をしっかり観察されていた。

「よーーし!! じゃあ、さっそくやるぞ。伏黒……お前は、呪術高専襲撃を事前に知っていたか?」
「知っているわけないでしょう」
伏黒恵は、名誉挽回のチャンスだと思い正直に答える。そもそも、縛りのせいで嘘偽りはいえない。
「だよな~。じゃあ、次な。先日の襲撃してきた呪詛師または呪霊は、お前の仲間か?」
禪院真希の質問に、伏黒恵は必死に答えをシミュレートした。呪詛師については、知らないので問題無い。だが、問題なのは、野良花御(カシマ)である。どの当たりまでを仲間と定義するか、夜のお仲間という意味では確かに仲間であった。分霊であるが、元は野良花御(カシマ)から分かれた存在。
まさか、2問目にして窮地に追い込まれる伏黒恵。
【彼女達の存在がバレない程度の真実を全て吐き出す。具体的な縛りのアウトラインは後回し。真実だけを押し出していき……都合の悪い事は口を割るな。誰もが望む真実だけを口に、この場を乗り切れ。乗り切れば、この鬱憤を夜戦でぶつけてやれ!! 】
伏黒恵は、人間としてランクアップした。
「呪詛師に仲間なんて居ませんよ。それに、特級呪霊花御(カシマ)だって仲間じゃありません。(俺の花御(カシマ)は、分霊なので。それに仲間でなく飼い主です)」
「はぁ?恵~、私は何も特級呪霊花御(カシマ)とかいうのに絞ってきいてねーーだろう。呪霊と繋がっているかと聞いてんだよ」
鋭い禪院真希。だが、それも伏黒恵の想定内。いつ何処で誰と何をといった具体性のない質問の回避など容易い。全ては、伏黒恵の誘導による成果だ。
「(襲撃されてから今まで、厳重の監視下にいました。どうやって、性的に繋がれるって言うんですか。だから、)繋がっていませんよ。(無事に解放されたら、繋がる予定はありますが)」
「おっかしいいな~。じゃあ、なんで、相手の特級呪霊は恵の事を知っていたんだ?心当たりくらいあるだろう」

「（分霊であるカシマには、寝床で色々と話ましたが、特級呪霊がどうやってそれを知り得たかなんて）皆目見当もつきません」
まさに、完璧な回答であった。縛りの拡大解釈による対応。まさか、直近まで呼んでいた〇滅の刃の某柱のコミュニケーション方法が役に立つ時が来るとは伏黒恵も思ってもみなかった。
だが、今はそれが正解だ。
「おい、どうすんだ。こりゃ、流石に白だろう。じいさん、ソッチからの質問もあるんだろう。私からは、とりあえず聞きたい事はきいたぞ」
『花御（カシマ）……確か、あの特級呪霊をそう呼んだと聞いた。どこで名前を知った？』
マイク越しで隣室から覗いていた楽巌寺嘉伸が厳しい口調で詰問する。
「楽巌寺学長は、ゲームとかしないですよね。花御（カシマ）は、スマホアプリ「呪霊ＧＯ」に出てきているイベント呪霊です。最近は、テレビＣＭもやっていてちょっとした社会現象になっていますよ。というか、そっちの学生だってやっている人いるでしょう」
監視カメラや禪院真希からは、見えないように顔を伏せた伏黒恵。乗り切ったと顔がにやけていた。自らの身の潔白は証明され、これからはその呪霊の正体把握に動く事になるだろうと推測していた。
『ほら、だから僕が言った通りでしょう。恵は、そんなんじゃないって。じゃあ、これで無罪放免って事で良いよね』
『ぐぅ!!　分かっておる』
伏黒恵、無事に無罪を勝ち取る。
だが、彼は忘れていた。彼の隣室には誰が住んでいるかを。今までは、死亡したと言う事で空室になっていたので、ベットがギシギシ言おうが、艶っぽい声が多少漏れようが問題なかったが、今は問題がある。
魔女裁判的の状況から無罪を勝ち取り生還した伏黒恵を心底喜ぶ虎杖悠仁。そんな仲間に、この金で今日は外泊してくれとお願いするか、本気で考える男がここにいた。

１２．特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ～その胸で聖女は無理があるでしょう～（１）

感性の強い子供は、大人より呪霊という存在に敏感だ。子供の中には、非呪術師の家系から突然変異で高い呪力を持つ子供が産まれてくる事がある。往々にして、その子供は不幸だ。

人は眼に見える物しか信じない。だから、子供が幽霊やお化けがいると常に言うとどうなるか……気味が悪い存在に思われる。そして、我が子への愛情と天秤に乗せられる。天秤が愛情以外の方向に傾く場合が多い。

その行き着く先は、児童虐待。

国家としても、児童虐待問題の解決は難しい。家庭内事情に首を突っ込みづらいし、往々にして揉めるため、費用対効果が悪い。公務員は、色々と業務を抱えており、児童問題にだけ注力する事が出来ないからだ。

家庭問題と行政に間につけ込んだのが呪術業界だ。

呪霊を肉眼で確認出来る呪力を持つ子供。要らないのならば、金で買い取ると。買い取った目的は幾つかある。オーソドックスなのが、自らの呪力を後生に残す為の子作り用。最悪なのが、呪術の実験やその神秘の解明のためモルモット扱い。

児童売春どころか人身売買が平然と日本で行われている。

そんな呪術師達の勝手が許されて良いのだろうか、許されて良いわけがない!!

呪霊問題に加え、呪力を持つ特殊な児童問題解決にも手を出すサイバーダイン・システムズ。国家としても人身売買をする呪術業界を知っていて見逃しているとは思われたくない。この事が公になれば困りますよねと優しく呟くと、快く協力を申し出る。そして、把握している呪力を持つ子供の情報を提供する。

□□□

呪術高専一年に依頼された事は、昨今発生している児童が行方不明

になる事件の調査だ。日本で発生する行方不明事件には、呪霊が関わっている事が多い。よって、この手の仕事は呪術師達の食い扶持である。
　その調査に派遣されるのは、虎杖悠仁、伏黒恵、釘崎野薔薇の生徒三名に加えて、引率の五条悟だ。五条悟には、虎杖悠仁の暴走抑止と伏黒恵の監視も仕事に含まれている。
「五条先生、調査といっても何から始めるの？　近所の聞き込みとか？」
「悠仁は、素直だね。まぁ、そういった雑務は、補助監督達の仕事。僕達は、その調査結果から実行犯の排除と子供達の救出。ちなみに、二級呪術師が既に失敗している。でも、安心してよ。今回は、僕も着いていくから」
「で、その実行犯とやらは何処にいるんすか？　まぁ、今回の呪霊はどうせ糞野郎だし、遠慮なくぶちのめせるな。先生、終わったら銀座で寿司お願いね」
「ずりーー釘崎。俺は魚より肉が食いたいんだって。な、伏黒もそうだろう？」
「俺も寿司に賛成だ。肉は、昨夜…いいや何でも無い」
　そして、五条悟の先導されて着いた場所は修道院だった。
　実質、児童養護施設も兼ねている。施設は、最近建築されたかのように清潔感が溢れている。敷地内には、庭で遊ぶ子供達。
　そこには確かに笑顔があった。ある少年は、サッカーを。ある少女は砂場で。平日のお昼に相応しい平和的な光景であった。但し、そこで遊んでいる少年少女達が、補助監督達から渡された資料にいる人物であるという一点を除けばだ。
『こらこら、ガキども遊んでないでお昼の準備を手伝いなさい。全く、なんで私が洗濯や食事の準備なんて～』
　色白で銀髪の修道女。だが、遠目でも分かるほどの整った容姿……プロポーションも抜群であった。
　しかし、言動と行動が微妙に不一致する様子。
「な、なぁ、もしかしなくてもアレって呪霊？　あの男の妄想を山盛り

したようなツンデレ修道女が!?　あんなの女の敵だろう。よーーし、私に任せておけ一人で除霊してきてやるよ」
釘崎野薔薇は、女の敵を除霊しようと意気込んでいた。
そして、修道院の敷地に踏み込もうとする。だが、そこに院長がやってくる。柄の悪い人達が修道院の周りを彷徨いていれば、責任者が出てくるのは当然だ。
「おやおや、この修道院に何用ですかな？　院長のバラライカだ。お話があるなら伺いますが？」
顔に火傷のあるロシアマフィアみたいな女性の登場。院長と言うより、屈強な傭兵を従えた女指揮官と言われた方が１００倍しっくりくる。
「何用って、そりゃ、あの呪霊を祓うんだよ。なんで、神の家？でいいんだっけ。そんな神聖な場所で呪霊を飼ってるんだ」
釘崎野薔薇が今にも釘を打ち放ちそうだが、その射線上に院長が居座る。
「口の利き方に気をつけろイエロー・モンキー。呪霊がどうした？貴様等は呪術師とかいうシャーマンだろう。彼女の何が問題だ。口は多少悪いが、面倒見の良い奴だ。後、飼っているんじゃない。勝手に、住み着いているだけだ」
「こわ!!　今、勝手に住み着いたっていったよね？」
サイバーダイン・システムズが出資する修道院と呪霊は、全くの無関係。勝手に住み着いている。よって、完全に無関係だ。呪術高専内にだって、呪霊は存在していた。なのに、呪霊側とは繋がっていないと明言している。
つまり、偶然敷地内に呪霊が住み着いているだけと言い張れば基本的に無罪が押し通せる。
「落ち着け、虎杖。ご婦人、彼女と一緒に遊んでいる子供達についてはご存じですか？」
女性に対して紳士的に対応するスキルが身についた伏黒恵。
だが、彼には考えがあった。人型美少女呪霊……つまり、これはコッコロや花御（カシマ）同様であると理解していた。と言う事は、条件を満た

せばＧＥＴ可能だ。だからこそ、ここは院長から情報収集をする必要があった。
「詳細は知らん、聞こうとも思わん。だが、子供達はここに来るまで皆酷い扱いを受けていた。言いにくい事だが、呪霊が見える事で親から虐待を受けていたのだろう。他にも、実の親に呪術師へ金で売られそうになった子供もいる。平和といわれる日本で笑わせるな。祖国よりよっぽど治安が悪い」
　そんな子供達を保護している場所がここなのだ。
　つまり、子供達の面倒を見ている呪霊である彼女を排除して、親元に帰す。その選択肢がどんな末路になるかは、呪術業界に身を置く者としては手に取るように分かる。芋づる式で、この依頼元がどんな連中かもわかりやすい構図だ。
　実に心を抉る依頼である。そんな真相に目を背けたいと思っていると問題の呪霊がやってくる。
『バラライカ、そろそろ昼食の――。誰かと思ったら無能な呪術師達じゃない。懲りないわね～。子供達は私が預かっているわ、返して欲しければ』
「邪ンヌお姉ーちゃん。ごはん食べよう」
　強キャラのイメージを出そうとしたら、幼気な少女からお昼のお誘い。洋服の端っこを摘まむあたり尊い。
『――　貴方達、そこで少し待ってなさい。ガキどもが昼食を終えたら相手してあげるわ。ちょっと、そこの柄が悪そうな女、その残念な者を見るような目むかつくわね』
「柄が悪そうなのはどっちだよ。私には、釘崎野薔薇って名前があるんだよ」
『奇遇ね。私も名前位あるわ。ジャンヌダルク・オルタ……人間の負の感情が生み出した英霊ジャンヌダルクの特級呪霊よ』
　この時、五条悟の脳に電流が走る。
「ジャンヌダルクってあの聖女で有名な？　いや～、その胸で聖女は無理があるでしょう」
　呪術高専の一年全員が言いたかった台詞を代弁した五条悟。そ

の一言は、分かっていても口に出しては駄目な物である。

13．特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ～その胸で聖女は無理があるでしょう～（2）

修道院で子供達と一緒にカレーをごちそうになった呪術高専一年生達と五条悟。出された食事は、院長含み皆と同じ物であったので、遠慮無く食べていた。

口では文句を言いつつ面倒見が良い特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ。子供達の食事の面倒を見つつ、片付けまでしっかり行う。更には、食後の昼寝には童話を読み聞かせるあたり、子守のお手本みたいであった……当の本人は、夜のお手本な体つきをしているのに全くけしからん存在だ。

子供達を寝付かした後、約束どおり呪術師達に立ち向かう。呪術師達の先鋒をきるのは釘崎野薔薇。

「ジャンヌダルクっだっけ？　なんで、こんな事をやってんだ」

『ふっ、私は呪霊よ。当然、子供達に地獄を見せる為よ。どんな地獄か知りたいかしら？』

地獄……確かに、知性ある呪霊なら可能だろう。

先ほどまでの行動からは考えられない回答であった。だからこそ、釘崎野薔薇も悩む。コッチが本性であるならば、何の憂いもなく除霊に挑める。

ジャンヌダルク・オルタがチラチラと釘崎野薔薇を見る。まるで、何かを聞いて欲しそうな雰囲気だ。その眼差しは、まだかな～という子供のような眼だ。無視を決め込む釘崎野薔薇。

「ほら、釘崎……聞いてやれよ。なんだか、見ているコッチがいたたまれなくなってきたぞ」

「嫌だよ。だって、聖女の事、嫌いだから。あんなのが世に蔓延したら、困るだろう。私には分かる、アレは女の敵だ。虎杖もあんな女がいいってのかぁ？殺すぞ、この童貞野郎」

シクシク

「釘崎もいい加減、聞いてやれよ。泣き始めただろう。安心しろ呪言

の類いの能力は持っていない。どうやら、性能は物理特化タイプらしい。いいから、聞いてやれ」
伏黒恵が「呪霊ＧＯ」のアプリを使い彼女の情報を収集していた。正式公開されていない隠しエネミーである彼女。その入手条件を求めていたが、情報が少なすぎて彼の手に余っていた。かといって、この情報を公開すれば日本全国から猛者があつまり、入手条件の特定に至るだろう。
無論、誰かが手に入れたジャンヌダルク・オルタを強奪するのも一つの手だ。
「はぁ～、で、地獄ってなんなのよ。言ってみな、聞いててやるから」
『知りたい？　知りたいのよね？　仕方ないわね、教えてあげるわ』
実に嬉しそうなジャンヌダルク・オルタ。その反面、釘崎野薔薇は疲労が溜まる。やる気が削がれるというレベルではなかった。
『この児童養護施設では、毎日7時に起床。バランスの取れた食事を与えているわ。朝寝坊したいとか、ジャンクフードが食べたいとかそれができない子供にはさぞ地獄でしょうね。後ゲームも一日一時間まで』
「……で、他には？」
規則正しい生活と健康な食事……我が儘が言えず、好き嫌いが許されないなんて確かに辛い。呪霊は、人の嫌がる事を的確に捕らえていた。
『子供が嫌いな勉強も毎日やらせているわ。そんな自由がない生活を強いて、小学校、中学校、高校、大学までずーーと繰り返すのよ。高校生になったらアルバイトさせて、その内何割かはピンハネするんだから』
「……で、他には？」
子供達から不労所得を得ようなど、極悪人だ。人材派遣会社すら真っ青なピンハネだ。人間から恐れられる呪霊のやる事は非人道的すぎる。
『そうね～、授業参観にはママとして参加してあげるわ。きっと、恥ずかしい思いをして悶え苦しむでしょう。想像しただけで、気持ちが高

まるわ。後は……洗濯物とかも一緒に洗うわ。いい年した子供は、親と洗濯物を一緒に洗われるのを嫌うらしいからね』
「……で、他には？」
　学校での子供の立場を考えない鬼畜な行為。そんな事をされたら、学校で虐められる事間違いない。更には、多感な年頃の子供の洗濯物を一緒に洗うなど、それが親のすることか!!
『ここからが本番よ。大学を出た子供は、数十年という残りの人生を社会の歯車として死ぬまで働く事になるのよ。確か、今では年金問題とかで少人数で沢山の老人を支えないといけないんでしょう。まさに地獄よ。それから、結婚して家庭までもてば地獄から簡単に逃れる事はできない。どう？この完璧なプランは』
　恐ろしい計画であった。地獄とは、天国を知っている者しかそれを認識出来ない。地獄にずーっといればそれは、唯の日常なのだ。
　ジャンヌダルク・オルタは、子供を育て上げて日本社会という高齢化まっしぐらの地獄に解き放とうとしているのだ。まさに、悪魔の所行だ。この真実を知った子供は、色々な意味で涙するだろう。
　その自信満々の地獄プランは、確かに地獄だ。間違いなく地獄。それは現代人が保証する。この話を聞いていた呪術高専一年生も五条悟も確かに地獄だわと認めるほどだ。
「なぁ、先生。私らの前に二級呪術師が失敗したって言ってたよな。原因は？」
「任務放棄。なんでも、彼女を除霊するくらいなら、売買関係者を全員捕まえてくると意気込んでいたらしいよ。いや～、御三家の連中や呪詛師達も結構関連しているから大変だろうね」
　知らされていない情報。だが、五条悟も任務放棄した決定的な理由までは知らなかった。しかし、今になって理解した。こりゃ、人の心を折りに来る呪霊だと。単体での強さも去ることながら、人の心をよく分かっている実にやりづらい相手だと。
「よーっし、虎杖。お前がやれ。得意だろう？　女を殴るの」
「酷い誤解!!　あの時は俺が俺じゃなかったというか…」
　ＹｏｕＴｕｂｅで既に１００万再生を超えた全裸カシマフルボッ

コ動画。運営により不適切なシーンが多いという事で既に削除されているが一度出回った情報が消える事が無いのが現代だ。
そんな動画のお陰で不名誉な称号を得た虎杖悠仁であった。

１４．特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ～その胸で聖女は無理があるでしょう～（３）

なぜか、むりやり選手交代された虎杖悠仁。
状況が状況だったにせよ花御（カシマ）をボコボコにした経緯がある。だからといって、児童養護施設で子供達を地獄に送ろうとする特級呪霊ジャンヌダルク・オルタを殴れるかと言えば別問題だ。
「ほら、虎杖ファイト。除霊したら、うまい棒１本奢ってやるから」
「いらねーーよ。しかも、安いよ!!　つーか、もう勘弁してよ。この間の動画だって、世に出回っててさ……俺、この間コンビニ帰りに知らない人に卵を投げつけられたんだぞ。『この人でなしが』って言われて。結構、心に来るんだぞアレ」
「安心しろ虎杖。俺は、赤の他人から『死ね』って言われて石を投げられたぞ。憑いていた低級呪霊《カシマ》を払ってやった事を今でも根に持っていやがった」
伏黒恵は、不幸な事に動画サイトに投稿された映像から、彼も映っており花御（カシマ）の元持ち主に見つかってしまった。当然、元持ち主としては、許せるはずもない。恨みを言うためにはるばる東京の地にまで足を運んできて、石を投げつけた。
それだけで済んだのは元の所有者が非呪術師であり常識人であったからだ。これが呪術師や呪詛師なら生死を賭けたリアルファイトに発展している。
『あら？怖じ気づいたの？　今なら見逃してあげても良いわよ』
「そんなことねーーよ。ただ……なんで、そんな防御力薄そうなの着ているんだよ。もっと、厚着しろよ!!　肌が見えてんだよ!!　どうせ、またダメージが衣服に蓄積されて、徐々にパージされていくんだろう。本当に勘弁してくれよ」
これから打倒しようとする敵側の心配をする虎杖悠仁。
青少年の目に毒といえる特級呪霊ジャンヌダルク・オルタの戦闘用コスチューム。自らの体に絶対的な自信がないと着衣すらできない

服装は、視線誘導する兵器となりうる。呪霊がそんな戦略を用いてくるとは卑怯といっても過言ではない。
『ば、ばっかじゃないの!?　あんな、特殊変態仕様なのは花御(カシマ)だけに決まっているでしょ。私のは、ダメージを受けても脱げないわよ……脱がさないわよね。嫌よ、全国に裸の映像を流されるのは。近寄らないで、この女の敵が』
　同じ呪霊でありながら大先輩の花御(カシマ)をディスる後輩。確かに精霊に近い花御(カシマ)にとって、裸など気にするほどでもない。植物は常に全裸なのだから。
　特級呪霊ジャンヌダルク・オルタは、一般常識を持ち合わせている。当然、虎杖悠仁による全裸花御(カシマ)フルボッコ動画も視聴済みだ。よって、大衆の面前で脱がされて、ボコボコにされる事を警戒していた。
　服を抑える事で胸が無駄に強調される。そして、嫌がる様は、男心を擽る。これで聖女だ。……いいや、寧ろ、日本的に言わせれば『これが聖女だ』と言うべきだろう。
「するわけねーーだろ!!　あれは、東堂の術式で俺にはできない。つーーか、この状況どうすりゃいいんだよ。呪霊を倒したら、子供達は親元。だけど、その親が糞過ぎて何も言えねーーよ。でも、ここに居たら子供が……あれ?　別によくね」
『いけないんだ〜。子供達が地獄にいっちゃうのに、見捨てちゃうんだ。呪術師って案外冷酷なのよね。まぁ、いいわ。殺さない程度に痛めつけてあげる。……アッチでガキ共が見ているんだから、適当に負けなさいよ。手加減してあげるから（ボソリ）』
　感性が強い子供だから感じた呪力の高まり。そして、目を覚ましてしまった。部屋の窓から、呪術高専の人達とジャンヌダルク・オルタが今にも争いをする所がよく見える。子供達がどちらの味方かと言えば、当然特級呪霊側だ。
「邪ンヌお姉ーちゃん!!　負けないで」
「邪ンヌ。そんな変な人達なんてやっつけちゃえ」
「邪ンヌお姉ーちゃん」
　ちなみに、この状況……最初から最後まで全て動画サイトに投稿さ

れている。地獄のくだりではネット視聴者からの共感が多数寄せられていた。そして、今現在、全国の「呪霊ＧＯ」の猛者達が、この児童養護施設に向けて移動を始めている。

けしからん聖女を手にれるため、守る為、命を賭ける男達が大集合だ。未成年呪術師は、あわよくば、お世話になろうと企てていた。

「よし、わかった。アンタがもっている、その旗で俺を殴ってくれ。それでやられたフリをするから……ってその旗に使われている棒、何か見覚えがあるんですが」

『これね、あの男(義善)が用意したものよ。なんか、特級呪具のレプリカらしいわね。１級相当――特級程じゃないけど、コレも良い品らしいわよ……花御(カンマ)曰くね。じゃあ、男の子なんだから我慢してね』

虎杖悠仁、自分が言った言葉を訂正したくなる。

唯の棒きれならば、呪力と身体能力を駆使すれば何とでもなる。だが、あれは呪具。痛いどころでは済まない。

大事な事だが、特級呪霊ジャンヌダルク・オルタの身体能力は、特級呪霊の中でもトップクラス。更にその能力は身体能力強化系でもある。棒術の心得も当然あり、遠心力が最大になるポイントの最大速度は音速に迫る。

「ちょっと、タン……ぐべし!!」

優しい特級呪霊が手加減したおかげで、青あざ程度で済む。だが、派手に転がったお陰で砂まみれになり、衣服はボロボロだ。

「ナイスファイト、虎杖」

「ナイス、うまい棒は二本くれてやろう。感謝しろ」

伏黒恵と釘崎野薔薇から有り難いお言葉も貰い。虎杖悠仁は、不幸だと涙を流しそうになった。だが、子供達が見る手前、その役目に徹する男でもある。

「こ、これで勝ったと思うなよ!!　……で、五条先生本当にどうしよう、これ」

「今まで色々考えていたけどさ、この程度の特級ならいつでも払える。それに、現状維持の方が上層部への嫌がらせになるでしょう。だから、依頼は随意継続中…なーに、問題無いさ。文句があるなら、僕を

倒してからにしろって押さえつけるから」
　五条悟、特級呪霊を監視下におくという名目で依頼を現状維持にする事を決めた。どうせ依頼元は御三家や呪詛師などの後ろ暗い連中ばかりだ。せいぜい、困るのは子供を捨てようとした非呪術師達だけだ。
『ガキ共、服が汚れるから泣きつくな』
　一戦を終えた特級呪霊ジャンヌダルク・オルタの元には、彼女を慕う子供達が泣きついていた。もし、彼女がいなくなったら子供達は呪詛師に落ちることだろう。それもその標的は呪術師になるだろう。
□□□
　バラライカは、呪術高専の人達が帰り支度をする最中、伏黒恵を呼び止めた。コレは、出資者から依頼されている事で、一定基準を満たしている者に伝えるように言われている事だ。
「貴様に良いことを教えてやろう。「呪霊ＧＯ」には、特定団体への寄付が可能だ。最近実装された機能があるだろう。その中に、サイバーダイン・システムズが運営する児童養護施設も含まれている」
「ま、まさか…!?」
「理解が早くて助かる。なんせ、子育てには金がかかるからな、一企業からそれなりの融資こそあれど、大学まで出すには費用も馬鹿にはできない。１本１００万。５本寄付すると低級呪霊がお前さんのものだ。見込みがある貴様には、これもやろう」
　一枚の通信販売パンフレットがバラライカより手渡される。
　俗に言う施設で作った商品を一般消費者に購入してもらい、施設運用の足しにするアレだ。だが、バラライカより手渡されたラインナップは、修道服やジャンヌダルク・オルタ専用の礼装など他では手に入らない品々。
　一般市場では出回らないような商品で、完全受注生産。実に、素晴らしい。
　その中で、伏黒恵が気になった商品があった。そして、スマホで自らの残高を調べる。二級呪術師である彼は並みの高校生とは、懐事情が違う。

既に、本日５００万も使った苦しい財政であるが、即座に追加注文をした。
「この檜造りの懺悔室を一つ。あぁ、配送はクロ〇コヤマトで」
「最近の子供は、金をもっているな。まぁ、こちらとしては有り難い限りだ。これからも末永くよろしく頼むよ」
伏黒恵…ロシアマフィアに悪人は居ないと理解した。

□□□
伏黒恵がロシアマフィアと仲よくやっている頃。
虎杖悠仁は、またもや窮地に追い込まれていた。あの一戦の後、流石に砂まみれのまま返すのは申し訳ないと特級呪霊ジャンヌダルク・オルタからの申し出をうけて、お風呂を借りていた。
だが、そこに大きな問題があった。
『へぇ～、なかなか鍛えているじゃない。年の割には悪くないわ』
「どうしてだよ、どうしてこうなったんだよ」
特級呪霊ジャンヌダルク・オルタにとっては、高校生など子供と同じ。よって、敗北してくれたお礼も兼ねて背中を流しに来たのだ。彼女としては、完全に善意からの行為である。
『あら、どうしたのそんな顔を真っ赤にして。私がこんなことしてあげるなんて滅多にないんだから、光栄に思いなさい』
虎杖悠仁……この時、本気で両面宿儺に状況を説明して助けを求めていた。だが、冷たく見放される。
後日、その事を伏黒恵にこっそり話したら、真顔で「俺が幾ら消費したと思ってんだ。この天然ジゴロめ、死ね」と言われ、友達を止めようかと思う彼であった。

１５．閑話～サイバーダイン・システムズ～

サイバーダイン・システムズ社――日本屈指の大企業の一つ、アンブレラ・コーポレーションと双璧を成すワールドワイドな企業である。

今や飛ぶ鳥を落とす勢いの「呪霊ＧＯ」の開発運営元。その人気は、美少女を捕まえた育成及び対戦するだけに留まらず、特定の条件を満たせば下級呪霊が憑いてくれるという事実だ。その影響のお陰で、旧時代の呪霊達が徐々に数を減らす。

呪霊による行方不明事件数が激減する様な社会的貢献をする会社である。

サイバーダイン・システムズの本社地下には、特別な部門が設けられている――呪霊及び呪具の研究開発部門。その場所こそ、「呪霊ＧＯ」の運営チームが拠点としており、夏油一派との密会場所でもあった。

しかし、密会場所であったこの場所は既に夏油一派の生活拠点へと変わりつつあった。何不自由ないこの場所……呪術師達の通話記録、現在地、霊的ネットワークによる呪霊達の状態もここで一元管理されていた。食事を頼めば一流のシェフが旬の食材で最適な料理を用意してくれる。ココを出て行く必要性が全くなかった。

その施設内を義善聖徳と漏瑚が共に歩く。そして、明るい何もない空間を前にして、足を止める。

『にしても、義善。お主、本当に人間か？肉眼では、見てないにしても、あれらをみて何か思うことはないのか？』

「特級仮想怨霊でしたか。感謝の念しかありません。怨霊に一定の方向性を持たせて望む形を作り上げるのが我々の独自技術。これから産まれてくる彼女達こそ、我々の……いいえ人類の希望です。そうは、思いませんか漏瑚（シノブ）様」

地下の隔離施設では、呪術師達に高い金を払い呪力が漏れない特殊壁を造り納品させていた。その素材で囲まれたこの施設の呪力が外に漏れ出すことはなかった。

『ふん、確かに義善がやろうとしている事は儂が目指していた呪霊こそが本当の人間になりえる方法だろう。手段は、好みでないが到達点は同じだと考えている』
「ええ、１００年後の日本の頂点には、間違いなく呪霊が立っているでしょう。私としては、そんなトップ…王には、漏瑚（シノブ）様が相応しいと思っているのですがね。その肉体になり、影を操る能力、不死性、エナジードレインなどの能力も得られたはずです。今では、両面宿儺の指に換算して１２本分でしたか」
　短期間で呪霊として格段に力を付けた漏瑚。だが、そんな漏瑚でも本気の五条悟を相手にして生き残れる自信はなかった。だからこそ、まだまだ準備を怠らない。
　その一環が、呪具の作成だ。足りない部分は、道具で補う。当然のやり方だ。
『呪力が増した件については、感謝しとる。それも、非呪術師のおかげというのが更に驚きじゃ。義善は、生かす価値のある人間だ。で、褒美は何が欲しい？　他の奴ら同様に分霊か？』
「おや、頂けるのですか？　今まで、結構しぶっていらしゃったのに」
『そりゃ、ただの非呪術師のくせに、一体何体の特級呪霊を手駒にしている。ここまで増えてしまったら、儂の分霊を渡したところで変わらん。何より、儂だけ分霊を渡していないと、ケチ臭く思われてかなわんからな』
「有り難く頂戴致します」
　義善聖徳の後ろには、三歩下がってしっかりと今まで実装された特級呪霊達がいる。花御（カシマ）、陀艮を除けば全てオリジナル。無論、花御（カシマ）、陀艮の達の分霊は、バックアップでもあり一応特級クラスの力を保有していた。ここに漏瑚（シノブ）の分霊まで加わる。
「呪霊ＧＯ」の運営チーム全員に、準一級以上の分霊が憑いている。護衛は勿論私生活のサポートも万全であった。特級呪術師でもなければ「呪霊ＧＯ」の運営チームに手を出そうとも思わないだろう。
……
……

…

地下のトレーニングルームで、真人と花御がお互いの能力を駆使して競い合っていた。双方呪具や能力を使った戦いは、軍配は花御にあがる。

『いやー、参った。花御は本当に強くなったね』

『これも真人のお陰です。貴方が達人達の魂を解析し、私の魂にその技術を焼き付けたお陰で可能となった技能です』

二人の戦闘データは、サイバーダイン・システムズでしっかり保管して、役立つことになる。これから産まれてくる呪霊達の教育材料として。

「あぁ、花御(カシマ)さん。施設内を出歩くときは、衣服を再現させてからお願いしますね。同志達から目に毒だと言われております」

ベットの上やお風呂ならいざ知らず日常的なオフィスで全裸の花御(カシマ)がいるのは目に余る光景であった。

『ねーねー義善。漏瑚達だけパワーアップしたのに俺だけ置いてけぼりは酷くない？　ほら、俺にだって何かパワーアップ案くらいあるでしょ？　』

「そうですね～、真人様は人の負の感情から産まれた呪霊だと聞いております。強くなるには、単純に二案あります。他の方同様に、存在の上書きを許容する。もしくは、呪具による外付けパワーアップです」

真人は、悩んだ。

仲間に置いていかれている感は確かにある。だが、花御を花御(カシマ)、漏瑚を漏瑚(シノブ)にされている。魂レベルで書き換えられており、手の施しようがなくなっていた。つまり、それを許容出来るかという事だ。

『前者で男性を希望した場合はどうなるの？』

「そうですね～、真人様の無為転変の能力に合う素晴らしい方がおります。黎明卿と呼ばれ聡明なお方です。彼に存在を上書きできたならば、呪霊の世界が来るのを百年単位で早める事ができるでしょう」

真人は直感で理解した。絶対に、やべーー奴だと。自分以上のゲス外道であると。結局、呪具のによる外部パワーアップで落ち着く事に

なる。
この時、真人が前者を選んでいたら「呪霊ＧＯ」の初の男性特級呪霊ボンドルドが誕生していた。彼は、知らずに呪術師側に味方する。

16．閑話～三輪霞～

呪術師界隈では、とある企業が出している秘密の高額アルバイトで除霊より稼いでいる者達が多い。その大半が、呪具の制作技能を持つ者や珍しい術式を持つ者達ばかりだ。当然、儲け話には裏がある。誰もがアルバイトを終えた後、どんな仕事内容だったか記憶していない。

金を切実に必要としている呪術師――三輪霞。

姉妹校交流会にて、活躍の場がないだけでなく、特級呪霊襲撃の際は寝て過ごした強者。更には、禪院真希に取られた呪具の刀剣は真っ二つ。そのお陰で、仕事にも影響が出ていた。

彼女の家は、貧乏であり、二人の弟がいる。それ故に、彼女は家庭を支える為にも早期に前線復帰して稼ぐ事が必要だ。だが、新しい呪具を用意するにしても、高い。レンタルするにしても求める品質の呪具でなかったり、得意な獲物でなかったり、散々だ。

ここ最近では、呪術師に依頼が回ってくる仕事は2級呪霊が関わる案件が殆どであり、3級呪術師の彼女には荷が重い。仕事道具の呪具次第ではどうとでもなる範囲だが、今の彼女にはどうしようもなかった。

しかし、捨てる神あれば拾う神あり。

三輪霞は、メカ丸の紹介で大口案件のお仕事が回ってきていた。メカ丸の製造にも関わっている日本屈指の大企業サイバーダイン・システムズ。今現在、彼女は、お仕事について説明を受けて契約直前であった。

「あの～義善さん、本当に仕事というのは呪霊と全力で模擬戦をするだけですか？」

「その通りですよ、三輪霞様。一週間、我々が指定した場所で指定したターゲットと模擬戦をするだけ。万が一怪我などをされた場合でも完璧に治癒致します。我々はクリーンな企業ですので、企業イメージを損なうような事は致しません」

三輪霞は、信頼できる仲間からの紹介である為、前向きであった。

更には、流石は大企業といえる契約金。前金で１０００万、後金で１０００万。更には、気に入った呪具を一つ貰えるという大盤振る舞い。コレに乗らない手はなかった。短期間でこれだけ稼げるなど特級呪霊の除霊くらいだ。

「分かりました!!　この役立たず三輪、お仕事をしっかりやり遂げます」

「それは僥倖です。我々の仕事は機密が多いので、注意事項は絶対厳守です。損害賠償は、一般人の生涯年収を遙かに凌駕しますので、命を賭けてくださいね」

金額に似合った縛り。

だが、命の危険が無く短期間でこれだけの金額を稼げるのだから当然だ。しかも、違法性のない仕事だ。相手も縛りを結んでいる以上、絶対安全であった。

……

……

…

三輪霞、契約書にサインしてそのまま仕事にうつる。彼女は、義善聖徳の後に続きサイバーダイン・システムズを歩く。道中では、一般人が見ることがないような最先端技術の研究が行われている。

その最奥にまで辿り着き、エレベータにのる二人。

「三輪霞様。呪術師の方において縛りは絶対です。我々は貴方に危害は加えません。ここで知り得た事は外部に漏らさない。命を賭けて貰っています」

「ええ、その通りです。なんで今更？」

エレベータを降りた先にある扉を幾つも進んだ。最後の扉の前で義善聖徳は、改めて契約内容と縛りを再確認する。その理由は……。

「この先は、呪力に当たられて暴れられても困りますからね。ようこそ、三輪霞様」

扉が開いた瞬間に漏れ出す凶悪なまでの呪力。

三輪霞は、うまい話には裏があると理解する。だが、知っていたとしてもあれだけの好条件の依頼を無視できるかと言えばそうでもな

い。いっそう、金の為と割り切ってしまえばいい。どうせ、ココで見聞きした事は全て忘れる縛りなのだからと彼女は大人になった。
この地下の扉を潜ってから、義善の側には何人もの特級呪霊が側についた。三級呪術師の彼女……しかも呪具もない彼女にはどうすることもできない。
「コッコロ、彼女の部屋を用意してあげてください。これから、一週間しっかりお世話をお願いしますね」
『はい!! 主さま。さぁさぁ、三輪様どうぞこちらへ』
人生で特級呪霊にお世話して貰えるなんて滅多にできない経験だ。そんな最中、彼女はある物に目を奪われた。培養液に浮かぶ胎児のような物体。
「三輪霞様、お目が高いですね。あれは先日ビジネスパートナーから借用させて頂きました受胎九相図達です。素晴らしいですよね、人と呪霊のハーフが既に実在していたんですよ。我々が求める到達点。その完成形が既にあるとは、世界には素晴らしい私見を持つ方が溢れている。既に実物がある以上、後は我々の得意分野です」
自慢げに説明する義善聖徳。だが、傍らでその話を聞く三輪霞には理解が及ばなかった。理解したくもないと本能で拒絶していた。見た目に反して、ここまで壊れた人間を初めて見た彼女であった。
……
……
…
呪具の研究の末、生み出された科学の力で生み出された人造呪具。並べられている刀剣、槍、鎧、銃など古今東西の武具。これだけの呪具があるなど、御三家の宝物庫でも早々にお目にかかれない。
そんな宝の山を目の前に三輪霞は、真剣に獲物を選ぶ。
「得意な獲物を選んでください。シン・陰流と伺っておりますので、その刀などお勧めですよ。江戸時代の名工が作った作品で2級呪霊の体液に二ヶ月漬け込んだ一品です」
「うーーーん、一応呪具ですが~コレじゃあ弱いですね」
義善聖徳も呪具の善し悪しの見分け方はまだまだであった。

そこに専門家の登場だ。新しい先生の到着が遅く、態々足を運んできた花御（カシマ）。呪力を感じ取った三輪霞。叫び逃げ出さなかったのは、身の安全が保証されていたからだ。これが野良で出会っていたら、即座に逃亡していた。

『義善の目利きは、まだまだですね。で、この方が新しい先生ですか？』

「花御（カシマ）様、お待たせして申し訳ありません。この方が、シン・陰流の先生です。領域展開に対抗可能な簡易領域を展開出来る程の使い手。あぁ、殺しては駄目ですよ、生きて返すお約束をしておりますので」

三輪霞、この地下施設に入ってから薄々感じでいた。姉妹校交流会で生徒を襲った謎の特級呪霊達。加えて、昨今呪術業界を騒がせている特級呪霊。全て、サイバーダイン・システムズが関わっていたんだと。

『顔色が悪いですね。体調が悪いなら真人に治させましょう。さぁ、シン・陰流の奥義を見せてください』

「いや～…あの～、彼女って確か呪術高専を襲撃した特級呪霊じゃなかったけな～なんて思って」

「その通りですが、何か？　三輪霞様、深く考える必要はありません。貴方は、約束どおり仕事をこなしてお金と呪具を貰って帰れば良いんです。どうせ、ココでの事は覚えていません。さぁ、模擬戦を始めましょう」

約束どおり、全力で模擬戦にのぞみ、手の内を全て晒す三輪霞であった。

□□□

【皆さん、役立たずの三輪です。ここ一週間、メカ丸から紹介された秘密の高額アルバイトをしましたが、内容を全く全然覚えていません!!

なぜか、口座に２０００万円と準一級相当の刀が手元にあります。とても恐いです。アレですか、これが噂の催眠おじさんに催眠をかけられた的なアレでしょうか。弟たちがそんな本を隠し持っていました。今から将来が心配です】

三輪霞は、全てを忘れて、大金と新しい呪具を手にしていた。そし

て、仕事を紹介してくれたメカ丸に感謝として単四電池を贈る。

１７．呪胎九相図（１）

呪胎九相図――明治の始めに実在した時代を先取った鬼才の術師・加茂憲倫が作り上げた人間と呪霊のハーフの胎児。その数は全部で九体も存在している。ナンバリングされており、呪術高専が保管していた１番～３番を真人が強奪した。

強奪された呪胎九相図は、巡り巡って運命的な出会いを遂げる。現代日本が誇るＨＥＮＴＡＩ達の手に寄って受肉を果たす事になる。受肉に際し、当然手を加える。それが日本人だ。

そして、彼等の手に掛かれば、呪胎九相図を女体九相図に改変する事も決して不可能ではない…その結果、誕生したのが兄妹である。

髪を結い、厚手の和服を着た男性――脹相（ちょうそう）。脹相（ちょうそう）だけは、既に胎児が成長しすぎており、ＨＥＮＴＡＩ達からの魔の手を逃れていた。

自分を元男だと信じてピチピチの服を着込み、横乳が見え、半ケツが見える際どいタイツのようなズボンをはいた――壊相（えそう）改めマイ＝ナツメ。

誰がどう見ても下乳が見える際どい上着を着て、超ミニスカを履く――血塗（けちず）改めアリサ・イリーニチナ・アミエーラ。

この兄妹の誕生を「呪霊ＧＯ」開発運営チームは、泣いて喜び祝福した。そのような祝福など気にも掛けず、――お互いがお互いの為に生きる事を誓った情の深い兄妹だ。

そんな情に厚い兄妹達が密会している。

『呪霊側につくぞ。受肉の恩は忘れろ』

『大丈夫かな？　アイツら胡散臭いよ、兄さん』

『呪霊が描く未来の方が入れた俺達にとって都合がいい。ただ、それだけの事だ。受肉の恩は忘れろ。良いか妹達』

人間と呪霊のハーフとは生きにくい。

現在進行形で改変されているが、まだ兄妹が求める基準に達してなかった。

『壊相（マイ）は、血塗（アリサ）のために』

『血塗（アリサ）は、俺のために』

『俺は、壊相（マイ）のために。俺達は三人で一つだ』
素晴らしい兄妹愛。
サイバーダイン・システムズの地下施設にある密室には、監視カメラや集音マイクは当然備え付けられている。その様子は、夏油一派や「呪霊ＧＯ」の運営陣営に見られていた。そして、兄妹達がＮＰＣとしてゲームに実装され、そのバックストーリーに今の感動の話が盛り込まれる事が決定した。
□□□
呪術高専の一年生達は、姉妹校交流会を終えて新たな任務――呪霊による刺殺事件の調査を行っていた。調査を進めるにつれ、事件の真相が見えてきた。伏黒恵の地元にある八十八橋での肝試しが原因であり、伏黒恵の姉にも関連している事実が判明した。
時限式発動する呪術であり、早期に解決しなければ姉が呪霊によって殺される可能性が濃厚であった。伏黒恵の姉は、昏睡状態で本人からの事情聴取ができない。
伏黒恵は、被害状況から依頼の難易度が上がったため、自分の都合で早期に祓いたい。その為、単独でも除霊に挑む決心をして、八十八橋の河口にまで足を運んでいた。
「ここまで気付かないとはマジでテンパってるのね」
「別に何でも話してくれとは言わねぇけどさ。せめて、頼れよ。友達だろう」
虎杖悠仁は、良い奴だ。伏黒恵に訳の分からない嫉妬で暴言を吐かれたりしても、気にせず友達と言い切ってくれる。虎杖悠仁が女だったら、伏黒恵は惚れている可能性すら……なかった。影の中にいる美少女達がいるのだから。
三人揃って、川を渡る。
呪術的な意味で川などの境界を跨ぐ行為は意味がある。
渡った瞬間、呪霊側が展開している領域に引き込まれた。そこには、無数のモグラが待ち受けている。術式の範囲や呪力から伏黒恵は、安堵する。経験から、これなら今夜中に終わると。
だが、この八十八橋に用事があるのは、呪術高専だけでなかった。

真人からお使いを頼まれた刺客が一人この場に乱入してきた。
『先客ですか、ドン引きです』
乱入者の風貌は、赤い帽子に、ノースリーブ、赤いスカート、サイハイブーツを決めた異国の美少女。だが、短すぎるスカート、下乳が見えるノースリーブ……何処に出しても恥ずかしくない痴女。
「ドン引きなのは、こっちだよ!! なんて格好してるんだ。最近は、そんな痴女ファッションでも流行っているのかよ。そんな服何処で売っているんだよ。バカなの日本人」
「伏黒、こいつ別件だよな」
伏黒恵は、何故このタイミングなのだと呪った。
今この状況では、どう考えてもモグラもどきを優先するしかない。一体、彼女を捕まえる条件は何なのだと一瞬考えた。だが、美少女を殴るのは虎杖の役回りだと一定の理解を示す。
「……あぁ」
「じゃあ、オマエらはそっち集中しろ。コイツは、俺が祓う……どうせ、俺の役目なんでしょ」
『なに?遊んでくれるの?』
血塗(アリサ)の言葉が何故かエッチに聞こえるのは、仕様だ。存在自体がエロイのだからそう聞こえるのは、健全である証拠。
どうして、最近の呪霊は、服装から体までエチエチなのかと虎杖悠仁はやるせない気持ちになった。どうせ、また動画が出回るんだと。

１８．呪胎九相図（２）

虎杖悠仁……やると言ったらやる男だ。
だが、そんな彼でも、血塗（アリサ）が持つ呪具に目が奪われる。禪院真希が所有している呪具と違い、時代を感じさせない近代兵器――レイジングロアと呼ばれるガトリング。人間相手に使えば、ミンチを作るなど朝飯前。直撃したら呪力で肉体強化しても、耐えられない。
そんな、重質量の兵器を片手で軽々と持ち上げていた。
「なぁ、伏黒。人間、呪力で強化すればアレに耐えられると思うか？」
「それができたら、呪術師じゃなくてＸ―ＭＥＮにでも入れて貰え。東洋のハルクになれるぞ」
だが、あんな大物であれば懐に入れば問題無いと考える虎杖悠仁。
『貴方の事は聞いているわ。近接用にロングブレードにもなるのよ』
ガコン
血塗（アリサ）が柄の当たりを操作するとロングブレードに早変わり。一体、どんな変形機構が導入されているのか謎兵器である。だが、男というのは、こういうのが大好き。
「か、かっけーーー!! 今の見たか、伏黒。一瞬で大剣に変わったぞ。スラッシュアックスみたいで超かっこいい」
「虎杖も分かっているな。アレはロマン兵器だ……世の中、あんな呪具があるなんて。誰だよ作った天才は」
男達が、小学生みたいに騒ぐ。
釘崎野薔薇だけは理解できなかった。重い、でかい、壊れやすそう。火力だけは高そうだが、メリットよりデメリットがある兵器など欠陥品だと彼女は思っている。金槌と釘だけという、隠匿性、利便性、汎用性、整備性などを考えればどちらに軍配があがるかは言うまでも出ない。
だが、それがいいのだ。
「男って、ばっかじゃないの。あんなの使いづらいだけじゃん。って、虎杖!!」
虎杖悠仁が血塗（アリサ）に背を向けた瞬間。

血塗(アリサ)のロングブレードから黒い何かが飛び出してきた。そして、大きな口を開けて、虎杖悠仁を捕食しようとする。彼女が持つ武器の第三の形態……捕食モード。呪霊や人間を喰らいエネルギーに変える。
釘崎野薔薇のかけ声のおかげでギリギリ捕食を回避した虎杖悠仁。
『外れましたか』
「あ、あぶねーーー。助かったわ、釘崎」
「次は助けねーーからな。しっかり、殺れ」
ロマン兵器を持っていても敵。痴女であっても敵。虎杖悠仁は、スイッチをいれる。ここで倒れたら、仲間が危ない。確実に戦闘不能にすると集中力を高める。
……
……
…
虎杖悠仁は、確実に相手の体力を削っていった。人型というからには、急所も人体と同じである。
『強いわ。あまり、楽しくないわね』
一方的に殴られるばかりの血塗(アリサ)。今まで積み上げた実戦経験が違う。それを身にしみて理解し始めていた。真人がもう少し実践経験を積ませてから送り出していれば状況は違っただろう。
その展開に、伏黒恵と釘崎野薔薇は安堵した。懸念事項であった特級呪霊クラスの乱入者。実力不明で場合によっては撤退すら必要であった。だが、蓋を開けてみれば虎杖悠仁の圧勝。
モグラの処理が終わって加勢に行けば、そこでチェックメイトだ。
油断した一瞬の隙、壁から手が伸びて釘崎野薔薇をがっしりと掴む。そして領域の外へと引きずり出し始めた。その様子に伏黒恵は、あいつよく吸い込まれるなとしみじみ思っていた。
「釘崎!!」
「問題無い。アンタはモグラを叩け」
男前の台詞と一緒に領域外に出された釘崎野薔薇。
……
……

…

釘崎野薔薇は、自分を引きずり出した相手を見て、信じられないと思った。先ほどの痴女に勝るとも劣らない痴女がもう一人現れたのだ。一丁前に呪具の槍を持っているが、服装からポールダンサーと言われた方がまだ納得できる。

槍を胸の谷間に埋めるとか、そう思われても仕方が無い仕草。

「へ、変態だぁぁぁぁぁぁーーーー」

『失礼です。私の何処が変態だって言うんです』

ＩＱ５３万の釘崎野薔薇。変態から感じる呪力は、先ほどの痴女同様に特級呪霊クラス。彼女が知る特級とは――コッコロ、花御（カシマ）、ジャンヌダルク・オルタ、血塗（アリサ）、そして目の前の痴女。もしかして、呪力とエロは密接な関係があるのではないかと。

知ってはいけない真実を知ってしまう釘崎野薔薇……昇級の話があれば断ろうかと考えるようになった。

この間、僅か０．０１秒。

１９．呪胎九相図（３）

伏黒恵……淡々とモグラを狩る。一心不乱に狩る。

「くっそ！　あの痴女のお姉ちゃんだぞ。絶対にスゲーのがいるに決まっているだろう。巫山戯んなよ、この糞モグラが」

釘崎野薔薇が領域外に連れ出された際、伏黒恵は掴んだ者の手を視ていた。彼ほどの男になれば、手から女性のレベルを見取ることは容易い。手フェチのレベルで言えば、吉良吉影に比肩しうる。

本当なら、この場を虎杖悠仁に任せて自らが外に出たかった。だが、優先度をはき違える事はしない。今大事なのは、このモグラを除霊して姉を救う。その後から追いかければいいと。

伏黒恵の背後でモグラが舐めた態度を取る。

「裏の取り方が甘いんだよ」

玉犬渾の奇襲により、モグラは即座に祓われる。そして、本当の最後の一匹がまた背後をとるが、甘すぎる背後の取り方。伏黒恵によって、瞬く間に祓われた。

コレで全てが片づいた。

姉への懸念事項も解決、領域外にいる二人に加勢にいける。一刻も早く、仲間の元に駆けつけたいが領域は解除されない。

撃ち漏らしがあるのかと周囲を伺うが、見当たらず……だが、鈍重で濃厚な気配に気がついた。天井に大きな蕾がある。胎動しており、今にも産まれそうな気配がする。

この時、伏黒恵の脳内に電流が走る。

気配から考えて、特級相当であることは間違いない。特級呪霊と言えば、男の本能を刺激するような美少女と定番化されていた。すなわち、誰も居ない領域内。二人っきりのシチュエーション。産まれたばかりの美少女。

これは、神がくれた千載一遇のチャンスであると考えた。

卵から孵った雛は、最初に視た者を親だと思う。それが呪霊に適用されないと誰が言った。今この場には、他に誰もいない。

今まで人の後ろを歩んでいた伏黒恵。誰も手にした事がない呪霊

を最初に手に入れる事ができるのだと。早々に、携帯電話を取りだして「呪霊ＧＯ」を起動する。すると、新イベントが配信されており、美しき兄妹愛というイベントであった。

新イベントには、血塗（アリサ）が登場していた。更には、先ほど釘崎野薔薇を連れ去ったと思われる痴女の存在も。それを知った伏黒恵……最近の痴女はレベルたけーーなと感心するばかりであった。

そして、某ロシアマフィアが運営している通販サイトで既に痴女衣装が売り出されている事に気がつく。

ポピーーン

領域内で特級が産まれそうな場所で通販をした人類最初の男が爆誕した。

……

……

…

名目として、特級討伐のためその場に留まる男―伏黒恵。今か今かと待つその様子は、妻の出産報告を待つ夫の様だ。その待ち人に呼応するかのように、天井にあった蕾から産まれ落ちる特級呪霊。

白い肌、三つ編み、無駄のない美しい肉体、下着一枚というスタイル―少年院で出会った特級呪霊のリスペクト。

「ふっざけんなよ！　空気読めよ！　いいか、特級は特別だから特級なんだよ。貴様の汚い褌視るために、おれは待っていたわけでも、高い金払って痴女コス買ったわけじゃねーーんだよ。俺の純情を弄びやがって、貴様の血は何色だーーーー」

呪術師の成長曲線は必ずしも緩やかではない。

恨みや怒りという負の感情が頂点に達した伏黒恵。五条悟の言葉を思い出し、限界を超えた未来の自分を。

「殺ってやるよ！　領域展開―嵌合暗翳庭」

腐っても特級呪霊。だからこそ、初手から全力で殺しにかかる伏黒恵。様子見などなし。例え、影の中から美少女呪霊や懺悔室やマッサージ器具などが見え隠れしたとしても、誰も視ていないのだから問題無い。

領域展開を獲得した伏黒恵……特級呪霊を単独撃破に成功する。
だが、呪力が枯渇し、リタイアする。仲間を心配してか、何十メーターも這いずって移動した跡を残す彼は、本当に仲間思いである。

２０．呪胎九相図（４）

痴女の定義は様々だ。
だが、１００人に聞いても１００人が痴女と認める血塗（アリサ）を追って、領域の外に出た虎杖悠仁。途中スカート中から下着は見えたが、何故かノーブラの下乳に対して鉄壁ガードを誇っており、あれだけの戦闘でもチラリとも見えなかった。
しかし、男―虎杖悠仁が領域の外に出たとき、待ち受けていたのは血塗（アリサ）に勝るとも劣らない痴女壊相（マイ）。下乳ではなく横乳と半ケツを携えた立派な痴女が待っていた。本来であれば、お金を払っても拝むことが難しいレベルだが、無料で視姦できるチャンスを手に入れる幸運の男。
『あ、姉者』
「うわ～、尻みえてるんだけど」
思わず思っていた事を正直に伝える虎杖悠仁。彼は悪くない。誰だって、言いたくなる。デリケートな事でもあり、昨今であれば即セクハラ事案で訴えられる。しかも、それが相手が気にしているコンプレックスならば尚更だ。
『見たなーーー!!』
元男として、横乳や半ケツ姿を見られるなど恥じでしか無かった。だったら、そんな服を着るなと言いたいが、用意された衣装が痴女コスだったのだ。こう見えて、アラミド繊維で作られている特注品だ。
『悪かったわ、わざとじゃないのよ』
「また、このパターンかよ!?　見せたくないなら、そんな服着るなよ!!」
その発言に、リアルタイム配信されている動画視聴者達は、良く言ったと虎杖悠仁を褒め称えた。だが、本当に何処でそんな前衛的な服が売っているんだと、ネット界隈では痴女コスの検索がトレンドにあがる事になる。
「じゃあ、なんでそんな格好してんだよ」
『あいつらに用意されたのよ。それに、ムレるのよ』

先ほどから周囲には、シトラス系の良い匂いがする。自称元男である人物から漂ってきて良い匂いではない。
痴女とは、服の面積と同じ位に堪忍袋も小さかった。
現代社会で他人のコンプレックスを刺激してはいけないという常識を逸脱した煽り攻撃を受け、壊相（マイ）は術式を解放する。
『もう殺します。蝕爛腐術……走りなさい、背を向けて』
背中から蝶のような赤い羽が現れる。それは全て血液でできており、人体に有毒。地面にしたたり落ちる血液を確認し、危ない術式であると判断した虎杖悠仁。今までの経験から、呪術への基本的対策を学んでいた。
それは、とりあえず様子見だ。相手の術式が判明すれば対処も可能。無敵の術式など存在しないのだから。

□□□

そんな死闘の様子を大画面で楽しむ夏油一派と「呪霊ＧＯ」の開発運営メンバー達。彼等にしてみれば、我ながら傑作を作ったなという程度の感想であった。
「偶然って、恐いね。宿儺の指を回収に行かせたら、宿儺の器と遭遇とか。運命を感じるね」
「おや？私は、てっきり夏油様がご存じの上で向かわせたと思っていましたよ。まぁ、どちらも構いませんか。今は、彼女達の無事な帰還を願いましょう。まだまだ、彼女達のデータ取りは終わっていませんので」
『貴様、俺の妹達をオモチャ扱いしたら殺す』
呪術業界側の人間がこの場を見たら、間違いなく悪の結社だと勘違いするだろう。だが、この場に居る誰もが自身を悪だとは微塵にも思っていない。寧ろ、正義であると信じて疑っていない。
「脹相（ちょうそう）様は、我々がそのような扱いをするとお思いですか？　そう思われているのでしたら大変な誤解です。最大限の敬意をもって、接しております」
人や呪霊としての運用など考えていないと、言う言葉をオブラート

に包んで伝える。
「危なくなったら逃げれば良いし。宿儺の指は呪術高専に回収して貰っても、行き着くところは同じさ。だから、彼女達も引き際を見誤らないだろう」
『当然だ。俺の妹だぞ。寧ろ、宿儺の器を殺さないかと心配だ……どうやら、妹達の術式が決まった。これで、アイツラは間もなく死ぬ』
妹達の勝利を確信する脹相。だが、何故その場を離れないのか、謎で仕方が無いが空気を読んで黙って居る義善聖徳がそこでくつろいでいた。
……
……
…
『馬鹿な!! なぜ、術式を解いた妹よぉぉぉ。義善!! 今すぐヘリを出せ。俺が現場に急行する』
「分かりました。3番エレベータで屋上に向かってください。常駐させているヘリを飛ばす手配をしましょう」
まさかの大逆転。
釘崎野薔薇の胆力が素晴らしい。相手の術式との繋がりを逆に利用し、自らの肉体を使って「芻霊呪法共鳴り」による攻撃。数分後に死ぬとしても、自らの腕に釘を何本も刺せる人間がどれだけ居るだろうか。
「止めときなよ、脹相。今から行っても間に合わない。ならば、この場で彼女達を見守る事が君の役目じゃないかな」
夏油傑が最期を見取ってやれという。
黒閃も決められて、既に勝敗は決していた。現状、体力的に壊相だけなら逃亡可能。だが、目の前で死にゆく妹を見捨てて逃げることができるだろうか。この時ばかりは、その美しき兄妹愛が足を引っ張る。
大事な事だが、この映像はリアルタイムで動画配信されている。痴女の乱れたコスチュームやそれを金槌で滅多打ちにしたり釘を刺したり、殴ったりするなど。血塗が泣きながら姉者と呼んで地面に倒れ

ているシーンなど、コメント欄が大荒れした。

『死ぬな、妹よ。死ぬな……』

片腕を失っても妹に寄り添いに行く壊相（マイ）の姿は、人の情に訴える者があった。涙で画面が見えない者達が大量に沸く。

だが、現実は無情である。

釘崎野薔薇を背後から襲いかかる血塗（アリサ）。しかし、黒閃を決めた釘崎野薔薇のコンディションは１００％であった。背後を見ずとも気配で全てを察している。

「まだ、こっちは見せてなかったわね【簪】。心配しなくてもいいわ、すぐに姉貴も送ってやるわ」

パチン

釘崎野薔薇が指を鳴らすと頭部に刺さっていた釘が銃弾のような勢いを得る。そして、無慈悲にも、絶世の痴女を肉塊へと変えてしまう。今まで、エロ動画だったのがいつのまにかグロ動画になってしまった。

大画面のテレビの前に崩れ落ちる脹相（ちょうそう）。今は、神に祈るしか彼にはできなかった。

『血塗（アリサ）ー！こんなことなら、俺が行くべきだった。壊相（マイ）だけでも帰ってこい。頼む』

壊相（マイ）が生き残る事を祈っている大人の友達１００万人。それだけの願いがあっても神は動かない。神は、何もしない。だから、世の中には悪魔に魂を売ってでもという言葉ができる。

１５０年もの間、懸命に生きながらえた兄妹。その二人を同日になくした長男の心境は想像を絶する。彼女達の未来はこれからであった。

その未来の一つとして、彼女達が街を歩き手に入れたスカウトマンから数々の名刺……ムーディーズ、プレステージなど日本人なら誰もが知っている会社に入社。そして、男達に明るい未来を照らしたかも知れない存在が消えて無くなった。

これは人類の損失と言っても過言ではないだろう。

21．閑話～非呪術師～

世の中の大多数の人間は、その日を生きる為に一生懸命労働に勤しんでいる。

特に社会人ともなれば、親の庇護が無い為、本当に辛い日常を送る。好きでも無い仕事に最低週五日も消費する。当然、人が嫌がる事をするから対価として金銭が手に入る。理解も納得もしているが、辛い事には変わらない。

だが、そんな命を切り売りする日常から脱却できる可能性は誰にでも秘められている。

その可能性の一つが副業である。昨今、終身雇用制度が崩壊しつつある日本においても副業が認められる場合が数多くある。万が一に備えて、自分の身は自分で守れという奴だ。

そして、今、その副業で密かに話題になっているのが除霊のアルバイトだ。よくある手相占いなどでは無い。本物の呪霊を退治して対価を得る。呪霊は本来、呪力を持つ人間、数万人に一人レベルの才能ある人間にしか視認できない。また、視認できたとしても退治する術を持つ者は更に絞られる。

『主さま、ここは4級程度しかいませんが気をつけてください。花御（カシマ）様が居た時とは違いますので、本当ならもっと下調べをした上で……』

「分かっている。だからこそ、コッコロが危険を感じたら即時撤退。……だが、この依頼のお金があればきっと、また花御（カシマ）を迎えられるはずだ」

男は、「呪霊ＧＯ」のアプリを起動し、呪霊を探す。そして、能力値や特性からコッコロでも勝てると確信していた。だが、何事にも想定外の事態は起こりえる。その出来事を思い出した男から負の感情があふれ出す。

『主さま、落ち着いてください。残念ですが、主さまと私では彼には勝てません。彼……伏黒恵は、本物の呪術師です。呪術業界の御三家といわれる血筋で実力もそれ相応です。花御（カシマ）様の事は残念でしたが、私

だけでも残れたのが不幸中の幸いです』
「もう、割り切った。だから、俺は再び花御（カシマ）を迎えるためにアルバイトをしているんだ。コッコロ、その柱の裏に呪霊がいる。頼りにしている」
『はい!!　主さま。コッコロにお任せください』
　人間のお世話大好きな低級呪霊コッコロは、二人三脚で人間を支える。仕事からプライベートまで支える呪霊と人間の新しい関係。そこに、間もなく子育ても加わる未来も遠くはない。

……
……
…

　男の交友関係は、広がった。「呪霊ＧＯ」のアプリを通じて、同じように低級呪霊を手に入れてアルバイトをしている仲間との交流。元一般人であり、価値観が近い事から付き合いやすかった。
　そして、本日は「呪霊ＧＯ」の新イベント美しき兄妹愛が配信された。非呪術師達は、その情報をいち早く察知してＬＩＮＥでカラオケ屋に大集合する。集まったのは、三名。通称Ａさん、Ｂさん、Ｃさんと呼ばれる近隣で活躍している非呪術師だ。
「美しき兄妹愛……また、とんでもない痴女が実装されましたね。今度は、呪霊という記載がないから入手できるかも謎ですが～。Ａさんは、花御（カシマ）を呪術師に強奪されましたからね、戦力が必要な場合には、アルバイトのお手伝いしますよ」
　男は、仲間内では通称Ａさんと呼ばれている。本名の頭文字を取ったコードネームみたいなものだ。男は、コードネームに憧れる。
「その際はお願いします。報酬は、折半でお願いしますね。……で、Ｂさんが連れているのは、先日実装されたジャンヌダルク・オルタですね。私も、例の児童施設には足を運んだのですが、入手不可能でした」
「彼女は、アプリ経由で例の施設に５００万寄付すれば手に入ります。金で解決出来る良心仕様です」
　天井がある時点で優しい仕様なのだが、金額が金額だ。真面目にサ

ラリーマンをやっていれば決して払えない額ではない。だからこそ、庶民の懐事情にエグい。
「Aさん、Bさん……今、仲間からの情報です。ネットに面白いリアルタイム動画がアップされているらしいです。「呪霊GO」の新イベントキャラが登場していると」
カラオケ屋の個室で動画視聴で盛り上がる男達。映し出される痴態を楽しんでいたが、途中から様子がおかしくなってきた。以前にアップロードされた花御(カシマ)が全裸にされる動画とは訳がちがかった。
美しい姉妹愛……解体される痴女。男達は立ち上がった。救いに行かねばならないと。痴女達がそれを求めていなかったとしても、呪霊を愛する男として動かざるを得ない。
「はぁ〜、映像に映っていた男は以前に特級呪霊花御(カシマ)を退治していた高校生だな。確か、呪術高専一年生。Bさん、Cさん……負け戦ですよ」
「そうですね、でも男には闘わないといけない場合もありますよ。それに、ジャンヌの仲間でしょ、彼女達。それを見捨てるのはちょっとね〜。Aさん、Cさん……呪霊でなければ、やり方はありますよ」
「大人の戦い方をみせてやりましょう。とりあえず、車でぶつかりましょうか。日本は、優しいから2人轢き殺しても死刑になりません。対人無制限の保険と事故に強い弁護士は手配しておきましょう。Aさん、Cさん」
こうして、痴女を救うため、立ち上がる男達が各地で現れる。

２２．閑話～呪術業界～

呪術高専では、現在隠蔽工作に追われていた。

最近になって、連続してインターネットにアップロードされた某動画が原因だ。全裸花御（カシマ）をボコボコにする動画と痴女殺害動画だ。前者だけなら、何とかフォローできたが、ほとぼりが冷めるまでに後者まで加わってしまえば手も付けられない。

善意ある民間人が警察やマスコミに情報をリークした。その為、連日取り上げられている。その煽りを受けて、生徒が在籍していると言われる『東京都立呪術高等専門学校』の存在自体が怪しすぎるとバレてしまった。

表向きは、宗教系学校であり公費で運営されている。その莫大な運営費がリークされたり、教員免許がない者が教鞭をとっていたり、高校で教えるべき授業を教えていなかったり、生徒が死んでいたりと叩けば埃しか出なかった。

勿論、呪霊から非呪術師を守る為、表にできない国家機関ではあるのだが…見えもしない物から国民を守っています。税金で運営しています。と、言われて納得するだろうか。

政府は、決して呪術高専の者達が呪霊から国民を守っていますとは公言できない。数年前に所属していた生徒の一人が大規模なテロを起こした事実まで表沙汰になる。そうなれば、公費でテロ屋を育てたのかとなり、組織の存続が怪しくなる。

呪術業界全体に影響を与える世論との対処を検討するため、呪術業界の腐った蜜柑達も重い腰を動かし始めた。利権と権力を守る為ならば、苦労は厭わない連中。裏表問わず色々な伝手を使い、彼等は事の原因を突き止めた。

その問題を解決させる為に、五条悟が呪術業界の重鎮に呼び出されていた。

「わざわざ、僕を呼びつけなくてもいいんじゃない。暇なの？　連日報道されているニュースの対応で忙しいんじゃないの？」

【忙しいさ。これも、貴様が虎杖悠仁の秘匿死刑を延期したおかげで

な。分かっているか。既に世論は止まらん。このままでは、呪術高専の存在自体が危ぶまれる】
【貴様は、関係ないと思っているだろう？　例の動画配信は、サイバーダインシステムズ社が関わっている事までは判明した。「呪霊ＧＯ」とかいうゲームの配信停止するように、貴様が向かったが断られた会社だぞ。あの時、呪霊業界に関わらないように念押ししておけば今回の事態も防げた可能性もあったんだ。どう責任をとる】
　五条悟としても、そんなの状況証拠だけでも分かるだろうと思っていた。昨今の特級呪霊もそうだが、「呪霊ＧＯ」と連動しすぎている。何かしらの手法で呪霊を生み出しコントロールしていると見るのが妥当な線だ。
　だが、サイバーダインシステムズ社との交渉失敗の責任を取れと言われても無理難題だ。
「なんで、僕が責任を取らなきゃいけないの？　サイバーダインシステムズ社の一件は、数億ドルの現金を用意すれば交渉の席に着く確約を貰ってきたでしょう。後は、そちらが金を用意できるか、できないかの問題でしょう」
　五条悟は、いい加減、腐った蜜柑を全部すげ替えようかと本気で思い始めた。後釜に座る連中も腐っている可能性はあるが、今よりは多少マシだろうと。
【その報告自体が、怪しくなってきている。我々は、サイバーダイン・システムズと平和的な話し合いをする為、「呪霊ＧＯ」のプロジェクト責任者である義善聖徳への接触を試みた。だが、結果は失敗に終わった】
【腕の立つ準一級２名が使い物にならなくなった。生存と引き替えに、呪力破棄と忘却の縛りが課せられている】
　唯の一般人相手と平和的な話し合いをする為の迎えとしては過剰戦力。１級呪霊を近代兵器で表すと戦車に該当する。準一級呪術師ともなれば、１級呪霊を除霊可能だ。つまり、人間戦車を二人も送り込んでいる。
「人手不足なのに、何やってんだよ。一般人相手に準一級とか馬鹿

じゃねーの。脳みそにウジでも沸いてんのか。僕が知る限り、義善聖徳は間違いなく一般人だ。で、結局何が言いたいの？僕に連れてこいって言いたいの？」
【どうせ、断るだろう。我々が問題視しているのは、義善に味方していると思われる呪術師または呪詛師の存在だ。幸いな事に、同行させていた補助監督が一部始終をカメラで撮らえていた】
　五条悟はいい加減、帰りたかった。
　だが、折角なのでディスプレイに映し出される動画を見てから帰る事にする。腐った蜜柑達がよほど自分に見せたいのだから、面白い物だろうと思っていた。
　ディスプレイには、知った顔の義善聖徳と黒くて際どいチャイナ服を着たエロスが映っていた。何がエロイかと言われれば全てだ……そして、眼を黒い布で隠しているのに、何不自由なく動けている。
『呪術業界上層部からの差し金ですか。全く、やっていることが呪詛師と変わらないとは嘆かわしいですね。２Ｂ、殺してはいけませんよ。我々は平和主義なのですから』
『分かっている』
　そこで、映像は途切れていた。
　五条悟は、こんなシコリティの高い物を見せられてどう反応すれば良いか困る。
「で、これがどうしたの？」
【わからんか？　２Ｂと呼ばれていた者は、似ているだろう……貴様に。あの眼帯の下は六眼であると考えている。すなわち、五条家縁の者だと。それから、呪術高専を襲撃してきた特級呪霊花御（カシマ）、児童養護施設にいる特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ。貴様と対峙したにも関わらず生存しているのも、仲間だからと考えれば全て繋がる】
【さよう。ここ最近、こちらの情報が呪霊側に漏洩している可能性も高い。なにより、貴様は、我々を疎ましく思い。いつか、消してやろうと常に考えていることは承知している】
　これには、五条悟も文句があった。
「ふざけるな、毛髪の色くらいしか似てないだろう!!　それに、身内

に、あんな変態衣装を着るような奴は……いないと思うぞ。本当に、ぶっ殺すぞ老害共が」

ぶち切れた五条悟は、そのまま部屋を退室する。

だが、呪術業界上層部は、五条悟が呪霊側と通じている可能性も考慮して今後動く事を決めていた。状況証拠だけを考えれば、その可能性は十分であったからだ。

２３．特級呪霊ライザリン・シュタウト～　お前のような家庭教師がいるか～（１）

日本という国家は、経済大国三位という地位にある。だが、その内情はボロボロだった。年金問題、医療問題、人口問題…あげればきりが無い。減る一方の若者達の学力低下もその一端であった。

先進技術の研究開発がなくしては、現在の地位すら危ない。一部の有能な存在が日本を牽引している状況を変える必要があった。その為に必要なのが、勉強である。昭和と比べて、外国語やＩＴに関する講義も比較的早い段階から取り込んでいる。

だが!!

それなのに、全くと言って良いほど定着しないのは何故なのか。英語を十年近く学んでも碌に話せない、読めない、書けないと言った者達が多すぎる。そこで、文部科学省の幹部は、抜本的対策が必要であると考えた。

そこで、規定の固定概念をぶちこわす斬新なアイディアを求めて政府は、サイバーダインシステムズ社に協力を求めた。応接間にて、義善聖徳が相手をする。

「確かに、昨今学力低下の問題は耳にしております。日本のような恵まれた環境下で勉学に励めるという有り難さを若者が理解していない事が原因でしょう」

「手段は問いません。このプロジェクトは、アンブレラ・コーポレーションにも参画していただくので、両社の合弁プロジェクトになります。次の全国模試に向けて、一定以上の成果を出してもらえれば、政府の学力向上プロジェクトとして正式に発注します」

日本が誇る大企業同士の合弁プロジェクト。しかも、発注予定の金額が三桁億円という規模だ。それだけ、本気であると窺える。

「分かりました。とりあえず、弊社の「呪霊ＧＯ」のプレイヤーから学力が芳しくない１００名の学生を調査しましょう。その者達の成績がどの程度向上できたかを全国模試で判断するという事でよろしい

ですかな?」
「具体的な指標になるので構いません。—ここからは、独り言です。先日、尖閣諸島付近に他国の船が行方不明になる事件がありました。このご時世で神隠しとは恐ろしいですよね」
政府高官が、黒いアタッシュケースを机の上に置く。そして、厳重なロックが解除される。政府が保管している年代物の呪具……古代出雲時代に使われていた銅鏡や銅剣などが格納されている。
何事もなかったかのように受け取る義善聖徳。呪具の目利きなどできないが、政府高官が持ってきた約束の品物だ。取引で嘘をつくような事はありえないと考えていた。
「全くですな。では、私はアンブレラ・コーポレーションのプロジェクトリーダーと調整して事を進めていきますので、吉報をお待ちください」

□□□
大学受験を控える高校3年生を抱える一般家庭。
だが、少子高齢化の為、大学が定員割れが発生している事も多々ある。その為、選ばなければ中学生でも入れそうな大学すらあるレベル。まさに、質の低下であった。人生設計をしっかりと考えていない受験生は、碌に勉強をしない。
そんな、典型的な不勉強な子供を抱えていた——のが、先月までの話であった。
「参考書を買ってくる」
子供が、日曜日の昼間だというのに参考書を買いに出かけた。しかも、毎週新しい参考書を買っている。この異常事態に、親は参考書という名のエロ本だと考えたが、子供の言葉は事実であった。
塾の学力テストでもグングンと成績を押し上げて、今では寝る間も惜しんで勉強をしていた。起きてから寝るまで手放さなかった、スマホは依然側にあるにしても、ゲームをやっている時間は本当に僅かになった。
「無理をしない程度にね。勉強も偶には生き抜きしないと」

「分かっている。だけど、次の模試で平均７５点を超えなきゃいけないんだ。先生と約束してるから」
親は心配であった。
まるで豹変したかのように勉学の鬼へと成った子供が。確かに勉強しろとは何度も言ったが、まさか、息抜きをしろと言うことになるとは考えた事もなかった。
まるで、何かに取り憑かれたかのような息子が心配であった。
なにより、家庭教師って……誰と言いたいのが本音だ。確かに、息子の部屋からは、勉強に集中できるお香や女性物の香水の匂いなどがしている。他にも、ティッシュの消費量が多かったり、ゴミ箱を妊娠させる気かと思う程のカビカビのティッシュは目に余る物があった。
……
……
…
勉強ができない人間をどうやって勉強を好きにさせるか。それは、難題であるかに思える。だが、蓋を開ければ簡単であった。思春期の男子など、餌で釣れば良い。誰もが一度は考えた事があるだろう。美人家庭教師との逢瀬を。
つまり、そう言うことである。
「ライザ先生。おれ、平均点８２！」
『よくできました。じゃあ、約束のご・ほ・う・び』
低級呪霊が、衣服をパージしていく。そして、誰にも邪魔されないように帳まで展開してくれるという優しい仕様であった。美人家庭教師の配慮は一流。保健体育の指導まで怠らないとは、まさに家庭教師の鏡である。
受験生は、「呪霊ＧＯ」のアプリをやっていて本当によかったと思った。
平均点４０点にも満たなかった馬鹿な受験生が、僅かな期間で学年上位に入るほどの成長を遂げる。あまりの豹変ぶりに教師ですらカンニングを疑うレベル。
ここまでの成長は、毎日夜遅くまで、くっそエロイ美人家庭教師が

憑きっきりで教えてくれる。しかも、無駄に胸を押しつけたり、逆セクハラ紛いな事をしてくる。これにドはまりしない男子などいない。
コレに関与した日本が誇る大企業への崇拝も受験生はわすれない。それどころか、必死に勉強して絶対に入社してやると意気込んでいる。
今回、両社が用意した物は―
アンブレラ・コーポレーションが開発した対呪霊用の呪具近藤さん、呪霊用の香水、集中力を増すお香。勿論、近藤さんなしでも問題無いが、あればあったで使い道は無限である。
サイバーダインシステムズが低級呪霊の派遣、呪霊が見えるＶＲ眼鏡を配布。
流石は、日本を代表する企業である。やる事が違っていた。

２４．特級呪霊ライザリン・シュタウト～　お前のような家庭教師がいるか～（２）

世論は、未だに呪術高専の存在について色々と議論が飛び交っている。火消しに動く呪術業界であったが、収まる気配はなかった。本来であれば、政府も協力してマスコミに圧力を掛けるのだが、昨今、政府と呪術業界との関係が変わりつつあった。

政府からの直接的な依頼が減るだけでなく、窓口担当もベテランから新人に変わったりとあからさまな待遇の変化があった。本来なら文句の一つもあるが、呪術高専に所属している虎杖悠仁が原因で世論が盛り上がった事もあり、呪術業界としても我慢した。

そんな息苦しい空気から脱却する為、五条悟はフリーの依頼を受ける事にする。こういう場合は、体を動かして気分転換するのが良いだろうという配慮だ。

その依頼内容は、人が変わったかのように勉学に励む息子がいる。雇っても居ないのに家庭教師がなど妄言を吐いたり、日に日にやつれていく様は見ていられないとの事だ。まるで何かに取り憑かれているようだったので、両親が気をきかせて除霊の依頼を出した。

幸いな事に、その依頼を受けたのが五条悟が率いる呪術高専一年生達だ。特級呪霊であろうと簡単に祓える者達が来てくれたのだから、もう安心であった。

「で、君達は資料に目は通した？　いつも、特級ばかりが相手だったから、こういう低級呪霊の祓うやり方も覚えておかないとね。息抜きだと思って、構わないよ」

五条悟の言うとおりだ。一生のうちに一度も特級と出会わない呪術師の方が多いのに、半年もしない間にであった特級の数が多すぎる生徒達。呪術師の文字通り、呪われているレベルだ。

「五条先生、頭をよくしてくれる呪霊なんているの？　本当にいるなら、俺の学力も上げて欲しい。呪術高専で勉強した記憶がないから、本気で将来が心配なんだよ。このままじゃ、俺の最終学歴って中卒と

同じじゃん」
「虎杖、その手の呪霊は、”成り代わっている”か”乗り移っているか”の2パターンだ。そういえば、俺も呪術高専に来てから普通の勉強をした記憶がないな。五条先生って、担当科目なんだっけ？」
呪術高専では、高校の授業は存在しない。呪術高専とは、呪術師の派遣業を生業にしている。その為、教えることは呪術に関する事と報告書などの書類事務だ。だから、呪術高専に入学した時点で世間一般で言う学力向上は、全て自己学習でしか賄えない。
「恵、面白い事を言うね。僕は、呪術高専の卒業生だよ。世間一般で言う学問なんて君達に教えられるはずないじゃん。それに、教員免許なんて持ってないしさ。ハハハ」
「いや、笑い事じゃないって!!　呪術高専って無法地帯過ぎるだろう。ここに来た時点で、私等には、呪術師になるしか道がないって奴か」
五条悟の無免許発言で、釘崎野薔薇は自らの進路が呪術師しかないと理解してしまう。勿論、独学で勉強する事も可能だが、除霊のため各地に行くことも多い。つまり、勉強する時間などよっぽどやる気がないと取れない。
「安心していいよ。呪術師は、稼げる職だから。良い大学出て、良い企業に務めるよりよっぽど稼げる…命がけだけどね。ほら、喋っている間に着いたよ。今回のクライアントの家」
車が止まった場所は、一般民家。
民家の二階から感じる呪霊の気配。多く見積もっても４級上位といった程度だ。それを除霊するだけで５０万というお金になるが、事はそう簡単にはいかなかった。
玄関前に素晴らしい太ももを携えた美少女の呪霊が待ち構えていた。五条悟含めて、呪術高専一年生は思った。またこのパターンかと。
その美少女こそ、政府の要望でサイバーダインシステムズ社が用意した特級呪霊ライザリン・シュタウト。ムチムチの太もも、ショートパンツ、胸元が強調されるような服を着る新しいエロス。これが政府公認の家庭教師像だというならば、日本が始まりすぎていた。

『こんにちは』
ライザが挨拶をする。人付き合いは挨拶から始まるのは常識だ。
だというのに、伏黒恵は即座に「呪霊ＧＯ」を起動するが目の前の特級相当の呪霊の情報が開示されない。五条悟も同じくアプリで確認するが、同じ結果であった。
「っち、また女の敵みたいな呪霊が出てきた。虎杖、出番だぞ」
「なんで、俺ってそんな役回りなの!?　いい加減、ぐれちゃうよ俺。五条先生も伏黒もさっきから何しているの？」
『聞こえなかったのかな。こんにちは～』
今までに無いタイプの特級呪霊に多少混乱する五条悟達。だが、対話が成り立つなら楽に解決出来る可能性もあった。
「ごめんごめん、こんにちわ。僕、五条悟ね。こっちが、呪術高専の一年生。紹介はいるかな？」
『知っているから、大丈夫だよ。私は、特級呪霊ライザリン・シュタウト。ライザでいいよ』
「で、君は何者？　堂々と僕たちの前に出てきたって事は目的があったんでしょ？」
『そうそう、良いことを聞いてくれるね。この家に私の分霊がいるの。全国模試が明後日だから、今除霊されたら困る。今、私が消えたら多分…あの子の心が壊れちゃう。そんなの、家庭教師として見逃せないから』
呪霊から信じられない言葉を耳にし、家庭教師とは何かの隠語かと思う次第であった。だが、仮に言葉通りだったとしてもそれは大変宜しくない事だ。こんな家庭教師がいたら性癖がねじ曲がる。
灰色の学生時代を過ごした五条悟が思わず声を上げる。
「お前のような家庭教師がいるか」
この発言には一年生達も　そうだそうだ　と頷く。

２５．特級呪霊ライザリン・シュタウト～　お前のような家庭教師がいるか～（３）

未登録の特級呪霊…より正確に言えば、「呪霊ＧＯ」のデータベースに登録されていない呪霊。今や、呪術業界が管理している呪霊の情報より精度が高くなりつつある。呪胎九相図の受肉体の情報すら管理されていたのに、特級呪霊ライザリン・シュタウトは『ＮＯ　ＤＡＴＡ』である。

昨今は、呪霊とはいえコミュニケーションが取れる場合も増えてきた。だから闘わずに済むならそれでもよいと考えていた。確かに、力だけが除霊の方法ではない。

伏黒恵は、運が回ってきたと考え思わず口元が歪む。相手は八十八橋で闘った特級呪霊より強いのは分かる。だが、五条悟の敵ではない。つまり、五条悟を上手に利用し、弱ったタイミングで交渉を持ちかける。死にたくなければ、分霊かお前を寄越せと。

まさに、他力本願の完璧なプランであった。

「僕達は、除霊の依頼を受けているんだよね。子供のお使いじゃないんだから、分かりましたと受け入れられないよ。それに、家庭教師とか信じられないしな～」

「おつむが緩そうな呪霊が教えられる事なんて保健体育がせいぜいだろう。そもそも、呪霊が勉強教えて何が目的なんだよ」

田舎のレディースかと言うような口調で釘崎野薔薇が責め立てる。だが、聞きたい事を抑えている。呪霊に勉学を教えられるほど人間は劣っていないと呪術高専の皆は思っていた。

『よく分かりましたね。実は、ご褒美で保健体育も教えているんです。なんでも、学校じゃ実技を教えてないんですね。こう見えて、頭の方は自信があります。大学で教鞭を執れるくらいには、学力ありますよ』

「あれ？五条先生。もしかして、俺等より頭良くない？」

「違うだろ、虎杖!!　今、突っ込むのは後者じゃないだろう。普通、実

技の方に突っ込むだろう。お前は、それでも高校生か。もっと素直になれよ。そうだろう、宿儺」
　伏黒恵は、ピュアな虎杖悠仁に切れる。そして、遂には両面宿儺に同意を求める始末。そんな様子をゴミを見るような目で釘崎野薔薇がにらみ付ける。その巻き添えは、五条悟と虎杖悠仁だ。
「僕は、別に呪術師で世界最強だからいいの。でもさ～、子供が窶(やつ)れているのって、そう言うことだよね。事前調査に穴がありすぎでしょう。はぁ～、なんかこの一件って児童養護施設と似ているな～」
『あ、ジャンヌ先輩の事ですか？　でも、あちらは企業案件で。こっちは政府案けｎ……。嘘です嘘です。私なんて、何処にでも居る平凡な呪霊です』
「できるわけねーーだろ。お前のような平凡な呪霊が居てたまるか！　祓われたくなかったら、今すぐ知っている事、全部はけ。呪い殺すぞ」
「落ち着け、釘崎。柄がわるいってレベルじゃないぞ。どっちが呪霊か分かったもんじゃない。―なぁ、釘崎。俺の髪の毛を藁人形につけて何やっているんだ。洒落にならないだろう」
　口は災いの元である。仲間を呪霊扱いした報いは大人しく受けるべきだ。仲間でなければ、黒閃の共鳴りを決められていた。
……
……
…
　自称平凡な呪霊は、分霊の除霊を止めるために来たのに、五条悟達から尋問を受ける結果になった。連れて行かれた場所は、かつ屋。
「ほら、カツ丼だ。これ食ったら、素直に吐けよ」
『私にも立場があって……素直に話すので、分霊の除霊をしない事とこの件は内密にしてもらえませんか』
　力尽くでやっても口を割らないのは明白であった。つまり、ここが、平和的に解決出来る落としどころ。５０万という端金がなくなる代わりに、特級呪霊が裏で動いている情報が手に入るなら安い物であると五条悟は考えた。
「いいよ。みんなもソレでいいね」

「俺はいいよ」
「俺も」
「結局祓わねーのかよ。分かったよ、私もそれでいいよ」
　特級呪霊と五条悟達の間に縛りが結ばれる。
『私、本当に家庭教師です。最近、子供の学力低下が嘆かわしい状況なのはご存じですか。政府肝煎りのプロジェクトで、私が家庭教師をした場合にどの程度学力を上げられるかという事をやっています』
「ねぇ、五条先生。呪霊が家庭教師するのって、この業界だと当たり前なの？俺、新入りだから分からなくてさ」
「悠仁。あるわけ無いだろう、そんな事。呪霊ってのは例に漏れず異形の姿で会話が成り立たない。だから、勉強を人間に教えるなんてありえない……はず」
「つまり、俺の勉強も見てくれるって事ですかライザ先生！」
　伏黒恵、さらりと生徒になろうとする。実に、卑しい男である。
『えっと、伏黒恵君は勉強が程ほどに出来る子だから家庭教師は要らないかな。私が教えるのは基本的に馬鹿な子だけ。政府が求めているのは、学力下限の底上げ。あっ…でも伏黒恵君の後輩の所に、私の分霊がいるわ』
　伏黒恵は、この時ほど馬鹿な後輩が居た事を感謝したことはない。誰が所持しているかも調査は簡単だ。成績が急上昇した馬鹿を探せばよい。既に、聞きたい事は無くなったので、忘却術式の得意な者をつれて後輩を救いに行こうと手配を始める伏黒恵。
　家庭教師が居た事を忘れてしまえば、奪ったとしても問題にならないと悪魔の発想である。
「今の話を聞いて大体裏も分かった。どうせ、サイバーダインシステムズが関係しているんでしょ」
『ははは、どうかな。じゃあ、私は戻りますね。――あの、手を離して貰えませんか。五条さん』
　大事な事だが、五条悟は別に特級呪霊ライザリン・シュタウトを除霊しないとは約束していない。五条悟が呪力を込めれば、綺麗な花火が上がる。

「きみ、大学で教鞭取れるくらいの学力あるって言ってたよね？」
『えぇ。その位のレベルの知識は詰め込まれましたから』
五条悟は、特級呪霊ライザリン・シュタウトに問う。今死ぬのと後で死ぬのどちらがいいと。
□□□
呪術高専の体育館に生徒が集められる。一切の詳細が知らされておらず五条悟主導による招集だ。
集まった中で、一年生だけが何となく理解していた。
「最近、マスコミがこの学校では勉強を教えないのか。教員はどうなっているなど色々と言われております。だから、僕が教師を連れてきました!!　はい、自己紹介」
『ライザリン・シュタウトです!!　担当科目は、全科目です。気軽にライザ先生と呼んでね』
政府は、馬鹿な生徒の学力向上を図りたい。ならば、馬鹿が大集合している高校で教鞭を執った場合のデータも必要のはずだと五条悟は押し切った。勿論、縛りである程度制約を掛けているが特級呪霊の就職先が呪術高専だとは笑えない冗談であった。
「おかかぁぁぁぁ」
「おかしいだろ!!　なんで、特級クラスの呪霊が教師なんだよ」
「パンダが生徒なのも大概だけど、呪霊が教師ってのもおかしいでしょ」
二年生達が総ツッコミする。
翌日、京都校でも本件が知れ渡る。そして、東堂葵がライザ先生の存在を知り、本気で東京への転校を考え始めていた。

２６．閑話～信じて送り出した呪霊がＮＴＲれた男～

サイバーダインシステムズ社の「呪霊ＧＯ」開発運営チームには、不穏な空気が漂っていた。政府案件の学力向上プロジェクトを推進する最中、呪術業界から横やりが入る情報を彼等は入手した。

そして、平和的な解決を望む為、呪霊自ら現地に赴き話し合いたいと言うお願いを聞き入れた。希少なオリジナルの特級呪霊。その価値は、計り知れない。だが、自ら考え行動するその姿勢は自我の育成にも成るため、男は快く承諾した。

そして、信じて送り出した。

戻ってくる時間になっても帰らない呪霊を心配した男は、迎えに行こうかと考えた。その時、男のスマホに一枚の写真が送られてくる。

世界最強の呪術師に肩を回され、反対側の肩には柄の悪いレディース、背後には薄気味悪い笑顔をしている鳥頭、そんな三人を止めるかのような弱腰の男。

男が珍しく感情的になっているのを見た夏油傑は、思わずどうしたのだろうか気になった。頭がおかしいレベルの男をここまで感情的にさせるとは何があったのだろうかと。

「君が、感情を露わにして怒るなんて珍しいね。なにか、苛立つ事でもあったのかい」

「信じて送り出した娘が、碌でもない男に引っかかった気持ちがよく分かったなと。オリジナルのライザを奪いやがった！　ライザから送られてきたこの写真を見てください」

男はスマホの画像を夏油傑に見せた。

ムチムチの特級呪霊を囲み、背景にはＨ○ＴＥＬの看板まで映っている。この上ない嫌がらせであった。不良にいかがわしい休憩所に連れ込まれる様に見えなくもない。実に最低である。

「最低だな、悟の奴。でも、安心して良いよ。悟は、ヘタレ童貞だから手を出すことはないよ。この写真は、君への嫌がらせだね。そう言う

ことには手抜きはしない男だから」
「五条悟は、絶対に碌な死に方しないですよ。それから、ライザから五条悟に脅されて呪術高専で教鞭を執る事になったと……言いたくありませんが、呪術高専って馬鹿なんですか？」
男からの言葉に夏油傑も苦笑いする。
呪術師全体の学力を平均化すれば、定員割れのＦ欄大学がせいぜいだ。一部、医者や金融エリートサラリーマンなどもいるが、本当に例外的な人物だ。
「同じ呪術師として認めたくないけど、総じて馬鹿だね。保証するよ」
「一時的に呪術高専預かりという事で我慢します。ですが、この代償は高くつく事を教える必要があります。調子にのってジャンヌダルク・オルタまで同じ事になっては目も当てられません」
男の中では、呪術高専への嫌がらせプランは既にできあがりつつあった。
「君も欲張りだね。それだけの特級呪霊を連れていて、一人くらいどうでもいいんじゃない？」
「ご冗談を夏油傑様。今は、五条悟がいるから表だっては動きません。ですから、我々も五条悟封印に協力しますよ」
男は、今まで乗り気でなかった五条悟封印に協力を持ちかけた。
このまま、全ての特級呪霊が五条悟にＮＴＲされる可能性がある。それを妨害できるなら悪と手を組むのも良いと思っていた。何より、夏油傑達だけで事を起こした場合、想像を絶する被害になる事は明白だ。
だったら、少しでもコントロールできる立ち位置に居るべきだというのが本音である。
「それは良かった。こちらは、手駒が一人減る予定だったから助かる。で、手伝いの対価は何が欲しい？君の事だから、無償奉仕ではないんだろう？」
「獄門彊を解析させて欲しい。アレは、四次元ポケットだ。それがあれば、科学は次のステージに進む。無論、希少品だと理解しているので夏油傑様監視の下で構いません」

夏油傑も流石に渋る。
世に二つと無い希少品。失えば、今後の全ての計画が破綻する程のキーアイテムだ。なにより、恐ろしいのは馬鹿みたいに優秀なサイバーダインシステムズ社の人間達だ。特級呪霊や一級相当の人造呪具なども作り上げたＨＥＮＴＡＩ集団。
「仕方ない。大事に扱ってくれよ」
「勿論です」
人間の可能性をみたい夏油傑。
だが、馬鹿にハサミは渡してはいけない。大事な事だが、頭がいい馬鹿とは往々にしてたちが悪い事を彼はまだ知らなかった。

２７．メカ丸（１）

与　幸吉…呪術高専の京都高に席を置く準一級呪術師。そして、優秀なエンジニアであった。高校生の呪術師でありながら、サイバーダインシステムズが好待遇で雇い入れたいと考える人物だ。

呪力を原動力にした科学兵器。実に素晴らしい物であった。呪力を原動力に機械を動かせるなら、その逆も可能。だからこそ、サイバーダインシステムズの変態技術者達が全力で彼の私生活をサポートしていた。

そんな彼の元に三人の影がある。

その組み合わせは、呪術師（夏油傑）、非呪術師（義善聖徳）、呪霊（真人）と各種族が勢揃いしている。だが、各々で目的が違う。それぞれの思いを秘めていた。

呪術師は、己の悲願のため。

非呪術師は、有望な人材のスカウトのため。

呪霊は、闘争のため。

そして、とあるダムの地下にある重厚な扉が開かれる。その先には、無数の生命維持装置に繋がれた一人の男…メカ丸の中の人である与　幸吉が待っていた。彼は、夏油傑のビジネスパートナーであった。そう言う意味では、義善聖徳とご同類という事になる。

「遅かったな。忘れられたかと思ったぞ……義善も来たのか。約束の品は、納品済みの筈だぞ」

「えぇ、受け取っております。私は、アレの実働試験を見学に来ただけです。それにしても、なかなか良いご趣味ですね。ベースは弊社の介護用ロボのＴ―８００ですか」

壁には、本来男性型であるＴ―８００の骨格を改造して女性型にした試作モデルがあった。水色のカツラや人工皮膚など、材料は揃いつつあるが完成までは程遠い。

『うわ、キショ。人間って、呪霊だけじゃなく、こんな模型にも欲情するの』

「でも、そんな人間から産まれたのが真人だよ。だから、ある意味、彼は産みの親の一人ともいえる」

夏油傑の言葉に、心底嫌な顔をする真人。
真人は、人間から産まれたのに人間の事がよく分かっていない。可愛ければ問題ないという種族に拘らないという日本人の闇を。世界広しと言えども、真人が日本に誕生したのには、この日本人の特殊性癖があってこそだ。
「呪霊と議論する気はない。さっさと治せ、ゲス」
『勢い余って芋虫にしちゃいそう』
真人は、与　幸吉を治すのを止めたかった。だが、縛りによる制約の重要性を夏油傑が説いて嫌々契約を履行する。その様子に義善聖徳は、縛りの重要性を何段階か引き上げた。特級呪霊や特級呪術師であっても縛りの制約は絶対である。
つまり、「呪霊ＧＯ」のアプリの規約にしれっと縛りを設ければ色々と使い道があるのではないかと。
……
……
…
『無為転変』により健康体を取り戻した与　幸吉。彼の目的は、五条悟と連絡を取り、渋谷の計画を伝えることだ。
五条悟封印計画。
それが実現すれば、呪霊側と呪術師側のパワーバランスは完全に逆転する。勿論、損な事を夏油傑も真人も許容しない。だから、この場でどちらかが倒れるまでのデスマッチが開催される。
与　幸吉の背後から、ぞろぞろとメカ丸擬きが現れる。
「手伝う？」
「やめて、俺のオモチャだよ」
真人の言うとおり、メカ丸擬きなんぞ特級呪霊真人の敵ではない。それが分からない与　幸吉ではない。呪霊側と手を切るに際し、切り札はあった。
「真人様でも弊社自慢の最新兵器は骨を折ると思いますよ。弊社の兵器開発部ご自慢のメタルギア　サヘラントロプス」
「うん？　なんだい、それ」

夏油傑は、新しい情報を義善聖徳から知らされた。
尤も、二人はビジネスパートナーであるだけで、協力者ではない。
お互いに教えていない秘密の一つや二つはある。
「科学技術とオカルト技術の決戦兵器。彼の試験運用でテストに合格したら、陸自に納品予定です」
そして現れる巨大ロボ！
夏油傑は思った……どうせなら、ホワイトグリントにしろよと。

２８．メカ丸（２）

特級呪霊が通常兵器で除霊可能とした場合、必要な火力はクラスター爆弾だと定義されている。ならば、クラスター爆弾に呪力を付与できる技術が完成すれば、通常兵器でも十分に祓える。

つまり、人造呪具を開発に成功しているサイバーダインシステムズが製造した決戦兵器メタルギア　サヘラントロプスの搭載兵器は対呪霊にも有効であった。お値段時価の兵器であり、最新鋭の戦闘機５台は購入できるお値段になっている。

そんな決戦兵器と特級呪霊真人の戦いを、見学する者達。

「でも、彼…究極メカ丸絶対形態って言っているよ」

「愛機に名前を付けるのはパイロットの自由ですからね。夏油傑様は、お手伝いをしなくてよろしいのですか？」

特級呪霊真人は、他の特級と決定的な違いがある。呪力だけでは、祓うことは困難であった。魂にダメージを与える事ができない限り、致命傷となり得ない。

「真人の邪魔をしたら悪いからね」

暇をもてあまし、義善の影から漏瑚（シノブ）が現れる。存在を上書きされ、宿儺の指１２本換算の本体から分かれた唯一の分霊。その実力は、特級クラス。

『アレを甘く見ていると死ぬぞ。サイバーダインシステムズは、儂等の能力を十分に研究した。あの頭のおかしい馬鹿達が、それに対応していない兵器など作るはずもあるまい』

「漏瑚（シノブ）様がおやつの時間以外に外に出られるのは珍しいですね。後で、皆さんから苦情を言われても知りませんよ」

『ふん。別に好きで出てきた訳じゃない。非呪術師であるお主は、流れ弾でも死んでしまうじゃろう。だから、儂等が守ってやるんだ。他の者達も文句は言うまい』

影の中から「呪霊ＧＯ」で実装された呪霊達が漏れ出す。サイバーダインシステムズによって生み出された呪霊のオリジナル達。並みの呪術師ならば、裸足で逃げ出す。「呪霊ＧＯ」のプレイヤーなら全裸

で突っ込んできそうな光景になった。
「あのさ～、義善。ここは、ワンフェス会場じゃないんだよ」
身を守る術を呪霊に任せている義善は、別に悪くは無い。ただ、特級相当の呪力出力を出せる兵器から身を守る為にも必要な措置であった。
だが、夏油傑以外にも文句が言いたい人物はいる。
□□□
究極メカ丸のコックピットは、全天周囲モニターを採用している。
与　幸吉は、真人と戦闘する最中であっても、夏油傑への警戒を怠らない。だが、非呪術師という事で警戒レベルが低かった男…義善聖徳の傍らが特級呪霊の見本市となっている。
「ふざけるな！お前のような非呪術師が居てたまるか」
真人との戦闘で既に三年分くらいの呪力を消費していた。今までの人生で稼いだ呪力を全て使っても勝てるか状況が不透明になりつつある。特級呪霊真人を相手に出し惜しみなど出来ない。
残った呪力で夏油傑との戦いを征する予定でいた。
「くっそ、だがやる事は変わらない。まずは、一気に真人を祓う」
与　幸吉が切り札を取り出す。通常兵器や人造呪具では、真人に対して致命傷にならない。だが、彼は今までの戦闘を撮影し、分析し、対策を練っていた。そして、虎杖悠仁が呪霊をボコボコにする動画などを投稿して稼いだお金で用意した４本の秘密兵器。
その一本を使用する。
【術式装填】
シン・陰流の簡易領域を封じ込めた代物。それを兵器転用すれば、真人が相手でも確実にダメージを蓄積できる。
その攻撃は、完全に油断している真人に直撃する。その様子には、傍観している者達も驚いた。
「期待していましたが、効果無しですか」
「……いいや、効いているね。場合によっては、止めておこう」
夏油傑は、美少女呪霊達を確認して何かを思い直した。
【追尾弾～五重奏～】

究極メカ丸が膨大な呪力消費を引き替えに、非呪術師でも視認できる程の追尾弾を放つ。物理法則を無視する機動性は、今の科学技術の水準を上回っていた。
「真人様の攻撃にも耐えられる装甲の評価は◎。機動性は、辛うじて○ですね。やはり軽量化が課題ですが、あのサイズだから一定以上の装甲は必要なのが難題ですな。燃費は×ですね」
「こんな時まで仕事なんだね。勤め人は辛いね～。そういえば、アレの動力って呪力と何で動いているの？」
夏油傑も興味を持ち始めた。
天与呪縛という肉体的な制限と引き替えに得た呪力を利用しているにしても特級呪霊真人とここまで闘う近代兵器。一研究者として興味があった。
「プラズマ核融合炉です。呪力と核エネルギーのハイブリットですよ。呪力へのエネルギー変換効率が悪いので、課題は山積みですが」
「……真人!!　そのロボット、丁寧に壊せ。いいや、中の奴だけ殺せ。万が一、それが爆発したら助からん」
ロボットに搭載される兵器で一番あるのは、自爆スイッチである。勝てないと察した場合、自爆されるのが最悪な展開だ。だからこそ、パイロットだけ速やかに殺せと夏油傑は指示する。
重装甲の中にいるパイロットをピンポイントで殺せる方法がある事を夏油傑も特級呪霊真人も知っていた。それに、魂にダメージを与える術を持つ相手と長く闘うのは得策ではない。無駄に体力と呪力を浪費するだけだ。
『はいはい、じゃあコレでお終い。領域展開――自閉円頓裏。「無為転変」』
領域展開から身を守る術が無い限り、必殺のコンボを繰り出す特級呪霊真人。
コックピットにいる与　幸吉に無為転変が炸裂する。無意識下で呪術師は、魂を呪力で守っている。だが、それが分かっていれば対応も可能であった。そして、対呪術師相手でも一撃で「無為転変」を決める事が出来るように真人も成長している。

領域展開が閉じられて究極メカ丸が転倒し、ダム底へと沈んでいった。
「システムダウンしましたね。パイロットや全身を支えていた人工筋肉が「無為転変」の影響で変形しましたか。アンブレラ謹製の人工筋肉が術式の影響範囲下にあるとは……一体、原材料はなんなのか気になるところです」
義善聖徳は、比較的満足なテスト結果が得られたと考えた。そして、ポケットの中にあった緊急停止ボタンから手を離す。
そのタイミングで特級呪霊真人が戻ってきた。
『いや～楽しかったよ。義善達が作ったロボットも中々良い感じじゃない。俺じゃなかったら結構良い線いっていたと思うよ。で、俺にダメージを与えたあれってなんなの？』
「シン・陰流の簡易領域を擬似的に再現したものです。花御（カシマ）様の先生に呼んだ女性の方が居たでしょう。あの人から採取したデータをベースにしました」
義善聖徳は、何食わぬ顔で説明した。どのみち、花御（カシマ）が既に簡易領域を取得している。戻って聞けば一発で分かるので、知るタイミングが遅いか早いかだけであった。
「アレも簡易領域か。本番前にいいものがみれたんじゃない？」
「あぁ、嘱託式の帳の調整も終えた。呪力や言霊ごと他人に託しても問題無い」
三人は、来るハロウィンに向けての準備をするため、その場を後にした。

２９．閑話～オフ会～

ゲーム内の仲間とリアルで会うというリア充イベントが世の中には存在している。

その名は、オフ会！

ゲーム内の付き合いとはリアルから隔絶されており、自信のアバターを通じて付き合う関係だ。それなのに、態々リアルで会うなど理解できないという人達も多いだろう。ゲーム内の強さとは、金か時間をどの程度掛けるかに比例している。

”リアルで時間を持て余す人間”か”強くなる手段を金で買える人間”が強くなる。

つまり、ゲーム内の強さやアバターのイメージが現実の自分についてこない人材は、オフ会など参加を考えない。という、一意見も存在している。

だが、オフ会を楽しみにする人物もいる。オフ会とは、言わばマウントの取り合いだ。だからこそ、他者に自慢できる何かがあればそれだけで勝ち組。そんなマウントの取り合いに、とある二級呪術師は参加する予定だ。

彼は、呪力を持って生まれ、虐待や売られて非道な扱いを受ける子供達を救うため全国を回っていた。誰かの依頼でも無く、彼自身が信念を持って奉仕労働をしている。

「会場は東京か～、丁度良い。さぁ、今から東京のお家（児童養護施設）に行くぞ。そこには、みんなと同じ呪力を持った子供が沢山居る。仲よくするんだぞ」

「でも、お兄ちゃんも邪ンヌお姉ちゃんと一緒じゃなきゃ…我が儘言ってごめんなさい」

「僕達、邪魔なの。一緒について行っちゃ駄目？」

子供達は心配していた。地獄から救ってくれた優しいお兄さんとお姉さんに捨てられるのではないかと。子供故に、事情を全て把握はできないのは仕方が無い。だが、服を摘まんで泣き顔をする子供相手には誰も勝てなかった。

『全く、泣くんじゃないの。泣く子の晩ご飯はゴーヤチャンプルにするわよ。苦くて、子供には辛いだろうけど、好き嫌いは許さないから』

そんな二級呪術師の男は、当然児童養護施設への寄付は忘れていない。全国を回る放浪の旅には、パートナーが必要であった。子供を救いに行くのだから、その扱いに長けた者としては理想的な相手がジャンヌダルク・オルタだ。

「ううう、お兄ちゃん。邪ンヌお姉ちゃんが意地悪する」

『ふっふっふ、泣き叫びなさい。今日は、ゴーヤチャンプルだけでなく、ラフテーも用意するんだから。牛肉なんて高い物は食べさせないわ、豚で十分よ』

二級呪術師は、そんなジャンヌダルク・オルタと子供達のやり取りが尊いと感じていた。そして、今ほど呪術師としてやり甲斐を感じた事は無かった。報酬が誰かの笑顔。だが、その笑顔を守る為に自分は居るのだと。

……

……

……

「呪霊ＧＯ」には、ギルドシステムやランキングシステムが導入されている。つまり課金を煽るシステムは当然実装済み。そして、上位ランキングに名を連ねているのが――

１位：ＪＳ５（五条悟）

２位：２４ｆｐｓ（禪院直毘人）

３位：カモネギ（加茂家当主）

・

１５位：呪術師絶対殺すマン（五条悟にコッコロを除霊された男）

・

・

７３位：黄金比率は７：３（七海建人）

・

９９位：愛戦士（二級呪術師）

・

・
４５４５位：メグミン（伏黒恵）
このランキングは、ゲーム内での強さは勿論、リアルで呪霊の捕獲、成長度合いなどの隠しポイントで変動する。
そんな上位ランカー達とのオフ会に参加する二級呪術師。東京の児童養護施設に沖縄から連れてきた子供達を託し、ジャンヌダルク・オルタを連れて参加。彼のジャンヌダルク・オルタは、様々な経験を得て低級から中級程度まで力を付けた。今では３級上位に食い込む力を持っている。
この胸で聖女は無理がある彼女を自慢する為、男はオフ会へ挑む。こんな美少女呪霊を傍らに全国を旅し、人を救い、順風満帆の人生を見せ付けてやるのだと。
そして、会場である一見様お断りの六本木にある高級料理店。お財布事情が心配であった二級呪術師だが、本日は「呪霊ＧＯ」のギルド幹部であるトップランカー三名が全額持ってくれるという大盤振る舞い。金はあるところにはあるんだなと素直に思っていた。
「さぁ、いこう。早くみんなに君を自慢したい」
『はいはい。感謝しなさいよ、この私が一緒に食事にきてあげるんだから』
二級呪術師とも成れば、呪力に敏感になる。会場に近付くにつれて感じる威圧感。特級クラスでも居るのかと思ってしまうレベルであった。
そして、案内されるオフ会の会場。
「初めまして、愛戦士で…あっ、部屋を間違いました」
『何しているの早く入りなさいよ。って、なんか見知った顔ぶれが多いわね』
二級呪術師は、中のメンバーを見て部屋を間違った事で逃げたかった。どうして、御三家当主達が勢揃いしているのだと。おまけに、１級呪術師で有名な脱サラリーマン。集まっているメンバーの一人で唯一の非呪術師が、五条悟に殺意を向けている。
二級呪術師の胃に穴が空きそうなヘビーなオフ会になりそうで

あった。
「早く入りなよ。こうして、ギルドメンバーに会えるなんて僕は幸運だな。ここはゲームのオフ会だよ。リアル事情を持ち込むような無粋者は居ないから安心してよ」
『こんにちは、ライザです』
　この場での無礼講が何処まで許されるか謎。なにより、ＪＳ５（五条悟）の横にいる知能指数を低下させてきそうなムチムチな呪霊は、二級呪術師が知らない存在であった。だが、感じる力はどう考えても特級レベル。
『あぁ、貴方は、ライザの事は知らないよね。彼女は、私の後輩みたいなものよ。政府肝入りプロジェクトで家庭教師をやっていたわ。今じゃ、呪術高専で教鞭を振るっているわよ』
　パートナーから聞かされた情報に頭が痛くなってきた二級呪術師。俺の時代も、こんな教師を用意してくれよと。
「ＪＳ５（五条悟）に同意するのは不本意だが、オフ会にリアル事情を持ち込むような事はせん。酒は好きな物を注文しろ。ほれ、花御（カシマ）注いでやれ」
『はい、直毘人様』
　二級呪術師は思った。こいつ等、馬鹿なんじゃないかと。なんで、呪術師が平然と呪霊を召使いのように扱っているのかと。全国世直しの旅にジャンヌダルク・オルタを連れている彼にはそれを言う権利はなかった。
「諦めた方が良いですよ。私も、この会場に来て凍り付きましたが…もう慣れました」
『主さま～、お酌なら私が致しますので自分で注がないでください』
　黄金比率は７（七）：３（海人）（建）は、日常生活を全てサポートしてくれるコッコロを使い潰していた。掃除洗濯など一家に一台の家電製品か何かだと思っている。だが、そんな扱いはコッコロも望む所であったので、関係は良好だ。
　二級呪術師は、胃痛を感じるオフ会であったが伝手という意味では最高の札を手に入れた。御三家の当主レベルに伝手を持つことで、救える子供の幅が広がる可能性があった。

翌日、二級呪術師は、準一級への推薦が成される。しかも、御三家当主全員からのご指名であり、呪術業界上層部も驚く程であった。

３０．閑話～獄門疆～

雀卓を囲む者達。その面子は、夏油傑、特級呪霊漏瑚（シノブ）、特級呪霊真人、義善聖徳。見学者で特級呪霊花御（カシマ）、特級呪霊陀艮。つまり、悪の組織メンバーが勢揃いだ。

楽しい麻雀をしつつ、会話の内容は全く関係無い物であった。五条悟の封印方法についてだ。それは、夏油傑が保有している特級呪具の獄門疆を使用する事で可能であった。

獄門疆に封印できない物は存在しない。まさに、完璧な呪具だ。効果に比例した条件という物は存在している。それを、今になって初めて聞かされた特級呪霊側は衝撃的であった。

「1分だ。獄門疆開門後、有効範囲内半径４ｍ以内に1分間、五条悟を留めなければならない」

その条件を聞かされた夏油傑と手を組んでいる特級呪霊側は、その封印条件を到底受け入れられるものではなかった。世界最強の五条悟を同じ場所に一分も留めるだけでも、至難だ。更に言えば、開門した獄門疆を前にという条件までつけば理論上不可能な課題。そのような事ができるなら、五条悟を倒せと言われた方がまだ可能性が見える。

『まさか、儂等にそのような無理難題を押しつけるために手を組んだのか。その条件下で、アレを一分も留めるなど不可能だ。焼き殺すぞ』

理性的な特級呪霊漏瑚であっても、許容出来る範囲を超えていた。

確かに、以前と比較しても何割もパワーアップしたが、それでも勝ち筋が見えない。例え、サイバーダインシステムズが生み出した特級呪霊や分霊達を総動員したとしても、無理であった。これが半径５０ｍの様な広域をカバーできるならば可能性は見える。

「暑いよ漏瑚。大丈夫だ、一分といっても五条悟の脳内時間で一分だ」

夏油傑の言葉の意味を考える特級呪霊達。脳内時間と言われてもパッと分かる物ではない。ならば、具体的にどういう事か体験して貰うのが一番であると考え、義善聖徳が名乗りをあげる。

「漏瑚(シノブ)様。体験してみるのが一番良いかと思います。私一人で漏瑚(シノブ)様を封印してみせます」
『義善が儂を？　笑わせる。儂とお主の戦力の差は、五条悟と儂の比ではないぞ。だが、もし封印する事が出来たら、何でも言う事を聞いてやるぞ』
「もし、封印できなかったら私も何でも言う事を聞いて差し上げますよ。夏油傑様、獄門疆をお借りできますか」
「構わないよ。でも、獄門疆でいいのかい？　私としては、君達がコレを解析して作っているという物をみたいな」
義善聖徳は快諾した。
どのみち、試作品を披露する気でもいたので、丁度良いと。
……
……
…
義善聖徳が、床に獄門疆を置く。五条悟封印を想定したポジションでのゲーム開始となる。つまり、特級呪霊漏瑚の初期位置は、獄門疆の有効範囲内。
『いつでも構わぬぞ。なーに、コチラから攻撃はしないから安心しろ』
「では、【開門】！」
その瞬間、獄門疆が開き中から気味悪い目玉が現れる。
「昨日のおやつ、ポン・デ・リングは美味しかったですか」
『あぁ、美味であった。…えっ!?　まだ、一分どころか数秒であろう』
獄門疆の開門から僅か3秒で特級呪霊漏瑚が捕縛される。捕縛されたら最後、呪力も完全に封印され手も足も出ない状況になってしまう。
「漏瑚(シノブ)様の脳内時間は、昨日のおやつタイムから今現在までの時間が流れました。つまり、脳内時間とはこう言うことです。では、【閉門】」
鮮やかな手口。
様子を見ていた真人や花御、陀艮までもが唖然としていた。自分達の仲間で最高の戦闘力を誇る漏瑚が数秒で封印されたのだ。
『道具の使い方が上手いですね。確かに、これならあの五条悟でも封

印できそうです』
「褒めても何もでませんよ、花御(カシマ)様。これは、道具の性能が素晴らしいから実現できたことです。では、出してあげましょうか【開門】」
　開門された獄門疆から出てきた漏瑚は、不機嫌であった。だが、五条悟を数秒だけ留めるなら可能性が見えてきたと嬉しさ半分だ。
『汚いぞ、義善。あんなやり方、なしじゃ！やり直しを要求する』
「勝負とは非情です、漏瑚(シノブ)様。今は、お願いしたい事が無いので、決まり次第と言う事で」
　何でもするというお願い…コレの使うタイミングは、いつでも良いというのは最高だ。義善聖徳としても呪霊との関係を壊すつもりはない。だから、常識の範疇でしか頼むつもりはなかった。そう、最高のタイミングでお願い事をするんだと。
「流石は、義善だね。獄門疆の使い方をよく分かっている。で、君達がコレを元に開発している品も見せてよ。呪術師として、研究者として非常に興味がある。場合によっては、作戦に加える事も考えているよ」
「勿論です。流石に弊社の技術力を持っても、何でも封印可能。外部から解除しない限り出てこれないなど実現は不可能でした。実現できた事は、呪霊を一時的にボールに収納する程度です。その名も、モンスターホール！」
「いや、これ完全にモンスターボールでしょ。Mって書いてあるし、マスターボールにくりそつじゃん。しかも、封印条件が緩すぎない？本当に中の呪霊が勝手に出てくることないの？」
　画期的な装置に夏油傑も興味津々だ。だが、呪術的な観点で言えば、条件が緩すぎるので、封印とは名ばかりの物だと思っていた。
「これは、対象にボールを当てる必要があります。このボール外部に設置しているボタンを押す以外で呪霊が出てくる事が出来るのは、二つです。この封印装置は、内部に封じ込めた呪霊の呪力を利用しております。つまり、呪力が一定以下に下回れば勝手に開門されます」
「素晴らしい発想だね。中にいる呪霊の呪力を利用し、自らを封印させるなんて！　時間経過で出てくるのは問題だけど。で、もう一つは

？」
「このモンスターホールの中で呪霊が、とあるゲームをノーダメージクリアをする事で開門されます。ゲームは、ＳＥＫＩＲ〇、デモンズソウ〇、超魔界〇など沢山のゲームを用意しております。どんなゲームでも構わないという緩い条件を用意する事で縛りを強化しています」
　知る者は知っていた。ノーダメージクリアなんて、頑張れば出来るモノではない。あれは一種の才能だ。全ての行動パターンを網羅し、未来予知に等しい先読みした回避行動が必要なのだ。
「ねえ、義善。それ、絶対二個目の条件で外に出す気ないでしょう。縛りの拡大解釈でしょ」
「でも、獄門彊に比べればゆるゆるの条件ですよ。簡単に開けられますし」
　ちなみに、この製品モンスターホールのお値段は、一つでランボルギーニと等価だ。機械だから、壊れるし、耐久性も高いと言えない。こんな使いどころに困る商品を欲しがる奇特な人物など…「呪霊ＧＯ」のトッププレイヤー達しかいない。

３１．渋谷事変（１）

五条悟封印の為、夏油傑の計画はおおよそ完璧であった。入念な準備…だが、順調な計画であっても問題は起こる。渋谷のハロウィンという人口密度が過密になるタイミングでの計画であった。

しかし、〇朝鮮が日本海側にミサイルをバンバン飛ばすわ、新型コロナが大流行し、今や全国的に緊急事態宣言がなされていた。つまり、夏油傑が想定していたハロウィン参加人数が大幅に減少する事になる。テレビの情報だと例年の３０％以下と推測されている。

計画の実行日が近付く最中、夏油傑が悩ましい顔をする。夏油傑の計画には、大量の人間が必要であった。五条悟が本領を発揮できないように人口密集地帯での戦闘。それこそが、勝利への鍵であった。だが、その肝心な壁役が不在となれば、計画の根本が崩れる。

その為、計画の見直しを迫られていた。特級呪霊達も壁役がいるからこそ、五条悟との戦闘を引き受ける。だが、それが不可能ならば五条悟の相手など無理難題だ。

「いやはや、これは困った。まさか、緊急事態宣言なんて出されるなんてね。サイバーダインシステムズから圧力を掛けて解除できないかな？」

「一企業である弊社からでは難しいでしょう。いっそもう、集めた宿儺を使って、皆様の能力強化で押し切る方法はどうですかね。意外と良い線いくと思うんですよ。アベレージが指１３本分程度が４．５人居れば」

呪力負けをするならば、宿儺の指で強化すれば良いというのは一理あった。五条悟の術式は、単純な呪力総量だけで解決はできない。だからこそ、五条悟との実戦経験がある特級呪霊漏瑚は、渋った。仮に集めた指を全て自らに使っても勝てないと。

『儂の術式では、無理じゃ。全ての指を使って拮抗までは持って行ける可能性はある。だが、それも瞬間じゃろう。六眼持ちの五条悟は、呪力消費量がほぼ０だ。勝ち目はない』

「漏瑚（シノブ）様でも無理となると、困りましたね。夏油傑様、セカンドプラン

は？」
　メインプランが破綻した場合に備えてのサブプラン。何事にも予備は必要だ。だからこそ、義善聖徳はその確認を行った。別に開催場所は渋谷である必要は無い。人間が多く必要ならば、それが隣国の世界的な人口を誇る国だってある。
　幸いな事に、呪霊達は他国に密航するのは容易い。夏油傑とその仲間の呪詛師達だけなら、サイバーダインシステムズがプライベートジェットでも飛ばせば事足りる。
「多少の計画変更案ならあったが、ここまでとなるとね～。だから、アイディアを聞いている。場所は、渋谷を動かせない」
「以前に夏油傑様がクリスマスを中止させたように今回もと思いましたが～、収束の目処が分かりません。整理しますと問題は、漏瑚（シノブ）様達が闘うに際し、壁役となる存在がいない。ならば、宿儺の指を数本消費して宜しければ代案があります」
　義善聖徳は思い出した。
　五条悟達が特級呪霊ライザリン・シュタウトとある”縛り”を結んだ。あの股と太ももの性のトライフォースに負け『分霊の除霊をしない事』と。つまり、あのムチムチの呪霊を地下鉄ホームにすし詰めにすれば事は解決する。
　近代兵器で金属バットで殺せるレベルの呪霊ならば、死にやすさを考えて壁役には適任と言える。そして、そのアイディアを全員に周知した。
「馬鹿な作戦だけどいけるね、それ」
「では、ライザには私から連絡を入れておきます。ライザを私から奪った罪はライザを使って償わせます。ライザの太ももに溺れさせて封印してやる」
　そして、「呪霊ＧＯ」のハロウィンいべんとで特級呪霊ライザリン・シュタウトの実装が告知された。その中で、分霊が渋谷にヒッソリと配置される事が分霊持ちのプレイヤー達に噂で広まる……分霊達が寝床でプレイヤー達にヒッソリと教え始める。
　全国各地にいる分霊所持者達が万全の準備を整えて、渋谷のハロ

ウィンを目指して集合を始めた。中には、近隣のホテルや漫画喫茶で待機組まで現れる。政府公認の家庭教師の人気は留まる事をしらない。

32．渋谷事変（2）

人間と呪霊の共存は、水面下で国家プロジェクトになっている。

日本海側の防衛においては、霊的な防衛システムが組み込まれている。日本の領域内に侵入した不審船は、謎の神隠しにより消息を絶つ。更に、不審物が海岸に流れ着く事件も大幅に減った。海流を操作して、海上のゴミが自国海岸に流れ着くようになっている。

それを可能としているのが日本海軍の上層部に特別に席を設けられた一級呪霊陀艮（ルルイエ異本）―通称ルルイエちゃんと呼ばれている。オッドアイの幼い容姿、異国の風貌の無口な少女だ。だが、むさ苦しい男所帯の海上自衛隊において一服の清涼剤にもなっており、大変可愛がられている。

今や特級呪霊達は、呪術師達以上に政府にメリットがある存在であった。無論、政府としてもタダで知的生命である特級呪霊達からこのような恩恵が得られるとは思っていない。政府としてもそれに報いるために最大限の配慮や法整備を実施する。

渋谷事変に特級呪霊達が関与していたとなれば、政府としても呪霊達との共存を検討し治す可能性はあった。だが、事幸いな事に呪術師や呪詛師達も絡んで居るとなれば話は違う。

「義善。政府…自衛隊の介入はないとみて問題無いのかい。強度がある帳だとはいえ、一般人が出られないという緩い制限だ。強引に破壊は可能だ」

「問題ありません。今回の事件は、呪詛師と呪術師の抗争という事が政府の共通認識予定です。その抗争に、特級呪霊達が巻き添えを食ったというカバーストーリーが出来ています。事実、呪術師達の通話記録から、呪術師の被害を最小限に抑えるために動くという情報を得ておりリーク済みです」

義善聖徳は、夏油傑の質問に回答する。そんな彼の様子に、義善聖徳には人の心はないのだろうかと少なからず思っていた。見ず知らずの人間が犠牲になるこの作戦で心の乱れを感じない。

心など乱れるはずもない。現状政府ですら呪霊側に重きを置き始

めた以上、何の憂いもないというのが真実だ。
国防、資源、農業、介護、学力などの政府が頭を悩ます問題を解決してくれるコミュニケーション可能な知的生命体だ。しかも、地球外ではなく同じ日本産で美少女となれば、答えは簡単であった。
勿論、人的被害が出ることは政府としても頭が痛いことだ。だが、呪詛師と呪術師という抗争図がある為、色々な問題がクリアできる。
「いや～、日本が思ったより真っ黒で安心したよ。義善には、ここに続く線路を守って貰おうかな。呪術師が突入してきたら大変だから」
「夏油傑様。この渋谷駅にやってくる呪術師は、相当な手練れでしょう。人間戦車に私のような一般人を差し向けなくてもお仲間にお願いした方が良いんじゃありませんか」
酷い話であった。戦闘経験豊富の呪術師を唯の一般人が相手をしろなど…と、義善聖徳以外は、何言っているんだコイツという雰囲気であった。自衛と呼ぶには過剰戦力を有する男。
「義善さ～。特級呪霊のコッコロ、ジャンヌダルク・オルタ、ライザリン・シュタウト。漏瑚、花御、陀艮のバックアップも持っているでしょう…それも特級クラスの。それと、２Ｂだっけ？」
「えぇ……分かりました。可愛い娘達に労働を強いるのは、心苦しいですが、五条悟を相手にするよりマシですからね」
オリジナルの特級呪霊ジャンヌダルク・オルタと特級呪霊ライザリン・シュタウトも本日は年休を取得しての参戦である。雇用条件はしっかり守って貰っている。
『義善は、五条悟と戦闘の場から離れていろ。万が一に備えてのバックアップまで祓われてはかなわん』
『漏瑚の言うとおりです。義善、分霊を任せます』
『任せた』
特級呪霊達から頼まれては、義善聖徳も頑張ろうと思った。最悪、バックアップがあれば、いつでも再起できる。
「では、真人様も私にバックアップを預けませんか？　真人様に万が一あったら、お得意様達が嘆きますよ」
『えぇ～、俺は分霊とか作れないからな～。分身になっちゃうよ』

特級呪霊真人の需要は、凄まじいレベルであった。無為転変によるアンチエイジングが世界の富の半分を占める方々に大好評で、お忍びで何人も来日してきた。このアンチエイジングの為なら何でもするという人が沢山いる。

「分身で「無為転変」は、できますか？」

『無理無理。あれは、俺じゃないとできないよ。分身も成長すればもしかしたらってレベルかな』

可能性があるだけで十分だと考え、特級呪霊真人のバックアップも義善が預かる事になった。

「では、全員持ち場につくよ。五条悟さえ、封印できれば私達の勝ちだ」

義善聖徳は、渋谷に集結している分霊持ちプレイヤーの数と質、課金額を確認した。そして、高位分霊持ちのプロジェクトメンバーに指示を出す。大事な顧客は影から守れと。

３３．渋谷事変（３）

渋谷事変……渋谷駅を囲う様に展開された帳により、一般人達が閉じ込められた。このご時世、ミサイルやコロナ禍というのに１０月３１日というハロウィンの為、恐れ知らずのアホ達と仕事を頑張る社会人達が隔離されてしまった。

政府の対応は、機敏であった。発生から十分程度で早急に事を解決するように呪術師業界に指示をしたが、呪術師側はガン無視した。五条悟一人による渋谷平定。策としては、有りだ。だが、それに至るまでの経緯が全て政府に筒抜けで、一般人への被害など無視してかまわないという作戦なのが大問題であった。

捨てる神あれば拾う神あり。

呪術業界が見捨てた渋谷に「呪霊ＧＯ」のプレイヤー達が集結する。それも、傍らには、下級呪霊～中級呪霊の美少女呪霊を携えてのご登場。プレイヤー達は、準備を怠らず、呪具での武装や徒党を組んでの連携プレイも万全であった。昨今、減りつつある呪霊を倒して、手持ちの美少女呪霊をパワーアップさせる。

そして、渋谷ホームに配置されているライザリン・シュタウトを手駒にするため、死地へと挑む。集まった者達の中には、発売したばかりのモンスターホールを手にしている者も居る。とりあえず確保した後、どこかの休憩所で調服する構えである。

「呪術師のプレイヤーからの情報です。この帳という物は、一般人が外に出られない制限があるみたいです。中には、特級呪霊が複数居ると」

「つまり、あのイベント会場にいた花御《カシマ》の他にも同じような呪霊がいるってことか。最高だな」

「だが、退路が確保出来ていない状態は宜しくない。帳を解除してから、渋谷駅ホームにいきましょうか。どうせ、この手の輩は、身を守る為、呪霊などが大量に居る場所を拠点にしているはずです」

プレイヤー達は、早速「呪霊ＧＯ」のアプリを起動する。例え、電波は入らなくても近くに居る呪霊の情報くらいは拾える優れもので

あった。そして、渋谷Ｃタワービルに無数の改造人間がいる事が判明した。
「しかし、この状況だってのに呪術師の連中は、助けに来ないんですね」
「そうだな。噂じゃ、貴重な呪術師への被害を減らすため、五条悟という最強の呪術師が単独先行らしいぞ」
「ひでー話だよな。幾ら最強っていっても、一人だろう。何カ所も同時に攻められたら守れないでしょ」
そんな世間話をしながらプレイヤー達は、渋谷Ｃタワーに向けて出発した。
□□□
渋谷平定に向けて、「呪霊ＧＯ」プレイヤー達が行動を開始する最中、明治神宮前駅地下に虎杖悠仁が潜入を始めた。渋谷同様に帳が展開されて、一般人が閉じ込められてしまっている。その解放が目的であった。
そして、この場には、虎杖悠仁の宿敵である特級呪霊真人がいる。それを倒すべく地下に降りる。
虎杖悠仁の前に、ボリボリと呪霊を食っている呪霊がいた。蝗虫の様な呪霊を頭からボリボリ食べていた。人間のような二足歩行の黒光りした人型呪霊。虎杖悠仁は、その呪霊に生理的嫌悪感を感じながら、感謝した。
「よし！こいつなら殴っても良心が痛まない」
そう、彼の敵は今まで殆どが美少女呪霊であった。しかも、何故か撮影されておりネット界隈ではボロ糞に叩かれていた。中学生時代の同級生（小沢優子）からは、『私、虎杖君がどんな趣味でも受け入れるから』と痛恨の一撃をくらっていた。あまりの不憫さに、伏黒恵と釘崎野薔薇が揃ってフォローしてくれたほどだ。
『じょーじじょーじ』
呪霊が指を指して、気持ち悪い顔で笑う。言葉は通じていない。だが、はっきりと伝わってくる悪意。
「ツギハギ顔の呪霊が来ているだろう？どこにいる」

『じょじじょー』
黒光りする呪霊の足が蝗虫の様になる。呪霊を食って、その能力を取り込む事に成功した。一級レベルの呪霊へと成長を遂げる。だが、戦いとは同じレベルでしか成立しない。
数々の特級呪霊を退け、黒閃を経験した虎杖悠仁のポテンシャルについて行くには一級程度の呪霊では足りなかった。
……
……
…
『へぇ～、あのキモいのを祓ったんだ。腕の良い呪術師が来ているね』
特級呪霊真人は、明治神宮前駅にて改造人間達を電車に乗せて、渋谷に向けて出発した。
虎杖悠仁達が到着した頃には、既に誰一人としてホームに残っておらず、一歩遅かった。

３４．渋谷事変（４）

五条悟は、渋谷平定に乗る気はなかった。
状況的に考えて、罠以外の何物でもない。自他共に認める世界最強の呪術師を呼び寄せるからには、相応の準備がされている可能性がある。だが、彼は、善人の部類だ。だからこそ、渋谷の一般人を人質にされては動かざるを得なかった。
だが、何より彼が気にくわなかったのは…
「僕が折角お土産で『喜久福』を買ってきてあげたのに、年休とか誰の許可を得て休んでいるんだい。ねえ、君の立場分かっている？」
渋谷ホームに降りてきた五条悟は、線路に待ち構えていた特級呪霊達に苦情を言った。中でも、特級呪霊ライザリン・シュタウトに対しては厳しくあたる。
彼女との雇用契約は呪術専高と結ばれている。だから、五条悟の許可など不要。だが、勤務時間後に監視という名目で家の家事全般をやらせている五条悟。偶には、それに報いてやろうとお土産を買って帰ったら、不在で今この場にいるのだから許せなかった。
『さ、悟さん。私にも立場がありまして…。それに、元々コチラ側です。そりゃ、悟さんには感謝しています。家賃が掛からないように部屋だけでなく、生活用品から何から何まで用意してもらいましたから』
「まぁ。いいよ。どうせ、僕が勝つし。で、コレで負けたら君達、言い訳できないよ」
地下ホームの入り口各所が樹木で覆われる。これで、地下ホームは、密室状態となった。
五条悟は、辺りを見渡して敵の狙いを理解する。この密室に集められたのは、人間と特級呪霊ライザリン・シュタウトの分霊が半分ずつ。つまり、〝縛り〟で五条悟がライザリン・シュタウトの分霊を祓えない事を盾にして戦いを有利に運ぼうという算段だと。
何処を見てもムチムチの呪霊がいるとは、狂気を感じる空間だ。
『貴様こそ初めての言い訳でも考えてきたか』

「へぇ～、前にあったときより強くなっているね。えーーと、漏瑚(シノブ)のデータは、火を操る術式だけで無く、影を操る術式、エナジードレイン、呪霊特攻、不死性が加わったのか。花御(カシマ)は、艦娘特性、シン・陰流、特級呪具游雲。もう一人は…データなしか」

五条悟は、「呪霊ＧＯ」のアプリで対象の情報を調べた。

『何も我々のデータまで更新しなくてもよいのですがね。後で、彼(義善)には苦情を言っておきましょう』

「さっさと、終わらすかな。僕が逃げたら、お前達はここの人間を殺すだろうから」

『逃げたらか……いいや、正解は逃げずともだ』

その瞬間、線路とホームの仕切りが解錠される。一部の「呪霊ＧＯ」変態プレイヤーが、特級呪霊目がけて飛び込んでいく。そして、床に伏せてシャッターを切る。まさに、命がけの行為であった。

特級呪霊達は、そんな人間などお構いなしに肉壁として存分に利用する。一般人にとっては、呪霊は見えないので、何が起こっているか理解できる者はすくない。アプリ越しでこの状況を確認出来ていない人間が早死する。

漏瑚(シノブ)と花御(カシマ)が人混みに紛れで奇襲を掛ける。

だが、五条悟に当たる前にピタリと止まる。無下限呪術を展開している為、近付けば近付くほど速度が落ちるという鬼畜な防御を前に並みの攻撃では届かない。

『『領域展延』』

特級呪霊達が自らの身に纏う形で領域展開する技―領域展延。五条悟の無下限呪術を中和し、攻撃を当てるための手段の一つだ。瞬間的に相手の呪力を上回れば、五条悟に攻撃を当てることも可能。

そして、当てるからには、当てたら勝ちの一撃必殺にするべき。

花御(カシマ)の持つ特級呪具游雲に、鍛え上げられた背筋力が加われば、当たれば人間をミンチにできる。

「わお、凄い威力だね」

攻撃を難なく回避した五条悟。特級呪具游雲によって、コンクリート壁が大きく陥没しているのを確認した。

『逃げるなと言ったはずだぞ』
「正直驚いたよ」
『なんだ、言い訳か』
「ちげーよ、ロリ幼女。この程度で僕に勝てると思っている脳みそに驚いたって言っているんだ。まず、最初に、そこの淫乱呪霊を祓ってやる。周囲のオタクども見ておけ、大破判定したら衣服がパージされるからな」
特級呪霊花御（カシマ）は、思う…それは、風評被害だと。

３５．渋谷事変（５）

人的被害を考慮せず、領域展開を行えば勝敗は決する。五条悟は、呪霊を祓うためなら多少の人的被害は計算に入れられる男だ。だが、その人的被害には、呪霊が出す被害であって、五条悟自身が出す被害は計算されていない。

「ほら、こいよ」

五条悟は、戦闘経験が豊富だ。領域展延についてもある程度推測を立てて、行動指針を決める。その為、多少のリスクを覚悟し、無下限呪術を解除する。これで、特級呪霊達が罠に掛かるのを待つ。

特級呪霊達の狙いは、近接戦闘。領域展延によって瞬間的に五条悟の無下限呪術を突破できれば良い。その作戦は、正しいやり方である。五条悟攻略の正攻法だ。

漏瑚（シノブ）の手が五条悟に確かに触れる。そのまま腕をへし折るつもりだったが、五条悟は手を離す。触れた瞬間に、生気が吸われるのを感じた。

「っ！いててて」

『咄嗟に腕を放したか。エナジードレインがある限り儂には触れられんぞ』

花御（カシマ）も五条悟が無下限術式を解除しているのを確認し、猛攻を仕掛ける。対人戦闘のプロフェッショナル達と積んだ訓練の日々……その成果が発揮される。

特級呪具游雲を下から上に地面を抉って振り上げた一撃。コンクリートを巻き上げて、五条悟の頬に切れ傷を作った。

『今の一撃は、貴方を真っ二つにするつもりでしたが』

「いやいや、僕の顔に傷を付けただけでも表彰物だよ。でもさ、僕が世界最強なのは、何も呪術に限った事だけじゃないんだよ。甘く見るなよ、呪霊」

その傷も既に反転術式で回復する。

基本的な呪術操作と身体能力、更には豊富な戦闘経験で五条悟と特級呪霊には埋まらない差がある。ここまで準備しても旗色は思わし

くない。漏瑚（シノブ）は、一体、五条悟は何を持たないのかと考える。
『でも～、その世界最強の悟さんは、女性慣れしていませんよね。その目隠しの下から、私の股下とか胸元を見てきますよね。知ってますか、女性って男性の視線に敏感なんですよ』
特級呪霊ライザリン・シュタウトが五条悟に致命的なダメージを与える。
呪術業界の御三家で五条家の当主。更には、世界最強と名高いのだから、下手な女性に手を出せない。今まで送り込まれたハニートラップは数知れない。どれも、僕に釣り合わないと門前払いしている男だ。
それを何年も繰り返し、次第に名家からの縁談の話も途切れた。五条悟は、自力で結婚相手を探す必要がある場面まで来ている。だが、世界最強の男が今更、呪術業界に結婚相手を探すような行動をとれるかといえば出来ないし、頼れない。
２０代の頃は、まだ良い。だが、五条悟とて３０代になってから結婚相手を探そうと思うと大変な苦労が伴う。同業者で探すにしても、厳しい。卒業生とワンチャンという可能性もあるが五条悟の性格を受け入れてくれる様な懐の広い女性は希有だといえる。
「おぃおぃ、名誉毀損で訴えるぞ。僕が女慣れしてないだって？　何処情報よ、それ」
『歌姫さんから女子会で聞きましたよ。同じ女性教師という事で色々とお世話になっています』
呪術高専の教師は非常に少ない。それも女性となれば、絶滅危惧種だ。特級呪霊ライザリン・シュタウトの素直な可愛らしい性格は、庵歌姫も大変好ましく思っており、仲がよかった。
『五条悟…まさか、その年で、貴方どうて』
その瞬間、五条悟が鬼気迫る顔をする。呪力を全快にし、花御《カシマ》の口を塞ぎ壁に押しつける。当然、無下限呪術も全力展開。致命的なダメージが花御《カシマ》を襲うが、ダメージを衣服が肩代わりして、ドンドン脱げていく。
パシャパシャとカメラ音が響く。

直ぐに漏瑚(シノブ)がフォローに回るが、五条悟の無下限呪術は、領域展延を持ってしても突破できない。
「いいのか、お前が展延を強く保とうとするほど、僕も術式を強く保つ。コッチの淫乱呪霊を守る衣服はない。もう、耐えられないんじゃないかな」
血反吐をはく花御(カシマ)。壁に押しつけられ逃げ場が無い状態となっている。五条悟の言うように、まさに瀕死の重体だ。
漏瑚(シノブ)が仲間を救うため、人間に向けて攻撃をするアピールをした。これで五条悟が、離れれば儲けもの。だが、五条悟にとって、呪霊が人間を殺す事は計算の内であり、その程度の行為では動じない。
『五条悟!!こっちを見ろ!!』
ぐしゃり
花御(カシマ)だったものが、五条悟の術式によって四散した。木っ端微塵になっており、元の原型を留めていない。
五条悟、自らの秘密に気がついた花御(カシマ)を綺麗に葬った。

36．渋谷事変（6）

五条悟の秘密に気がついた特級呪霊花御（カシマ）は、口封じされてしまう。対五条悟の為、訓練を積み、呪力を高めたにも関わらず本気の五条悟の前ではパワーアップした後でも誤差の範囲でしかない。

当初の計画通り、封印目的でヒットアンドウェイ作戦で時間を稼ぐ呪霊側。人間とライザリン・シュタウトの分霊を盾に時間を稼ぐ。だが、夏油傑は動かない。五条悟の注意が完全に引きつけられていないからだ。

次第に、五条悟の周囲から人間が逃げるようになってきた。呪霊が見えずとも、五条悟の周囲にいるだけで人が大量に死んでいる異常事態。非呪術師であっても流石にヤバすぎる事態に危機感を覚える。

特級呪霊漏瑚（シノブ）も限界が近かった。捕まれば祓われるという命がけの攻防。だが、渋谷駅ホームに特級呪霊真人と改造人間を大量に乗せた列車が到着する。一般人はそんな状況など知るはずもなく、電車に乗ってこの場から離れる事だけを考えていた。

列車の扉が開いた瞬間、改造人間達が扉付近にいた人間達を襲い始める。

「なぜだ」

五条悟は、この状況で壁となる人間が減って困るのは呪霊側だと困惑していた。確かに、ライザリン・シュタウトの分霊は邪魔だ。だが、ホームを埋め尽くす程いるわけでもない。壁となる人間は一定数は必要の筈だと。

『人間のキショい所一つおしえてやるよ。いっぱいいる所』

ホームの人間が減ったなら上の階層から補充すればよい。実に簡単な答えであった。

五条悟が少しでも改造人間から非呪術師を助けるために行動すれば御の字であるという呪霊側の作戦だ。僅かでも時間を稼げれば良いと。

ここがターニングポイント。

犠牲者の数が増え続ける。それを止めるためには、呪霊や改造人間

を一気に祓う必要があった。最初にいたホーム内の人間を必要な犠牲だと考えて、領域展開をしていれば被害は最小限で済んでいた。それができなかったばかりに、この大惨事になっている。
故に、五条悟は覚悟を決めた。人間が廃人にならず、分霊が死なないギリギリのライン……０．２秒の領域展開！
『マジか』
非呪術師を巻き込む環境下で領域展開する可能性は９９％無いと言われていたが、それが覆った瞬間だ。
呪霊も人間も圧倒的な情報量が脳に流れ込んできて、フリーズする。そのすきに、五条悟は全ての改造人間達を鏖殺する。１０００体はいた改造人間が僅か5分足らずで殺しつくされた。
その一瞬の隙を狙いホームに「呪霊ＧＯ」トッププレイヤー達が突入し、分霊を拉致って逃げていく様子を五条悟は目撃する。何故かかついた五条悟は、プレイヤーをボコって、落とし物を回収する。
有能なプレイヤーは、すでに渋谷駅ホームまで辿り着いていた。
……
……
…
改造人間の次は、特級呪霊の番だと殺す相手を定めていると、足下に不思議な箱がある事に五条悟は気がついた。
「開門」
獄門疆が開き、五条悟に狙いを定める。直感的にヤバイと感じた彼は、すぐさま距離を取る行動にでた。だが、思わぬ伏兵…夏油傑の登場により動きを止めてしまった。
「やぁ、悟」
「は？」
１年前に死んだはずのかつての親友が元気に歩いている。誰だって、一瞬思考が停止する。
「久しいね。学生時代に借りてた女教師のＡＶを返しにきたよ」
五条悟の脳内時間が学生時代に戻る。そして、夏油傑と過ごした青春時代が回想される。この時点ですでに脳内時間1分はとうに過ぎ

去っていた。
獄門疆が五条悟に纏わり付いた。呪力も封じられ、体に力すら入らなくなる。チェックメイトであった。
「っーーー！」
「ダメじゃないか、悟。戦闘中に考え事なんてして」
五条悟、親友の肉体を乗っ取っている存在を知る事になる。
そして、敵の手中に落ちた。

３７．渋谷事変（７）

特級呪霊花御（カシマ）が祓われた。だが、五条悟の封印には成功。つまり、この時点で呪霊側の勝利に天秤が大きく傾いた。

義善聖徳は、とりあえず安心した。

ビジネスパートナーとの約束の一つを守れた。そして残る約束は、この線路から来る呪術師を相手に時間稼ぎであった。誰が来るか分からないが、少なくとも五条悟で無ければ、時間稼ぎ程度は可能だと考えていた。

彼がコツコツと線路を進んでいくと、一組の呪術師達と遭遇。呪術師達の冥冥チーム、そのメンバーには、義善聖徳の顔を知る虎杖悠仁も含まれていた。そんな、彼の耳には、メカ丸擬きが付いている。

「救助隊の方ですか、助かりました」

「…いや、無理があるだろう。あんたは、サイバーダインシステムズで会った義善さんだっけ」

虎杖悠仁は、記憶力がよかった。服装は違えど、一度会った人間をしっかりと覚えているあたり、社会人としても通じるスキルだ。尤も、彼が無理があるといったのは、義善の横に、ハロウィンといえども際どすぎる服装の２Ｂが居るからだ。

そんな服装で街をあるけば、逮捕されてもおかしくなかった。

【虎杖悠仁、そこに居るのは義善聖徳で間違いないんだな。奴は、夏油傑とグルだ】

義善聖徳は、虎杖悠仁の耳にへばり付いているメカ丸擬きをみて驚いた。あの状態の与幸吉が遠隔操作している事は考えられなかったからだ。特級呪霊真人の無為転変により、死ぬ寸前であった男は、肉体の何割かを機械化する事で生きながらえた。そんな運の良い男は、現在生命維持装置に繋がれてサイバーダインシステムズで仮死状態だ。

つまり、生前に与幸吉が残したシステムが動き出した。しかも受け答えは、もはや自立ＡＩレベルだ。

「与幸吉君、グルだったのは君だ。私と彼はビジネスパートナー。自

分の罪を赤の他人に着せるのは止めたまえ。それに、虎杖悠仁の動画をネットにアップロードして金銭を稼いでいたのも君でしょう」
【エラー。エラー。虎杖悠仁、五条悟が封印された物はこの先にある。急げ】
素晴らしい自立型ＡＩであった。自己に都合の悪い真実は全てエラーとなる仕様。義善聖徳は、自社製品のスカイネットと勝負させてみたいと思った。一個人が作ったＡＩと会社が総力を挙げて作り上げたＡＩ…どちらが素晴らしいか見て見たいと。
「そろそろ、私も話に混ざって良いかしら。貴方、非呪術師よね。横にいる呪霊？……違うわね、肉体があるわ。その子だけじゃ私達に勝てないわよ。素直にそこを通してくれるのなら見逃しても良いわ」
「確か、冥冥さんでしたね。私は、サイバーダインシステムズで「呪霊ＧＯ」の開発運営をしております義善聖徳と言います。貴方の要望ですが、お断り致します。私は、この場からくる侵入者を妨害する仕事を請け負っております」
２Ｂは、特別製であった。呪胎九相図のクローンを利用して、肉体を持った呪霊。つまり、彼女は人間と子をなせる存在だ。そして、義善の生涯のパートナーでもある。全国数百万を超える「呪霊ＧＯ」のプレイヤー達が夢にまで見た存在が既に実在している。
『義善、彼女のデータはありますが分が悪い』
「でしょうね。冥冥さん、逃げるのなら追いません。私の仕事は侵入者を防ぐ事」
義善聖徳の影の中に収まっていた呪霊達が全てはき出される。
漏瑚（シノブ）の特級クラスのバックアップ。
花御（カシマ）の特級クラスのバックアップ。
陀艮（ルルイエ異本）の特級クラスのバックアップ。
特級呪霊コッコロ。
特級呪霊ジャンヌダルク・オルタ。
一級呪霊ライザリン・シュタウト。
そして、特級クラスの２Ｂ。
おまけで、特級呪霊真人の劣化分身。

まさに、特級呪霊のバーゲンセール状態だ。これだけの特級を同時に相手にして勝利する事が出来たなら、五条悟に次ぐ最強の称号が貰えるだろう。
「姉様！」
「分かっているわ、憂憂。虎杖君、ここは私が引き受けるわ。貴方は、上に上がって五条悟が封印された事を伝えてきなさい」
実に大人の判断だ。損得勘定的に割が合わないと判断した冥冥。命を賭けたとしても全ての特級クラスを祓える可能性は低い。しかも、祓えたとしても無償労働だ。
つまり、ここが引き際。
「分かった……絶対に死なないでくれよ」
「ええ、勿論よ」
虎杖悠仁は、冥冥からの命令に従う。今やるべき事は、何が大事か。彼は冥冥を残して来た道を戻っていった。そして、動物の目を通じて、外に出たことを確認し冥冥は行動を開始する。
「優しいのね。何もせずに待っていてくれるなんて」
「別に、侵入者を殺す約束はしていない。で、虎杖悠仁君が外に出るまで待っていたと言う事は、楽しいお話があると思って良いのですか？」
現状、五条悟が封印された。呪術師側の状況は悪いと言える。更に言えば、この状況になっても自衛隊が動かないし、大企業が介入している状況だ。冥冥は薄々思っていた事に確信を得た。
日本政府は、呪術師より呪霊と手を組んだと。ならば、自分が一番高値で売れる時に売り込むのは当然であった。
「ええ、夏油君とはビジネスパートナーと言ったわね。私も一枚噛ませて貰えないかしら。損はさせないわ」
「勿論。ですが、〝縛り〟は結ばせて貰いますよ。まずは、弊社との専属契約についてお話しましょう。安心してください、呪術業界より条件は格段に上だと自負しております」
冥冥と憂憂、この時をもって呪術業界から足を洗う。そして、新しい身分を手にした。サイバーダインシステムズの専属呪術師という

真っ白な立場。

３８．渋谷事変（８）

世の中、完璧という物は存在しない。
それは、封印において類を見ない性能を誇る獄門疆でも同じである。獄門疆の特性は、何でも封印できる。内部は時間的な概念が存在しない。外部から開門するか、封印されている物が自死しない限り開かないとされている。
それ以外に、強引に開門する方法と裏口を使う方法が存在する。
だが、もう一つ開門方法が存在している。それは、想定外のエラーを発生させる事だ。獄門疆の定員一名。つまり、二人は中に居られないという事だ。
□□□
五条悟は、封印された獄門疆の中で「呪霊ＧＯ」のプレイヤーから巻き上げた落とし物…モンスターホールを手の中でクルクル回していた。
「確か、このボールの中に呪霊が取り込まれてた。まったく、僕が知らない間に面白い道具を作るよね。あの企業は」
ゴクリ
五条悟の喉がなる。
つまりだ。何もない閉鎖空間。敵側の言葉が本当なら数百年後には解放してくれる。孤独というのは人間辛いものだ。世界最強の呪術師とはいえ、精神は人間の域を出ない。
だが、不幸中の幸いな事に手元にあるボールの中には、特級呪霊ライザリン・シュタウトの分霊が納められている。よって、ここで解放すれば、二人っきりという事だ。何か間違いが起こったとしても誰も責める人もいない。
「開けるべきか、開けないべきか」
船が沈没し、無人島に流れ着いた一組の男女が居たとしよう。
無人島なら生き残る為、生活基盤を必死に整える必要がある。だが、時間的な概念が存在していない獄門疆の内部では、空腹などの心配は無い。よって、このような状況で一組の男女が居た場合、ナニが

発生するか、誰も分からない。
「ここは、世界最強の呪術師として、経験しておく必要があるね。今後の為にも」
五条悟…好きな女性のタイプは、安産型のムチムチした女教師が似合う美少女。
性癖が特別曲がっているわけではない。現実にライザリン・シュタウトのような存在がいたとする。１００人の男性がいたら何割かは好みのタイプと答えるだろう。
「外のことは心配だけど。まぁ、何とかなるでしょ。では、ポチっとな」
……
……
…
五条悟、モンスターホールのボタンを押した瞬間、獄門疆の外に押し出される。
そして、元親友、特級呪霊漏瑚（シノブ）、特級呪霊真人、脹相（ちょうそう）を目の前にし、お互いが何が起こったか理解できないでいた。そして、こそこそと後ずさりをして距離を取る特級呪霊ライザリン・シュタウト。
特級呪霊ライザリン・シュタウトだけは、こうなるだろうな～と薄々思っていた。五条悟が住んでいる賃貸の一室を無償で借りて、同棲している身の彼女。理不尽な存在である五条悟がこの程度で終わるはずが無いと思っていた。
結果、その予想通り。
『ふ、ふざけるな！この何処が獄門疆の封印が完璧だというんじゃ』
『こりゃ、全滅かな～。勝ったと思ったんだけどな～』
「ちっ、これだから貴様等に手を貸すのは嫌だったんだ」
「いやいや、封印は間違いなく完璧だった。悟、どうやってでてきたんだい？」
五条悟の封印に成功したと思っていた特級呪霊側。だが、封印されたと思った五条悟が目の前にいる。しかも、超至近距離だ。どう考えても領域展開で全滅する未来しか残っていない。

会話で時間を稼いだとしても、絶望的であった。
『悟さん、何でもしますから許してください』
「僕を裏切っておいて都合が良いこというね。でも、何でもするなら許してあげるよ。ちょっと、こいつ等全員祓うから待ってなよ。特にメロンパン野郎は念入りに殺す」
五条悟の封印失敗時点で、呪霊側の勝利はなくなった。特級呪霊ライザリン・シュタウトは、セカンドプランの実行を決意する。
「酷いな～。まぁ、中々楽しめたし、こんな終わりもあっていいか。で、最後にどうやって獄門疆を出てきたか教えてくれないかな。それが気になって死んでも死にきれないよ」
「中で、呪霊が封じられたボールを開いたら出られた。じゃあ、後は地獄で後悔しろ―領域展開」
夏油傑は、理解した、
あの頭の良い馬鹿達が作り上げたモンスターホールという人造呪具。まさか、定員一人という特性を使って出てくるなど想定外だった。人間と手を組むことでスムーズに進んだ計画だが、最後の最後で人間が作った道具で全てが瓦解する。
……
……
…
義善聖徳は、冥冥を引き入れたため、夏油傑が居る場所まで戻ろうとしていた。
だが、想定外の事態が発生する。
特級呪霊の分霊達から、本体が死んだと報告が上がった。五条悟が封印された状態で、あれほどの戦力を殲滅出来る存在など同じ特級呪術師しか不可能だ。
だが、その特級呪術師達も渋谷事変発生時の位置は彼も確認している。どう頑張ってもこの時間に間に合うはずはなかった。
「つまり、五条悟が自力で出てきたと。いや～、全く規格外ですな。ライザの本体が死んでいない事をみるに、交渉の余地はあると思って宜しいですか？五条悟さん」

義善聖徳が進む線路の先から、五条悟と特級呪霊ライザリン・シュタウトが現れた。
「五条悟？知らない人だな。僕は、五条優（すぐる）というんだよ。喜べ、僕がお前達に雇われてやる」
「……条件は？」
五条悟、自身が封印されたという情報が呪術業界に伝わったことを良いことに姿をくらます予定でいた。もう、呪術業界は下火となった。乗り換えるなら今しかない。
「五条家の保護、呪術業界の腐った蜜柑掃討、特級呪霊ライザリン・シュタウトの完全譲渡が最低条件だ。後は、ライザにも２Ｂ同様に受肉体にしてもらおう。出来るんだろう？」
「お安いご用です。全ての条件を飲みましょう。肉体は、アンブレラ・コーポレーションに用意して貰わないといけないので少し時間をください。しかし、五条さ…いいえ、優さんが、呪術業界を見限るとはね」
「上は腐っているし、業界的に下火だったからね。良くも悪くも君達のおかげで、呪霊と人間の関係が変わった今、数十年も先がない業界だ。それに、僕だって男で当主だよ。家や後継者の事も考えないといけない」
呪霊達のバックアップも結果的に１００年後の荒野で呪霊が人間として立っていればいいと思っているので、五条悟と闘わずして済むならそれで良しとした。そもそも、五条悟がこんな簡単に味方になるなら、最初からソッチ路線で攻めるべきだったのではと後悔する。

閑話～渋谷事変Ａｆｔｅｒ～

渋谷事変……歴史に残る大事件となった。

翌日の日経平均は過去最大の下げ幅を記録する。自然災害を除けば、戦後最大の死者と行方不明者をだした大事件だ。安全神話が崩壊し、数年は観光業にも多大な影響を与える事は間違いなかった。

日本政府は、呪術師と呪詛師の争いに一般人が巻き込まれた事を強く非難。更には、一般人を見捨てるような会話ログまで発見され、呪術業界は責任を追求されていた。

五条悟という一人で日本人を皆殺しに出来るような特級の存在が、封印され生存不明の状態だからこそ、日本政府も強く出る。気まぐれの人間核兵器が居ないからこそ、今までの政府担当者も鬱憤晴らしをしている。

そんな政府と呪術業界とのやり取りを安全地帯から楽しく観戦する者達がいる。

「生徒達への連絡は、宜しいので？」

「大丈夫、大丈夫。ちゃんと、封印はフェイクって連絡済みだよ。恵なら、きっと意図を理解してくれるはず。それより、ここ凄いね～。人造呪具、仮想特級怨霊…呪術業界がしったら間違いなく特級呪術師が派遣されるね」

五条悟は、サイバーダインシステムズの最奥へと足を運んでいた。そこは、夏油傑一派の隠れ家にも使われていた場所で、雲隠れするには理想的であった。表の情報も裏の情報も、ここに集まる。

「いいえ、私も一年生達の心配はしていません。気にしているのは、日本に帰国した乙骨憂太の方です。事前調査では、我々の技術提供を前提にコチラ側に引き込めそうですが……」

「いいよ。僕が電話で呼んであげる。事情も知っているようだし、交渉は君の方でしなよ。で、いつ僕との契約を果たしてくれるんだい」

今や三人となった特級呪術師。五条悟というトップが企業側に鞍替えした今なら他の特級達も雇用したいと考える義善聖徳。だが、呪術業界とて、追い詰められれば何をするか分からない。よって、特記

戦力は可能な限り削いでおきたいというのが本音だ。
　五条悟相手に、ワンチャンできる存在など恐ろしい他ならない。
「ご安心ください。特級呪霊にまで育て上げたクマムシを5体用意しています。いつでも、航空自衛隊を使い、空から投下可能です。呪術業界の上層部は、陰湿な連中ばかりで助かりました。人気が少ない場所をねぐらにしているので」
「うんうん。あの呪霊なら大丈夫だね。でも、そっちじゃないんだよな～」
　五条悟は分かっているだろうという視線を義善聖徳に送る。
　義善聖徳と五条悟の約束は、大きく三つ。五条家の保護、呪術業界の腐った蜜柑掃討、特級呪霊ライザリン・シュタウトの完全譲渡。
「五条家の保護でしたね。安心してください。弊社では、呪術を科学的に研究する部門を新たに設立する事が決定しました。五条家の方を優先的に雇用致します。雇用に関する詳細は後日お送り致します」
「あぁ…うん。そうだね、家の事も大事だけどさ。ほらほら～、分かっているでしょ」
　五条悟による渋谷平定失敗による責任を呪術業界から真っ先に押しつけられそうになった五条家。だが、既に五条家の者達は政府保護下にあった。
「あぁ～、ライザですね。アンブレラ・コーポレーションで肉体を用意しておりますので、見学にいかれますか？　先方の担当者は……会ってからのお楽しみにしましょう。五条さんというか、日本人で彼女を知らない人は居ないほどの有名人に会えますよ」
「ふ～ん、誰が来ても僕は驚かないけどね。あ、優太もこっちにくるって」
　五条悟、先方の担当者に会い驚愕する。「どんな、若作りだよ」と余計な一言をいい、反転術式を使わなければ死ぬほどの重傷を負わされる。

３９．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（１）

呪術業界を揺るがす渋谷事変後、業界は大改革された。
呪術業界の御三家が見事に三分割される。
呪術業界を離脱して政府保護を受けサイバーダインシステムズ傘下に収まった五条家。
五条家が抜けた事でその空白となった地位と権力を手中に収め、事実上、呪術業界トップの禪院家。
企業と呪術業界を繋ぐ架け橋という名の美味しいどころ取りをしている加茂家。
その裏では、各家のトップが繋がっている事を知る者は少ない。その為、持ちつ持たれつの関係が出来上がっていた。ある意味、理想的である。

□□□

そんな御三家の事情など関係ない呪術師にとっては、雲の上の存在達の事情などどうでも良かった。一番大事なのは、どの傘下に収まる事が結婚に繋がるかである。
呪術師という希少な才能に恵まれたが、異性に恵まれない者達は多い。見えない物が見えると言うだけで、異性が離れる事は多々ある。特に、女性呪術師の場合は、異性が逃げ出すことが多い。
人間戦車の代名詞とも言える呪術師を相手に夜の生活など現実的にできるはずもない。女性呪術師ともなれば、力を込めれば蓋の開いていないスチール缶をねじ切る事も容易い……男性のムスコを納める場所で。
無論、力んだ場合など条件は付くが、事の最中にクシャミ一つで男性のムスコが永遠にお別れの可能性がある。そんな悲惨な事件が毎年何例もある。その度に呼び出されるのが、反転呪術式が使える家入硝子。彼女が何時もクマを作るほど忙しいのは、全国の女性呪術師にこんな下事情で呼び出されることが起因している。

つまり、女性呪術師の結婚相手は、呪力で大事な所を強化できる男性呪術師しかありえない。
だが!!
昨今、サイバーダインシステムズが「呪霊ＧＯ」をリリースしたことで男性の欲望を具現化したような美少女呪霊達が大量に出現した。その結果、大量の女性呪術師達が喪女となる。
その鬱憤が爆発寸前となり、今にも全国の喪女と化した女性呪術師達が立ち上がろうとした時、サイバーダインシステムズが「呪霊ＧＯ」で初の男性呪霊を発表した。
「特級呪霊藍染惣右介ね～。ふ～ん、まぁ、呪術師として安全確認は必須よね」
３級の女性呪術師は、携帯端末で口座の残高を確認する。
既にネット上では、低級呪霊藍染惣右介を入手情報を高額買取、現物なら応相談という情報もあった。勿論、喪女が集う専用の情報交換サイトだ。
中には既に捕獲して『私達結婚しました』と幸せそうな画像をアップしている者もいる。少し前まで仲間であった者だが、裏切り者認定される。そんな一足先に幸せを手に入れた女性呪術師は、呪術師達の呪いでトイレの住人だ。
「お布施は、礼儀よね」
ポピーン
ポピーン
…
ポピーン
男性と女性では、嵌まった時のレベルが違う。後がない女性呪術師の重課金レベルは並みではなかった。無駄に金だけはある彼女達を舐めてはいけない。
新呪霊実装をした「呪霊ＧＯ」の課金ランキングは、日本ランキングではなく全世界のアプリ課金ランキングのトップ３位に食い込んだ。
……

……

…

翌日、低級呪霊藍染惣右介の目撃情報が入る。

過去に非呪術師から低級呪霊花御（カシマ）や低級呪術霊ライザリン・シュタウトが強奪された事は、有名だ。つまり、過去の事例から非呪術者からなら呪霊を除霊という名目で奪っても罪にはならないという事が実証されている。

それも、五条悟の元生徒であり、禪院家の相伝呪式を継承し、加茂家の次期当主とも仲が良く、領域展開まで取得している程の模範的呪術師がそれをやったのだ。他の呪術師がやって罪に問われるはずもない。

「これは、生存競争よ！」

女同士の争いほど醜いものはない。男性と違いスマートさが欠ける。ドロドロの泥仕合が始まろうとしていた。

４０．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（２）

婚期を逃し、後がない喪女呪術師達。サイバーダインシステムズを親の敵の如く恨んでいたが、今となっては華麗な手のひら返し。少しでも好印象を持たれようと、無駄にため込んでいたお金をアプリに散財する。

彼女達は決戦に挑む。

彼女達が集結したのが京都。歴史あるその場所は、呪術師達にとっても馴染みのある場所だ。つまり、職業柄、京都という場所は女性呪術師達にとっても庭みたいな場所であった。よって、目的の男性呪霊を確保するのはスピード勝負。

今の喪女呪術師達のやる気から考えても、男性呪霊が拉致監禁されるまで三日と掛からないだろう。早ければ、二四時間以内に決着が付く。

『お客様にご連絡致します。変電施設にてトラブルがあり、復旧するまで今暫くお待ちください。なお、復旧の目処は現在未定となっております。お客様には、大変ご迷惑をおかけして申し訳ございません』

３級の女性呪術師は、朝一番の新幹線で目的地に向かっていたが足止めを食らう。そして、理解する。日本において、新幹線が遅延するなど珍しい事だ。それに、タイミングが良すぎる。

「ちっー・ここまでやるか、普通」

思わず舌打ちし、頭を抱える女性呪術師。

このトラブルは、人災。

彼女としては、到着してからのゴタゴタは想定していた。だが、相手の方が一枚上手であった。移動手段を妨害し、現地での争いを回避する輩がいるとは考えてなかった。

あの渋谷事変以来、政府はアンブレラ・コーポレーションとサイバーダインシステムズの二社に国の重要設備の物理的及び霊的な防衛を依頼した。二度と同じような被害を出さないため、国家の威信を

掛けている。その度合いと言えば、防衛に際し二社に対して超法的措置が認められており、殺人についても黙認される事になった。
だから、余程の馬鹿でも無い限り手を出そうとは思わない。手を出せば、人権が保証される事はないのだから。
恐い物見たさの馬鹿な呪詛師や呪術師が何人も闇に葬られている。彼女が知る噂話だけでも、アンブレラ・コーポレーションが新開発した呪霊にも対応可能な生物兵器タイラントモデルの材料にされているとの事だ。
つまり、命を賭けてこの戦いに挑んでいる呪術師は信用できない。いつ寝首を掻かれる不安を背負うならば、いない方が安全だ。
だから、頼るのは信頼がおけて裏切らない人物だ。彼女が選んだのは、最善の選択肢…身内だ。見知った番号に、彼女は電話をする。
『ワタシワタシ。アンタのホームグラウンドは、奈良だったでしょ？ちょっと、手伝いなさい』
『姉貴か。時期的に考えて、アレだよな。正直、巻き込まれたくないんだけど。男より女の方がこう言う場合、陰湿でこえーから』
彼女も弟の言う事は十分理解していた。だが、それでも巻き込むと心に決める。
『ギブアンドテイクよ。私の術式を使ってあげるわ。それに、アンタにはジャンヌダルク・オルタもいるんだし、そうそうやられないでしょう。危なくなったら逃げても良いわ』
『姉貴の術式か、その話のった!!　頼りになる仲間も連れて行ってもいいか？そいつ等なら俺と同じ報酬で多分動く』
彼女が持つ術式、糞ほど役に立たない術式であった。だが、近年その利用価値が大きく変わっていた。『〇〇しないと出られない部屋』を作る事ができる彼女。価値が分かる人間が聞けば、絶対に保護下に入れるだろう。

彼女の弟は、数年前まで二級呪術師を燻（くすぶ）っていたが、女性型の呪霊と巡り会う事で全国を回り救われない子供達を救う業界の有名人にまで成長した。何より、ジャンヌダルク・オルタを業界最速で手に入れて、美少女呪霊と世直しの旅をするとかロマン過ぎる。更には、『感度１００倍』にする術式も保有している事が公になり、羨ましすぎて何度暗殺されかけたか分からない男であった。

◇◇◇

『〇〇しないと出られない部屋』の術式を持つ姉、『感度１００倍』の術式を持つ弟。こんな姉弟に恩が売れる機会があって、動かない男性呪術師は少ない。それも、美少女呪霊を既に手にしている男達ならば、言うまでも無い。

彼女の元に、電話をして僅か２０分後に謎の迎えが新幹線に現れた。最寄りの駅すらない立ち往生している新幹線に迎えが到着するなど彼女は想像できなかった。おまけに、来た人物が想像の遙か斜め上を行く人物であれば、驚くのは当然。

弟の人脈がちょっとばかり恐ろしいと感じでしまう程だ。

「はーい!!弟君からの依頼で来た優っていう呪術師だよ」

「……あの、渋谷の一件で封印されたとか有名な人じゃ～」

「良い質問だね。世の中、似ている人間が三人はいるんだよ。いいね？　僕の事は、五条優と呼んでね。なーに、僕は最強だから、確実に男性呪霊を手に入れるまでサポートするよ。京都には、君に恩を売りたいって人達が待っているから大船に乗ったつもりで良いよ」

この日、五条家、禪院家、加茂家の当主ソックリさんが、京都で目撃される。渋谷事変に迫る大事件が発生するのではと、勘違いされる戦力が揃った。

４１．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（３）

歴史ある京都。日本が世界に誇る自慢の観光地だ。１０を超える世界遺産が密集する希有な場所。それ故に、国内外から毎年多数の観光客が訪れる。一般人達が観光を楽しむなか、裏では地獄絵図が出来上がりつつあった。

人目が付かない路地裏では、此度の戦に敗れた女性呪術師がゴミ箱に頭を半分埋められている。生存こそしているが、リアル犬神家の一族となっており、身分証と共にＳＮＳでさらし者にされている。

行かず後家に拍車が掛かる行為を平然と行う鬼畜外道集団。そんな、悪魔のような連中に文字通りタマを狙われる男性呪霊。その男性呪霊の容姿がゴミならば、同情の声もあっただろう。

「ちっ！外れね」

女性呪術師は、援軍によって倒された呪術師の持ち物を探した。だが、何の手がかりもなく舌打ちする。

全くもって酷い話だ。日本における、呪術業界の御三家当主達を顎で使い。京都で屯って居る喪女呪術師達を闇討ちして回っている。そんな様子を呆れた顔で見る元東京校の生徒達。

しかし、呪術高専の彼等も荒事や理不尽な仕事にも随分と慣れたものだ。

渋谷事変以降、彼等の周囲は一変した。元々、バッシングが強かった。用途不明の税金がジャブジャブ使われていた謎の宗教系の学校。それに加え、渋谷事変は呪術師と呪詛師のイザコザが原因で大量の死者が出たと正式発表される。

その正式発表には、美少女呪霊が呪詛師に騙されて強制荷担させられて、排除されるという悲惨な事件でもあったと。そもそも、日本の美少女呪霊の今までの功績を考えれば、彼女達が悪いなどと言う事にはなりえない。日本が抱える多くの問題解決に貢献している。近々、正式に国籍及び人権等に相当する霊権なるものが真剣に協議されつ

つある。
　医療問題、領土問題、人口問題、国防問題、学力問題、引きこもり問題、介護問題など多岐に渡る貢献は伊達じゃない。
「で、どうする五条。儂の家の者達を総動員してもいいが、目立ちすぎるだろう」
「『呪霊ＧＯ』のアプリ情報だと近くには居るみたいなんだけどね。まぁ、僕の生徒達が周辺も捜索しているから時間の問題でしょう。それに、いざとなれば奥の手も使うし」
　そんな、凶悪な狩人から隠れるようにし、男性呪霊はヒッソリとＨＯＴＥＬの一室に隠れていた。
◇◇◇
「呪霊ＧＯ」にて初めて実装された男性呪霊…藍染惣右介。特級呪霊として恥じない能力を有し、完全催眠という能力で五感すら支配可能。
　だが、呪術!!
　つまり、効力は呪術の範疇を超えられない。よって、呪力を持って防げるし、催眠解除も不可能ではない。故に、既に世に放たれている特級呪霊達からすれば、完全催眠など脅威にならない。格下相手ならば、有利に立ち回れる能力だが同格以上ならば、よっぽど弱体化させない限り効果を発揮できないからだ。
　例えば、完全催眠の能力を行使している間に、火力で周辺を押しつぶせば、本体ごと潰すのは容易い。
　だからこそ、特級呪霊藍染惣右介は自分の限界を悟った。世の中には、勝てない存在がいると。そして、素直に分霊を生み出して、喪女達から金を巻き上げる仕事についた。
　だが、一つ誤算があるとするならば、喪女の餌となる分霊達だ。産みの親とも言える特級呪霊が、安全地帯で優雅な生活を送っているのに引き替え、分霊達は喪女達に食われる。
　分霊達は、自身が置かれている立場に納得はしていない。呪霊だからこそ徐々に力を付けていずれは、己が特級呪霊へなりあがる。そして、優雅な生活を手に入れると!!

彼等藍染惣右介の分霊達の反逆が始まる。反逆に向けての第一歩は、戦力集め。分霊が目を付けたのが人間……特に、女性呪術師だ。勿論、他の特級呪霊の分霊も仲間に引き入れたいと思っていたのだが、美少女呪霊の周りは異常なまでの防衛力を誇っていた。

だからこそ、人間が第一目標！

『人間と呪霊。相反する存在。本来であれば、この両者の間に子が産まれる事は極めて希だ。だが、私の完全催眠が君の五感を支配し、影響を与える事で子を孕ませる体質に変質させる事も可能だ……時間と運が絡むがな』

「くっ、呪霊になんかに屈しない」

自称、男性呪霊に捕まった喪女呪術師。

真っ当な感性を持っている男性呪霊は、この状況を正しく理解していない。呪霊の子を喜んで孕もうとしている猛者がいる事など想像すらしていない。ファンタジーで例えるならば、ゴブリンやオーガの子供を産むのと等しい行為だ。

だというのに、何故か興奮気味で待ち構える喪女呪術師に困惑していた。

『どこかで聞いた台詞だと思えば、先日ＮＨＫ大河ドラマで似たような台詞を聞いたな。自分の言葉で物事を語れないなど、弱く見えるぞ』

「呪霊って案外暇なんですね・・・じゃなかった!!　そういう、貴方こそ早く私を解放しなさい。呪霊なんかの、粗末なモノなんかに屈しないんだから。ざーーこ、ざぁこ」

今か今かと待ち浴びる喪女呪術師。だが、彼女は焦らない。

『ふっ、私が雑魚だと。その強気がいつまで続くかな。これから君には恐ろしい体験をして貰う。君が私の子を宿し……私（特級呪霊）への反抗に手伝いをしてもらおう』

「……ちなみに、本当に妊娠するのよね？」

『その通りだ。まさか、冗談だと思っていたのか。勘違いも甚だしい。一体、いつから妊娠しないと錯覚していた』

じゅるり

恐怖という感情を見たかった男性呪霊は、逆に恐怖を覚える事になった。火が付いた喪女がどれだけ恐ろしいか。婚期を逃し、年齢的にも出産が厳しい状況を解消してくれる男が今目の前にいる。

自らの行動が全て墓穴を掘る形となる男性呪霊。この状況をＨＯＴＥＬの隠しカメラがしっかりと捉えており、サイバーダインシステムズ社で特級呪霊藍染惣右介は優雅に視聴していた。

４２．特級呪霊藍染惣右介～一体いつから妊娠しないと錯覚していた～（４）

誰かが言った…出しているときが一番隙があると。

呪霊であっても、例外ではない。呪力が漏れないように細心の注意を払ったとしても、出すという行為と同時に呪力が漏れる。そんな僅かな呪力を察知できる呪術師など数は少ない。

だが、この京都…特に、本日この場に限っては例外であった。

『も、もう許してくれ。五回目だぞ』

呪霊といっても男性型である。つまるところ、下半身の機能もそれに準じる。むしろ、五回も出来た事を誇ってもいいレベルであった。だが、残念な事に喪女の精力は、それを遙かに凌駕する。

世に産まれたばかりの男性呪霊の技術では、歴戦の喪女を満足させるには至らない。これが逆の立場なら話は違っただろう。

「がんばれ！がんばれ！」

喪女呪術師がエールを送るが、その効果は既になかった。回数が少ない時ならば、奮い立たせる事もできた。だが、相手の底なしの精力を前に男性呪霊は既に絶望をしていた。

捕食していると思っていたら、逆に自分が捕食されている事にようやく気がついたのだ。そんな男性呪霊は、救いを求めた。

『誰でも良い、この女から助けてくれ』

◇◇◇◇

捨てる神が居れば、拾う神もいる。

だが、拾われた先が今より待遇が良いとは限らない。世と同じく転職して成功するとは限らない。大体の場合は、今より待遇が悪くなる。

五条悟率いる強襲部隊が、Ｌ○ｖｅＨｏｔｅｌに突入し、神聖な儀式が行われている部屋の前で一同が待機していた。

「なぁ、先生……呪術師じゃなくて、呪霊の方が悲鳴を上げているんだけど」

「だから？　僕には関係ないかな」
　京都まで出張してきて、不倫現場を押さえるような仕事。そんな仕事に高校生を動員するのは、倫理観が疑われる。だが、呪術師に倫理観を問うこと自体が間違いである。そもそも、彼等の同級生には美少女呪霊を手に入れるため、除霊という名のＮＴＲを平然と行う男もいるのだから。
　３級女性呪術師の能力…『〇〇しないと出られない部屋』の術式。その本発揮が出来る場所こそＨＯＴＥＬであった。発動するためには、対象二人に触れなければならない。つまり、一瞬でも彼女が低級呪霊藍染惣右介に触れれば、そこで試合は完結する。二人だけの空間が生成され、手出しできなくなる。
「私が藍染惣右介を確保するから、貴方達は女性呪術師の排除をお願いね。３，２，１で突入するから失敗するんじゃないわよ。失敗したら、男同士に対して私の術式使うからね」
　その言葉に、御三家の当主達だけでなく呪術高専の生徒も顔を見合わせる。笑えない冗談であった。そう言うプレーは異性とするから楽しいのであって同性でやるなど、地獄絵図でしかない。
　五条悟も眼帯を取り、気合いを入れる。
　３級女性呪術師を先頭にして、部屋に突入!!
「……だ、誰も居ない!!　いや、だけど気配は確かに。逃げられた後か」
　部屋の中には、確かに栗ノ花の匂いが残っており、ベッドの上にはそれらしき液体もあった。だが、同時に窓が解放されている。
「まさか、儂等が騙される事になるとはな。五条悟も耄碌したな」
「……なるほど、先ほどの悲鳴も完全催眠という奴かな。でも、既に見つける算段は付いているから問題無い。実は、試してみたいコンボがあったんだよね」
　五条悟が釘崎野薔薇の持ち物である藁人形を無造作に受け取る。そして、ベッドの上にあった、液体をタップリと塗り込んだ。
「待て待て待て!!　乙女にそんな汚い液体が付いたモノに対して共鳴りをやれっていうのかよ」

「ハハハ、その通りだよ。でも、少し違うかな。弟君の感度１００倍術式をあわせれば、もう無敵の術式になると思うんだよね。下手したら僕にだって有効だよ」
　大事な事だが、３級女性呪術師の弟が使う術式……感度が上げられるのは性感度のみ。痛覚などを増幅させる事には至っていなかった。だが、この場合効果があるかと言えばある。ヌルヌルした藁人形を手で上下運動する事で効果はあるだろう。
　絵面は最低だが。
　一人の女性の尊厳がなくなる事で得られる効果は絶大であった。
「じゃあ、早めにお願いするわ。遠くに逃げられると厄介だから」
「嫌に決まってんだろ！　あんなのに触ったら、私もアンタみたいに行き遅れになるわ」
　男前である釘崎野薔薇が断固拒否する。栗ノ花の匂いがする液体がついた藁人形をシコシコするだけの簡単なお仕事だというのに。
　だが、３級女性呪術師は諦めない。
「ここにキャッシュで、３００万あるわ。貴方が自分の仕事をすればコレは貴方のモノよ」
「…や、やるわけないだろう」
　釘崎野薔薇は、この程度の金額では折れなかった。
　だが、この場には日本が誇り呪術業界の御三家当主様が揃っている。
「けちくさいね。じゃあ僕は、５００万出すよ」
「禪院家は、８００万だそう」
「加茂家は、１０００万」
　積まれる大金。一学生が一回の仕事で手に入れられる金額を大幅に超過している。しかも、命の危険などない安全な仕事でだ。ほんの少し、女性としての尊厳を失うだけで数千万が一瞬で手に入る。
　この金の魔力に逆らえる者などそうそう居ない。
「先生もみんなもしっかりしてくれよ。文字通り釘崎の手を汚さないでもみんなで探せば、また見つかるって」
「虎杖!!　お前は、プロ意識が足りない。依頼を受けた以上、そんな些

細な問題に我が儘が通せるか」
釘崎野薔薇の眼に＄の文字が浮かんで見える。先ほどまでとは打って変わり、やる気十分であった。金と尊厳を天秤に掛けて金の方に傾いた結果だ。コレが大人のやり方である。
その様変わりした様子に虎杖悠仁も脱帽した。折角、味方したのに裏切られたのだ。
「釘崎〜、お前本当にそれでいいのかよ」
「いいんだよ！女は度胸だって何時もいってんだろう。……芻霊呪法共なり、共鳴り!!」
その瞬間、隣の部屋から男性呪霊の聞きたくもない絶叫が響き渡った。
「聞こえていた悲鳴はブラフで、さり気なく隣の部屋に隠れてやり凄そうとは汚いわね。完全催眠も効果が薄いみたいだけど使い方次第という事ね。さぁ、確保に行くわよ。事が済んだら、約束どおり私の術式をいつでも好きなときに使ってあげるわ。回数制限を設けるなんてけちくさい事はしないから、今後もしっかり私と弟を守ってね」
『〇〇しないと出られない部屋』の術式と『(性)感度１００倍』の術式には、それだけの価値があった。特に、男達にしてみれば、重宝するしかない能力である。
……
……
…
『呪霊ＧＯ』で初実装された男性呪霊……野に放たれると直ぐに喪女呪術師達に捕獲され、幻のポケモン的な立ち位置になる。そんな呪霊の中には、野心を早々に捨てて、自ら娼館を開き、オーナー兼従業員として着々と力を蓄える知恵者も現れる。
大多数が幸せになる世界が実現し、真の恒久平和が訪れる日も遠くは無かった。人類全てが呪霊とハーフとなった日、人類は新しい時代を迎えることになる。